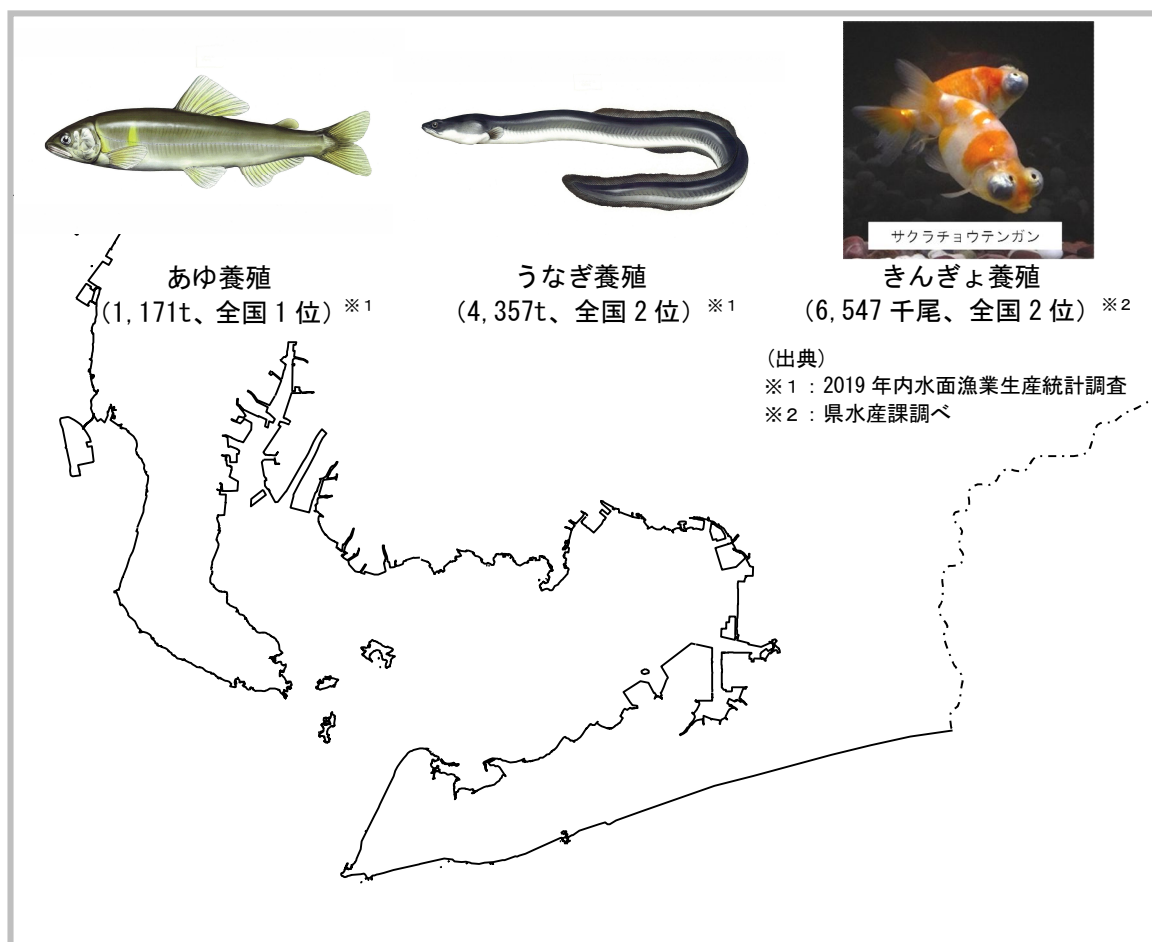


水産業の動き

2021



食と緑の基本計画 2025 の施策体系

食と緑が支える県民の豊かな暮らし

《柱1：生産の柱》持続的に発展する農林水産業の実現

(1) 意欲ある人材の確保・育成

- ア 農業を支える多様な人材の確保・育成
- イ 林業を支える担い手の確保・育成
- ウ 水産業を支える担い手の確保・育成

(2) 生産性の高い農林水産業の基盤を作る取組の充実

- ア 新技術・新品種の開発と普及
- イ 農林水産業を支える生産基盤の整備と環境づくり
- ウ 産地の体制や生産設備の強化
- エ 食の安全・安心の確保

(3) 新たな需要を創造し持続可能な農林水産業の実現

- ア マーケット・インの視点に立った生産・流通の改善
- イ 農林水産物等に関する国内外での需要の開拓
- ウ 環境との調和に配慮した持続可能な農林水産業

《柱2：暮らしの柱》農林水産の恵みを共有する社会の実現

(1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

- ア 県産農林水産物への理解を深める取組の推進
- イ あいちの農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供
- ウ 幅広い世代に対する食育の推進

(2) 災害に強く安全で快適な環境の確保

- ア 農山漁村の強靱化に向けた防災・減災対策
- イ 快適な生活環境の確保
- ウ 暮らしを支える森林・農地・漁場の整備・保全

(3) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山漁村の実現

- ア 地域の特性に応じた農山漁村の活性化
- イ 多面的機能の持続的な発揮につながる活動の推進

はじめに

伊勢湾・三河湾は、古来より魚介類の宝庫として知られ、我々の祖先も古くから、豊かな海の恵みを享受してきました。現在でも本県は、総生産量こそ全国中位ではありますが、多くの魚種において全国有数の産地となっており、沿岸域を中心に特色ある水産業が営まれています。

そして、多種多様な水産物を供給する本県の水産業は、豊かで健康的な日本型食生活の構築や食文化の継承など、県民の皆様の暮らしに重要な役割を果たしています。

しかし、水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、漁場環境の変化に伴う水産資源の減少や沿岸の各種開発に伴う漁場の喪失、就業者の高齢化や後継者不足等の諸問題に加え、近年では、海域の栄養塩類の減少による漁業生産力の低下も顕著となっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、水産物の需要が大きく低下しており、漁業者や漁業団体の経営は大変厳しいものとなっています。

こうした中、本県では2021年3月に「愛知県漁業振興計画」を策定し、将来に向けて本県の水産業が持続的に発展していくための必要な施策に取り組んでいくこととしたところです。

本書は、各種施策を効果的に実施するための基礎資料とするとともに、広く関係者に利用していただくため、県内水産業の動向を総合的にとりまとめたもので、1961年度から刊行を続けており、2010年度からは電子データで公表しています。

皆様に、本県水産業に対する理解を深めていただくとともに、水産業振興の一助としてご活用いただければ幸いです。

2021年11月

愛知県農業水産局長

主な統計用語の説明

1 漁業経営体

(1) 海面

漁業及び養殖業を含みます。調査期日（最新数値は2018年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るため販売を目的として、水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯または事業所をいいます。（ただし、年間の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除かれています。）経営体は、5年に1回の漁業センサスで調査されています。

(2) 内水面（養殖業）

調査期日（最新数値は2018年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るために内水面において販売を目的として計画的かつ持続的に投餌または施肥を行い、養殖用または放流用種苗の養成もしくは成魚を養成した世帯及び事業所をいいます。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

2 漁業就業者

海面漁業及び養殖業を含みます。調査期日（2018年11月1日）現在満15歳以上で、過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した人をいいます。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

3 生産量

(1) 海面

海面漁業漁獲量、海面養殖業収穫量の総称で、乗組員の船内食用、自家用、自家加工用、販売活餌等を含みます。全ての水産動植物の採捕時の原形重量であり、藻類は採捕時の生重量、貝類は殻付の重量です。

(2) 内水面漁業

河川・湖沼において採捕された水産動植物の量をいいます。本県の数値は、天然産種苗の採捕量及び自家用を含むほか、漁業権が設定されている全ての河川・湖沼における組合員・遊漁者の採捕量を含みます。一方、全国数値は2006年以降、販売を目的として漁獲した数量となり、2009年から、漁業権等が設定された年間漁獲量50t以上の河川及び湖沼並びに国の施策上毎年の調査が必要な河川及び湖沼（108河川21湖沼）に限定され、本県内の調査対象河川は主要河川（本県は4河川）のみです。なお、貝類の数値は内水面漁業生産統計調査の数値を用いています。

(3) 内水面養殖業

内水面養殖業経営体が食用を目的に収穫した量をいいます。自家用を含みますが種苗販売量は含めません。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。

4 産出額

調査で得られた魚種別生産量に、魚種別産地市場価格を乗じて算出したものです。生産者の手取価格ではなく、販売手数料、輸送費等の販売諸経費を控除せず、また歩戻しを含めない、いわゆる産地市場価格です。2015年度数値から、国の統計用語が「生産額」から「産出額」に改められました、内容は従前と同じです。

なお、内水面の産出額は2003年の統計から調査対象外となったため、県水産課が生産量と全国平均単価により推計しています。

5 水産加工品（加工水産品）

水産動植物を主原料（50%以上）として製造された食用加工品及び生鮮冷凍水産物をいいます。なお、2001年調査から生鮮冷凍水産物のうち海産ほ乳類及び塩蔵品等、並びに寒天、油脂、飼肥料の調査が中止されました。

記号

「-」：事実のないもの 「0」：単位に満たないもの 「…」 事実不詳又は調査を欠くもの
「x」：統計法の規定により、秘密保護上統計数値を公表しないもの

[水産業動向編]

目 次

1 愛知の水産業

- 愛知県水産業の主要指標 1
- 県内産業のなかの水産業 2
 - ＜主要な問題の解説＞本県水産業の全国位置 3

2 漁業経営

- 漁業経営体の動向 4
 - ＜主要な問題の解説＞漁業就業者数、新規漁業就業者数、漁家経済 . . . 5
- 水産業協同組合の動向 6
 - ＜主要な問題の解説＞沿海漁協の経営規模、漁業金融 7

3 漁業生産の基盤

- 漁船・漁港の動向 8
 - ＜主要な問題の解説＞漁船海難の動向と対策、海難の発生状況、
漁場整備事業、漁村活性化総合対策事業 9
- 漁場環境の動向 10
 - ＜主要な問題の解説＞貧酸素水塊と苦潮、総量削減計画、
下水道の放流水りん増加試験運転 11
- 資源保護増大の動向 12
 - ＜主要な問題の解説＞栽培漁業基本計画、資源管理型漁業の推進、
漁獲可能量制度 13

4 漁業生産

- 漁業総生産の動向 14
 - ＜主要な問題の解説＞漁業生産量の推移、漁業産出額の推移 15
- 海面漁業生産の動向 16
 - ＜主要な問題の解説＞魚種別漁獲量、魚種別産出額 17
- 海面養殖生産の動向 18
 - ＜主要な問題の解説＞2019年度のり養殖の概要 19
- 内水面生産の動向 20
 - ＜主要な問題の解説＞内水面漁業の振興策、内水面養殖業の振興策、
主要養殖業の動向 21

5 流通加工

- 水産物流通の動向 22
 - ＜主要な問題の解説＞水産物の輸入、水産物の消費 23

6 技術の開発・普及	
○試験研究の動き	24
<主要な問題の解説>	
弥富金魚の新品種「サクラチョウテンガン」の開発	25
7 時の話題	
○食と緑の基本計画2025及び愛知県漁業振興計画について	26・27
○漁業法改正に伴う新たな資源管理と漁業調整規則の改正について	28・29
○新たな養殖業導入実証事業について	30・31
○学校給食に県産水産物を提供しました	32・33
○大きくておいしいうなぎを作り出す技術を開発	34・35
[資料編]	36～62

1 愛知の水産業

愛知県水産業の主要指標

区 分	単 位	愛 知 県			全 国		備 考
		2014年	2019年	19年/14年	2019年	19年/14年	
海面漁業経営体(A)	経営体	(13年)2,348	(18年)1,924	81.9	(18年)79,067	83.7	漁業センサス
海面個人経営体(B)	経営体	(13年)2,261	(18年)1,849	81.8	(18年)74,526	83.3	漁業センサス
(漁家率B/A)	%	96	96	—	94	—	
海面漁業就業者数	人	(13年)4,319	(18年)3,373	78.1	(18年)151,701	83.8	漁業センサス
内水面養殖経営体	経営体	(13年)290	(18年)214	73.8	(18年)2,704	86.4	漁業センサス
漁 船 総 隻 数	隻	5,222	4,260	81.6	225,276	87.6	漁船統計表
海 水 動 力 船	隻	4,965	4,103	82.6	212,939	87.8	漁船統計表
海 水 無 動 力 船	隻	47	25	53.2	3,961	92.7	漁船統計表
淡 水 動 力 船	隻	93	73	78.5	5,795	84.4	漁船統計表
淡 水 無 動 力 船	隻	117	59	50.4	2,581	78.7	漁船統計表
漁 業 総 生 産 量	t	102,396	75,514	73.7	4,194,675	88.0	全国値には捕鯨を含まない
海 面 漁 業	t	80,949	59,934	74.0	3,228,025	86.9	
海 面 養 殖 業	t	14,906	9,744	65.4	913,775	92.5	
(のり生産枚数)	千枚	382,303	244,550	64.0	6,483,349	91.2	
内 水 面 漁 業	t	319	111	34.8	21,767	71.1	愛知県は県水産課調べ
内 水 面 養 殖 業	t	6,222	5,725	92.0	31,108	91.8	きんぎよは含まない
き ん ぎ よ	千尾	9,195	6,547	71.2	—	—	県水産課調べ(*1)
漁 業 総 産 出 額	百万円	38,182	40,888	107.1	1,467,559	97.6	全国値には捕鯨を含む(*2)
海 面 漁 業	百万円	16,735	15,873	94.8	868,400	89.8	全国値には捕鯨を含む
海 面 養 殖 業	百万円	4,525	3,516	77.7	480,202	108.1	
内 水 面 漁 業	百万円	441	262	59.4	16,362	92.3	愛知県は県水産課調べ
内 水 面 養 殖 業	百万円	16,480	21,236	128.9	102,594	136.5	愛知県はきんぎよ(県水産課調べ)を含む(*3)

資料：特に注釈があるものの他は農林水産統計（海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査）

(*1)：前年12月1日から当該年11月30日までの集計値。

(*2)：小数第1位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

(*3)：愛知県の内水面の産出額については、県水産課が全国平均単価を基に推計した。

県内産業のなかの水産業

●水産業の純生産は160億円

あいちの県民経済計算によると、2018年度の県内全産業の純生産は26兆4616億円で、前年度に比べ1.6%増加しました。

このうち水産業は約160億円で前年度に比べ7.1%減少し、全産業に占める割合は0.06%、第1次産業に占める割合は12.7%となっています（A図）。

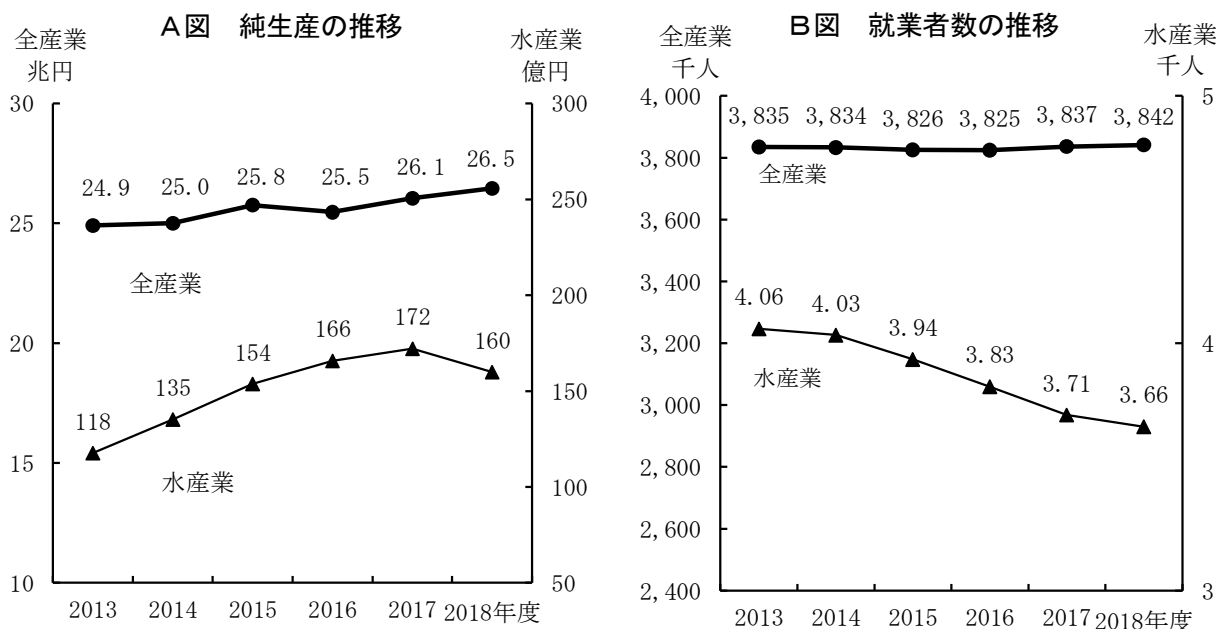
●水産業就業者は全産業就業者の0.1%

あいちの県民経済計算によると、2018年度的全産業の就業者数（従業地ベース）は3,842千人で前年度に比べ0.1%の増加、第1次産業は67.9千人で前年度に比べ3.2%の減少となっています。

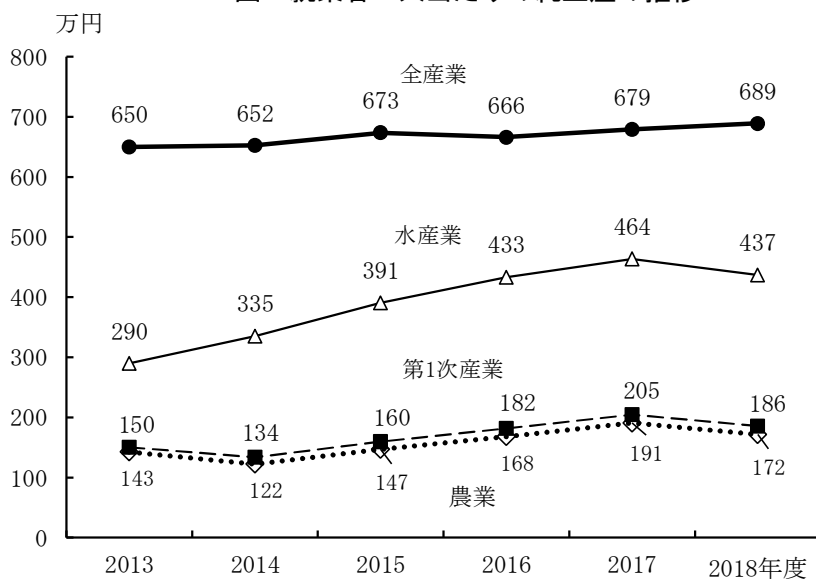
このうち水産業の就業者数は3.66千人で、前年度に比べ1.3%減少しており、水産業就業者数の全産業に占める割合は0.1%、第1次産業に占める割合は5.4%となっています（B図）。

●水産業就業者1人当たりの純生産は約437万円

2018年度的全産業の就業者1人当たりの純生産は689万円で前年度に比べ1.4%増加しました。水産業では437万円で前年度に比べ5.9%減少しており、第1次産業全体の186万円の約2.4倍となっています（C図）。



C図 就業者1人当たりの純生産の推移



(資料 あいちの県民経済計算 (A~C図))

＜主要な問題の解説＞

＜本県水産業の全国位置＞

海面漁業・養殖業において本県の生産量は全国で第19位、産出額は第25位となっていますが（A表）、多くの漁業種類や魚種で上位を占めているのが特色です。

漁業種類別では、小型底びき網、船びき網が盛んで、これらの生産量は全国的にもトップレベルにあります。

魚種別では、くろだい、くるまえび、がざみ類、あさり類、あゆ養殖が第1位、しらす、にぎす類、うなぎ養殖、きんぎょ養殖が第2位、かたくちいわし、すずき類が第3位となっています。全国シェアでは、あさり類が48.6%、あゆ養殖が28.6%、くるまえびが25.9%、うなぎ養殖が25.5%と高くなっています（B表）。

A表 愛知県水産業の全国順位（2019年）

海面漁業・養殖業生産量*1			海面漁業・養殖業総産出額		
順位	県名	(t)	順位	県名	(億円)
全国		4,141,800	全国		13,486
1位	北海道	956,152	1位	北海道	2,307
2位	茨城	290,796	2位	長崎	1,013
3位	長崎	275,239	3位	愛媛	862
4位	宮城	270,728	4位	宮城	834
5位	青森	179,611	5位	鹿児島	760
6位	静岡	175,807	6位	青森	527
7位	三重	151,309	7位	静岡	491
8位	愛媛	138,458	8位	高知	488
9位	岩手	122,344	9位	兵庫	485
10位	千葉	116,915	10位	三重	422
19位	愛知	69,678	25位	愛知	194

*1 茨城県は海面養殖業が秘匿値のため、海面漁業のみの数値。

（資料 海面漁業生産統計調査）

B表 主要な漁業種類・品目の全国順位（2019年）

漁業種類・品目	1位	2位	3位	4位	5位	全国	本県シェア(%)
小型底びき網 (t)	北海道 349,287	兵庫 6,831	愛媛 6,380	愛知 6,369	千葉 3,798	417,881	1.5%
船びき網 (t)	愛知 37,625	三重 19,021	兵庫 16,004	愛媛 10,567	岩手 10,519	169,524	22.2%
かたくちいわし (t)	長崎 37,015	三重 14,595	愛知 13,510	愛媛 10,148	広島 8,667	130,069	10.4%
しらす (t)	兵庫 14,505	愛知 11,433	静岡 4,980	大阪 3,713	茨城 3,411	59,883	19.1%
にぎす類 (t)	石川 960	愛知 351	島根 324	新潟 267	兵庫 150	2,530	13.9%
あなご類 (t)	島根 632	長崎 513	宮城 316	愛知 233	茨城 226	3,328	7.0%
まだい (t)	長崎 2,130	福岡 2,045	愛媛 1,400	兵庫 1,337	愛知(8位) 651	15,953	4.1%
くろだい (t)	愛知 279	兵庫 261	広島 198	香川 185	大阪 169	2,403	11.6%
すずき類 (t)	千葉 1,353	兵庫 478	愛知 425	宮城 375	神奈川 237	5,919	7.2%
くるまえび (t)	愛知 83	愛媛 56	大分 50	福岡 34	熊本 17	320	25.9%
がざみ類 (t)	愛知 532	宮城 334	福岡 209	愛媛 130	北海道 108	2,209	24.1%
あさり類 (t)	愛知 3,880	北海道 1,360	福岡 1,100	静岡 872	熊本 339	7,976	48.6%
のり養殖(千枚)	佐賀 1,738,319	兵庫 1,327,313	福岡 1,179,821	熊本 860,486	愛知(7位) 244,550	6,483,349	3.8%
うなぎ養殖 (t)	鹿児島 7,086	愛知 4,357	宮崎 3,070	静岡 1,534	高知 296	17,071	25.5%
あゆ養殖 (t)	愛知 1,171	岐阜 910	和歌山 584	栃木 310	滋賀 292	4,089	28.6%
きんぎょ養殖(千尾)	奈良 66,152	愛知 6,547	-	-	-	-	-

注)きんぎょ養殖は県水産課調べ。

愛知県きんぎょは、2018年12月1日から2019年11月30日までの集計値のため、単純比較はできない。

（資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ）

2 漁業経営

漁業経営体の動向

●海面漁業経営体は1,924経営体（2018年漁業センサス）

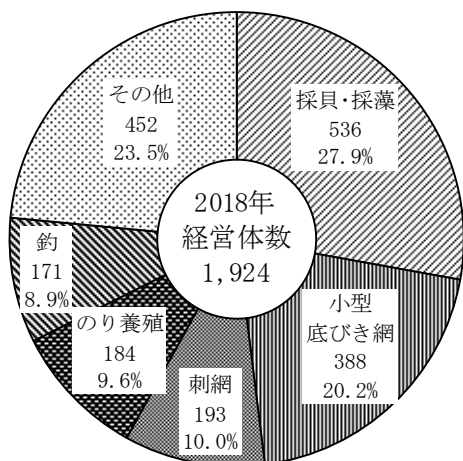
2018年の海面漁業経営体数(養殖業を含む・年間の海上作業日数が30日未満のものを除く)は1,924経営体となっています。主な漁業種類別では最も多いのが採貝・採藻の536経営体で27.9%を占め、以下小型底びき網388経営体(20.2%)、刺網193経営体(10.0%)が上位を占めています(A図)。

海面漁業経営体数は、5年前に比べ424経営体(18.1%)の減となっています(B図)。

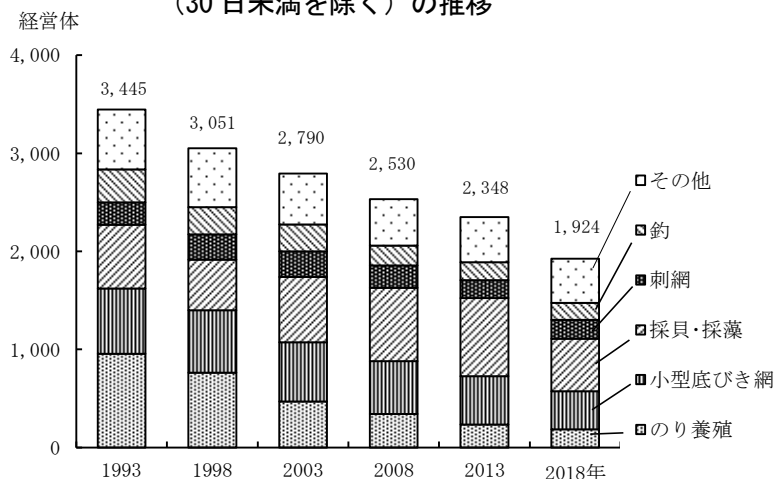
●内水面養殖業経営体数は244経営体（県水産課調べ）

2019年のきんぎょを含めた内水面養殖業の経営体数は244経営体となり、5年前に比べ41経営体(14.4%)の減少となっています(C図、D図)。

A図 海面漁業・養殖業種類別経営体数の構成比

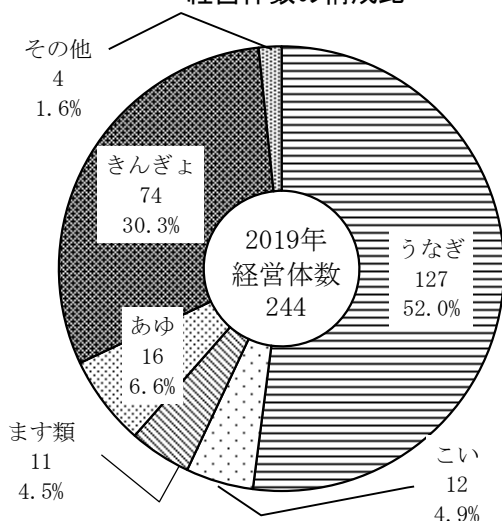


B図 海面漁業・養殖業種類別経営体数(30日未満を除く)の推移

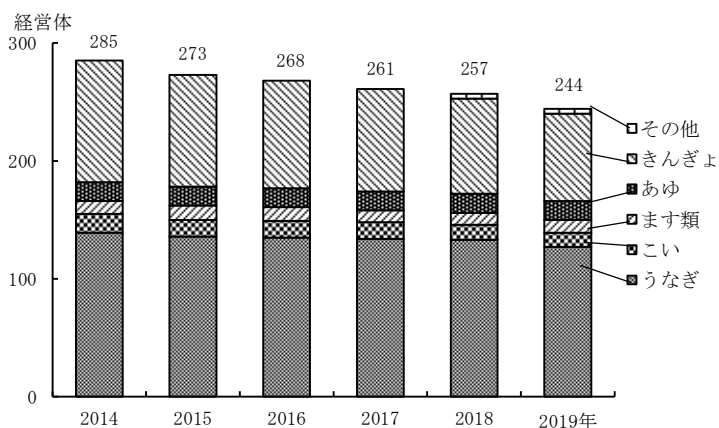


(資料 漁業センサス (A、B図))

C図 内水面養殖業種類別経営体数の構成比



D図 内水面養殖業種類別経営体数の推移



(資料 県水産課調べ (C、D図))

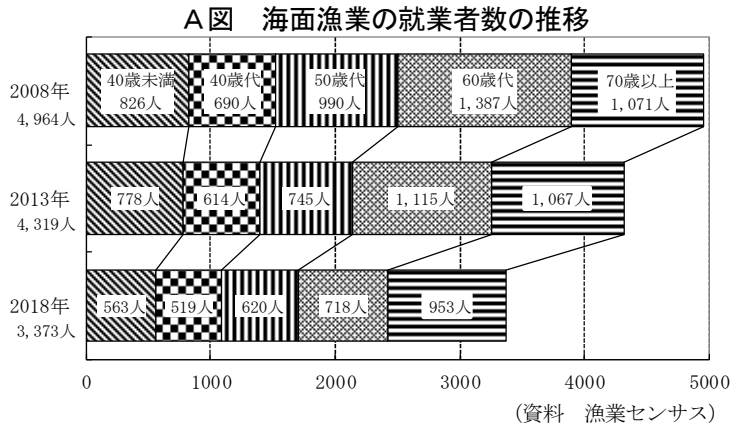
「その他」は2018年より掲載している。

〈主要な問題の解説〉

〈漁業就業者数〉

2018年（第14次）漁業センサスによると、2018年の愛知県の海面漁業の就業者数は3,373人で、5年前の4,319人と比べると946人（21.9%）減少しています（A図）。

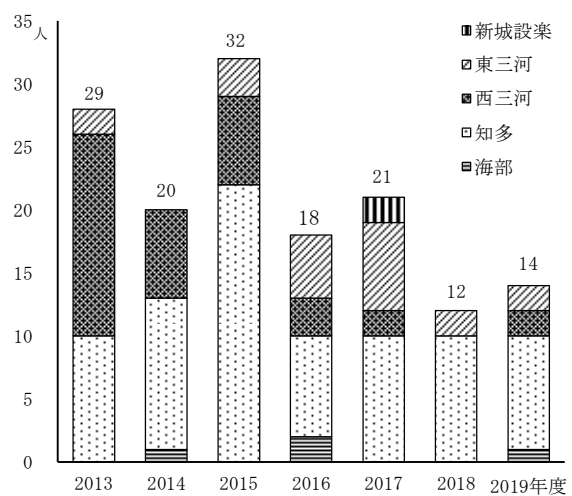
就業者の年齢別内訳は、50歳以上の層が約7割を占め、中でも70歳以上は953人で全体の28.3%を占めており、漁業就業者の高齢化が年々深刻となっています。



〈新規漁業就業者数〉

水産課では、各漁業協同組合の協力により新規漁業就業者の調査を毎年行っています。その結果によると、2019年度は全県で14人の新規就業者があり、内訳は海部地区が1人、知多地区が9人、西三河地区が2人、東三河地区が2人となっています（B図）。新規就業者は減少傾向にあり、漁場環境の変化等により、水産資源の変動が大きくなったため、漁業経営が不安定になっていることが要因の一つと考えられます。

B図 新規漁業就業者数の推移

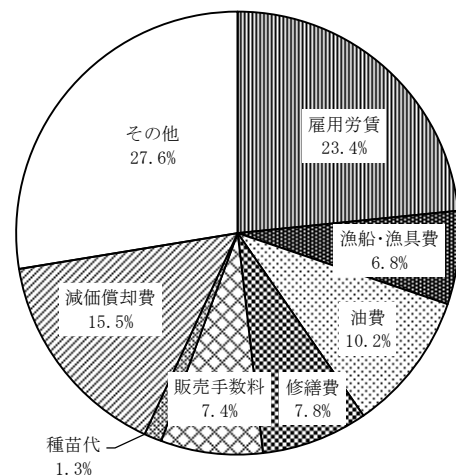
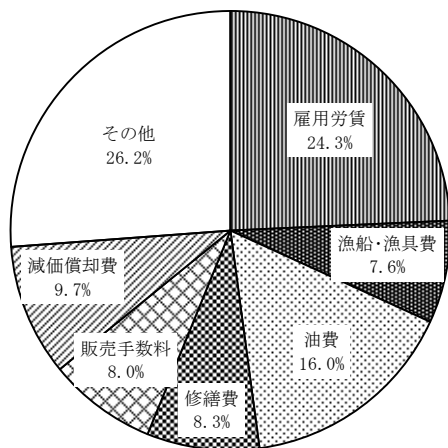


〈漁家経済〉

国の漁業経営調査によると、漁労支出に占める項目別の構成は、漁船漁業（太平洋中区）においては雇用労賃が最も多く24.3%、次いで油費16.0%、減価償却費9.7%等となっています。東海2県ののり養殖業では、雇用労賃が23.4%と最も多く、次いで減価償却費15.5%、油費10.2%等となっています（C図、D図）。

C図 漁船漁業（個人経営体）の漁労支出構成比（2019年：太平洋中区）

D図 のり養殖業（個人経営体）の漁労支出構成比（2019年：東海2県；愛知・三重）



（資料 漁業経営調査（C、D図））

水産業協同組合の動向

●組合員数、販売事業取扱高ともに減少傾向

水産業協同組合法に基づいて設立された組合は、1960年の134組合をピークに、解散や合併によって減少し、2019年1月1日現在の組合数は54、連合会3となっています。単位組合の組合員数は1989年度（32,830人）以降、毎年減少しており、2019年度には14,776人となっています（A表）。このうち沿海漁協の正組合員数は2,675人で、10年前に比べ34.8%減少しています（A図）。

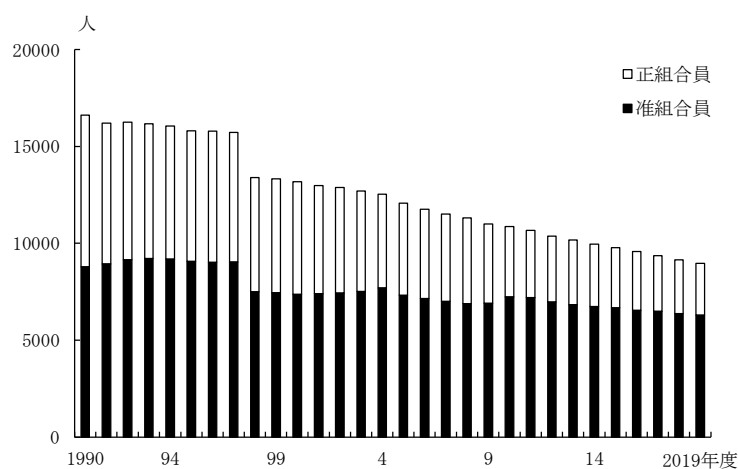
沿海漁協の主要事業である販売事業の取扱高は、高度経済成長とともに増加しましたが、1990年の378億円をピークに減少傾向となりました。なお、2019年は147億円で、10年前に比べ32.9%減少しています（B図）。

A表 本県の水産業協同組合の概況

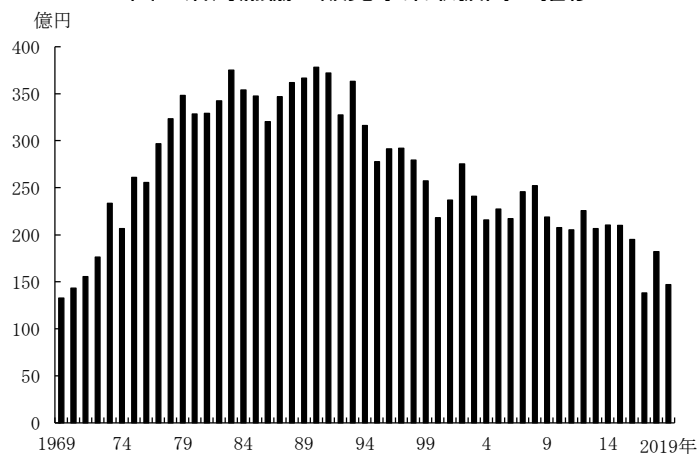
年度	区分	沿海漁業協同組合	内水面漁業協同組合	業種別漁業協同組合	水産加工業協同組合	漁業生産組合	計	連合会	
2019	組合数	22	19	8	-	5	54	3	
	組合員数	正	2,675	4,499	490	-	50	7,714	90
		准	6,288	615	159	-	-	7,062	1
		計	8,963	5,114	649	-	50	14,776	91

(資料 県調べ)

A図 沿海漁協の組合員数の推移



B図 沿海漁協の販売事業取扱高の推移



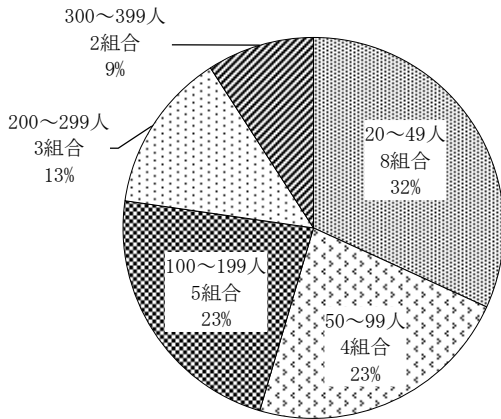
(資料 県調べ (A, B図))

〈主要な問題の解説〉

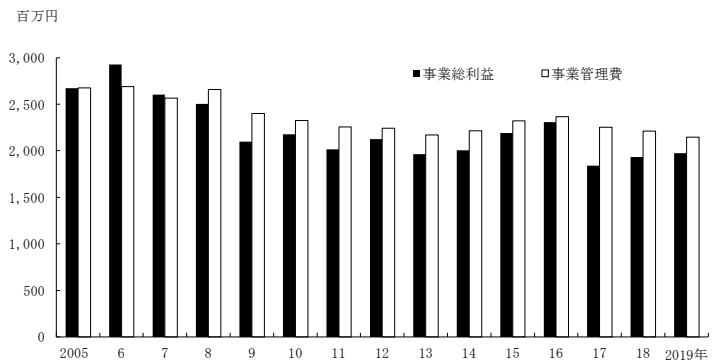
〈沿海漁協の経営規模〉

本県では正組合員数が 200 人未満の小規模な組合が全体の 77%を占めています（A 図）。また、事業管理費の大幅な削減が困難な状況にあり、事業管理費が事業総利益を上回るなど漁協経営が厳しい状況が続いています（B 図）。後継者不足や高齢化の進行、水産資源の減少、消費者の魚離れなど、漁協経営を取り巻く環境が厳しさを増していることから、早急に将来を見越した経営基盤の強化が必要となっています。

A 図 正組合員数別の組合割合



B 図 事業総利益と事業管理費の推移

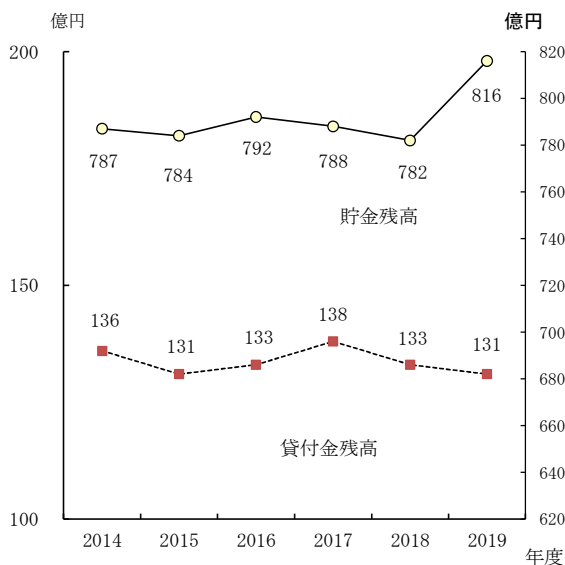


〈漁業金融〉

漁協等の系統団体は、漁業生産活動に必要な資金融資を行うことにより、漁業にとって重要な役割を果たしています。2019 年度末における漁協貯金の残高は、対前年度比 4.4%増の 816 億円、貸付残高は同 1.4%減の 131 億円でした（C 図）。

県では、漁業近代化資金、漁業振興資金、沿岸漁業改善資金の 3 種類の制度資金を設け、利子補給などにより漁業経営の支援を行っています（A 表）。

C 図 漁協の貯金及び貸付金残高の推移



A 表 制度資金の概要

区分 資金	融資機関	利率		目的
		貸付利率	利子補給率	
漁業近代化資金	信漁連	年 0.30% 【20t 以上 漁船】 年 0.35%	年 0.70 ～1.30% 【20t 以上 漁船】 年 1.25%	経営の近代化等に 必要な漁船、 漁具、養殖施設 等の取得促進
漁業振興資金	信漁連	年 1.5～ 1.9%	—	短期の運転資金 等
沿岸漁業改善資金	県（窓口 は信漁連）	無利子		沿岸漁業従事者 等が漁業経営の 健全な発展、漁 業生産力の増大 等を図るため

(2021 年 3 月 18 日現在)

(資料 県調べ (A～C 図))

3 漁業生産の基盤

漁船・漁港の動向

●漁船隻数はやや減少

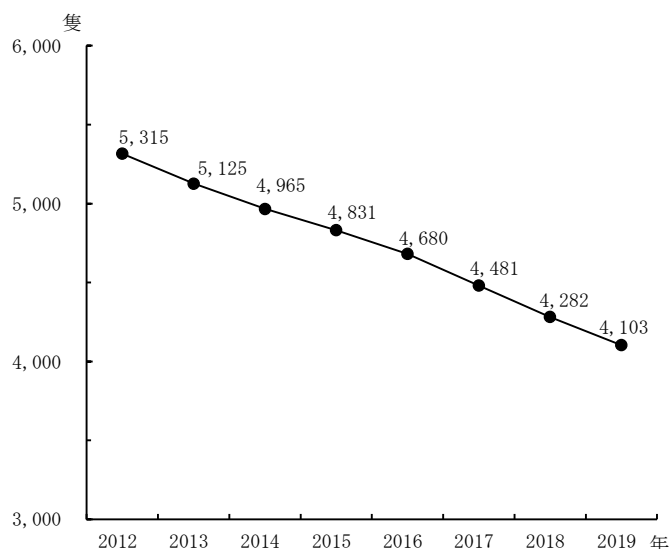
2019年の海水動力漁船の隻数（漁船統計表、2019年12月31日現在）は、前年に比べ179隻減少して4,103隻となっています（A図）。

●漁港への陸揚量

本県の指定漁港は、第1種漁港（利用範囲が地元の漁業を主とするもの）が17港、第2種（利用が第1種より広く第3種に属さないもの）が13港、第3種（利用が全国的なもの）が3港、第4種（避難港等）が1港であり、このうち11港が県管理、23港が市町管理漁港です。漁港における2019年の陸揚量は、58,545 tと前年から8.6%減少しました（B図）。

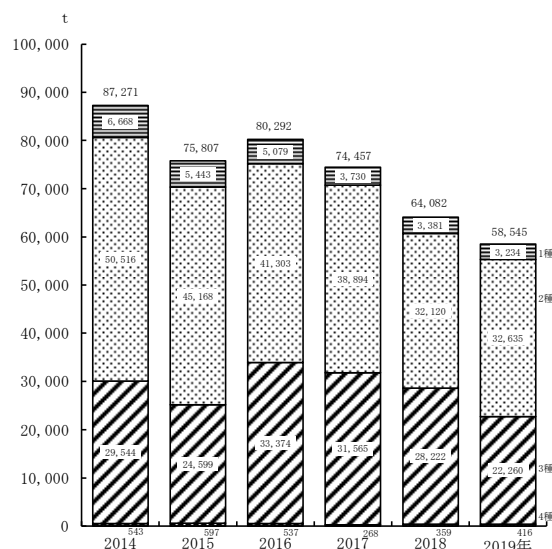
漁港は長期計画により整備を図っており、現在は2017年度から始まった第4次漁港漁場長期計画（2017～2021年度）に基づき整備を実施しています（A表）。

A図 海水動力漁船隻数の推移



（資料 漁船統計表）

B図 漁港における陸揚量の推移



（資料 県水産課調べ）

A表 第4次漁港漁場整備長期計画等に基づく整備計画（2017～2021年度）

事業名	港数	漁港地区名
水産流通基盤整備事業	1	師崎
水産生産基盤整備事業	2	知柄、赤羽根
水産物供給基盤機能保全事業 （保全工事）	23	鬼崎、小鈴谷、上野間、豊浜、師崎、篠島、日間賀、大井、大浜、寺津、栄生、味沢、一色、衣崎、佐久島、宮崎、西幡豆、知柄、形原、三谷、福江、赤羽根、伊川津
漁港施設機能強化事業	8	鬼崎、豊浜、師崎、篠島、日間賀、栄生、佐久島、西幡豆
漁港機能増進事業等	8	豊浜、篠島、日間賀、一色、知柄、大浜、形原、三谷
計	延 42	

〈主要な問題の解説〉

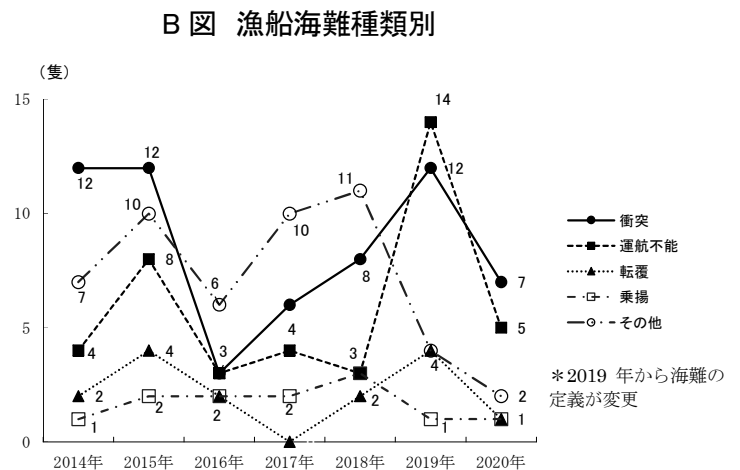
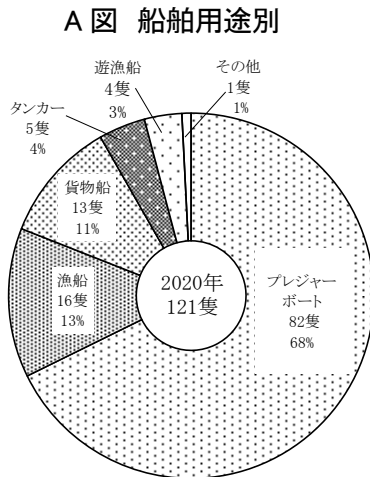
〈2020年の漁船海難の動向と対策〉

愛知・三重県の両沿岸及び沖合海域で2020年（1月1日～12月31日）は121隻の船舶事故が発生しました（A図）。そのうち漁船の事故は16隻と全体の13%で、2019年（35隻・24%）に比べ隻数、割合ともに減少しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による魚価の低迷等により、出漁日が少なかったことも一因として考えられます。

また、漁船の海難種類別で見ると衝突が7隻で最も多く、次いで機関故障等の運航不能が5隻となっています（B図）。

県では、このような海難を防止するため、漁業無線を使った安全操業や安全航行への呼びかけ等を実施しています。

〈海難の発生状況〉



(資料 第四管区海上保安本部交通部)

〈漁場整備事業〉

2002年度に施行された漁港漁場整備法に基づき、漁港事業と一体となった漁場整備事業が行われています。本県では、内湾から外海まで県域全体の水産資源増大と漁場環境改善を図るため「あさりとさかな漁場総合整備事業」を行っており、2020年度はあさり漁場となる干潟・浅場を三河湾（西尾市及び田原市地先）で5.0ha造成するとともに、渥美外海のさかな漁場となる魚礁を910.9空m³整備しました。また、2020年度は冬季波浪によるあさりの減耗対策として「貝類増殖場造成事業」を実施し、西尾市地先に砕石を利用した増殖場を1.1ha造成しました。

〈漁村活性化総合対策事業〉

漁村活性化総合対策事業は、漁業・漁村を取り巻く厳しい環境や食の安心安全等に関わる課題に対応する施設の重点的な整備により、力強い漁業生産地づくりを推進し水産物の安定供給を図るための県単独補助事業です。4つの事業種目によりきめ細かい支援を行い、漁村の活性化を図っています（A表）。

A表 2020年度実施件数

事業種目	実施件数	実施内容（施設）
防災対策推進事業	-	
地先漁場生産力向上事業	-	
衛生管理強化事業	5	水産物荷さばき施設、水産物鮮度保持施設
就労環境改善事業	5	漁業用作業保管施設、運搬施設
合計	10	

漁場環境の動向

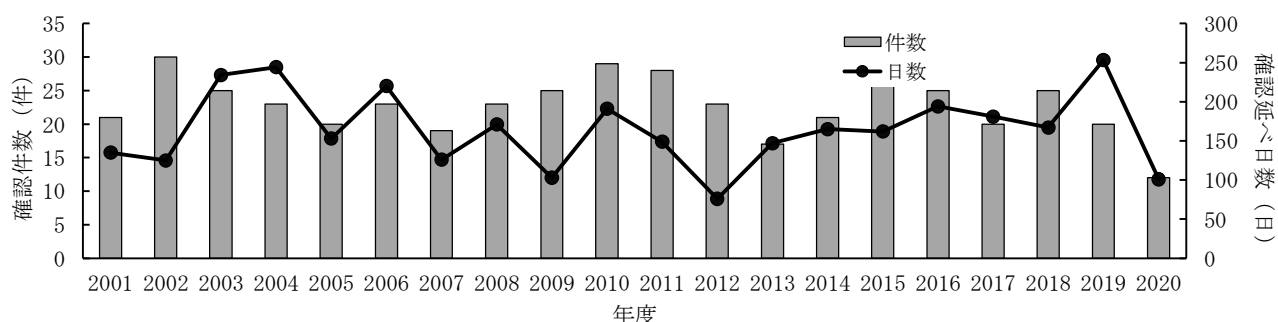
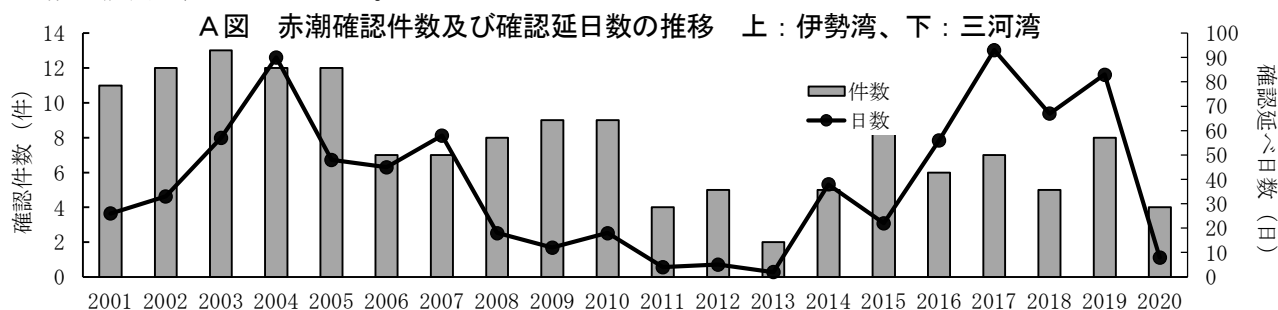
●2020年度の赤潮発生は16件

赤潮は、植物プランクトンが異常繁殖し、海水が赤色等に変色する現象で、のり養殖の色落ちや、底層の貧酸素化の要因となっています。

2020年度の赤潮確認件数は伊勢湾で4件、三河湾で12件の合計16件でした。確認延日数は伊勢湾で8日、三河湾で101日の合計109日でした。赤潮確認件数、確認延日数は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾ともに経年的に明確な減少傾向は認められません。（A図）。

●2020年度の貧酸素水塊平均被覆面積

表層で発生した赤潮に由来する植物プランクトンの死骸等が沈降し、腐敗・分解することにより、酸素が消費され、底層では酸素が減少した水塊（＝貧酸素水塊：溶存酸素飽和度が30%以下の水塊と定義）が形成されます。貧酸素水塊に覆われた海底の面積（＝貧酸素水塊被覆面積）の2020年7～9月の平均は伊勢湾が542.9 km²、三河湾が146.4 km²でした（B図）。貧酸素水塊平均被覆面積は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾の面積の半分近くを占めることも珍しくなく、経年的に明確な減少傾向は認められません。



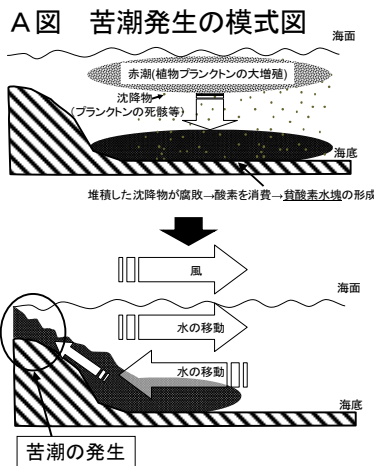
(資料 県水産試験場調べ)

＜主要な問題の解説＞

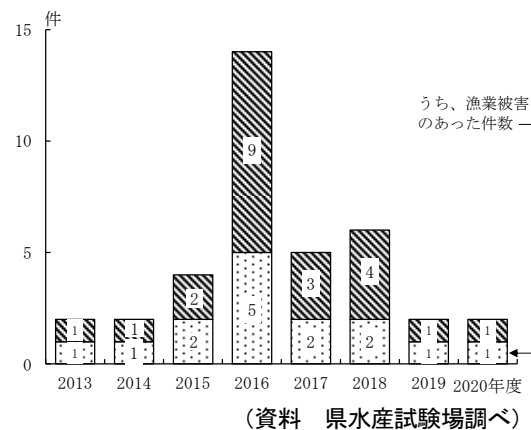
＜貧酸素水塊と苦潮＞

伊勢湾や三河湾では、毎年6月頃から10月頃にかけて、「貧酸素水塊」が海底を広く覆う現象が発生します。貧酸素水塊は、生物が生息できる海域を狭め、時には風にあおられ岸近くに「苦潮」となって押し寄せて漁業被害を引き起こします（A図）。本県では、毎年苦潮が確認されています。2020年度の苦潮確認件数は2件でしたが、多い年には10件を超える苦潮が確認されています。

また、あさり稚貝が大量に発生する豊川河口の六条潟では、しばしば苦潮による稚貝の大量死が発生しています。最近では、2019年9月上旬に発生した苦潮によりあさり稚貝が約2,000トン死んだと推計されました。



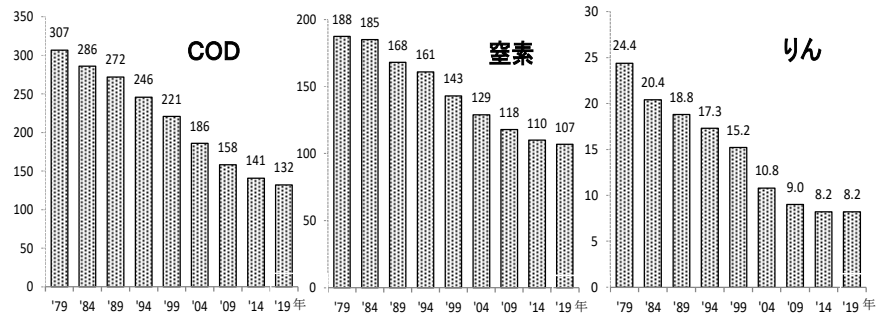
B図 苦潮確認件数の推移



＜総量削減計画＞

伊勢湾（三河湾を含む）は、水質汚濁防止法に基づき、陸域からの流入負荷（COD、窒素、りん）の総量削減を図る地域に指定されており、2017年6月には、2019年度を目標とする愛知県の第8次の総量削減計画が策定されています。

C図 伊勢湾における流入負荷量の推移（単位：トン/日）



この計画に基づき、県内事業所に厳しい排水規制がかけられた結果、流入負荷量は年々低下しており、2019年実績値は1979年実績値に比べ、CODは43%、窒素は57%、りんは34%となっています（C図）。第8次総量削減計画では、懸濁物質やプランクトンの海からの取出しに寄与するあさり漁獲の安定化や、「きれいな海」「豊かな海」「親しめる海」という視点から里海再生を推進することが、汚濁負荷量の総量の削減及び水環境の改善に関し必要な事項として位置付けられています。

＜下水道の放流水りん増加試験運転＞

厳しい排水規制の一方、伊勢湾や三河湾では、窒素、りんの栄養塩不足によるのり、あさりの不漁が問題となっています。このため県では、漁業者からの要望を踏まえ、2017年度から矢作川浄化センター（西尾市）及び豊川浄化センター（豊橋市）で、秋冬季における放流水のりん濃度増加に係る試験運転を実施しています。水産試験場の効果調査では、放流口の周辺海域にりんの供給が観測され、のり、あさり漁場への波及効果が確認されています。

資源保護増大の動向

●栽培漁業の推進

水産資源の維持増大を図るため、県では1978年10月に開設した愛知県栽培漁業センターにおいて放流用の種苗を生産・供給し、漁業者による栽培漁業の取組を推進しています（A表）。

本県の栽培漁業は1979年度のくるまえば、あわび、あゆに始まり、1985年度からくろだいとがざみ、1993年度からはなまこ、更に2005年度からはとらふぐとよしえびの種苗生産を開始し、2018年度からは資源造成が図られたくろだい（放流用）の生産を休止して、とらふぐ、がざみを増産して重点化を行うなど、資源状況に即した見直しを随時行い、栽培漁業の一層の推進を図っています。

A表 栽培漁業センター産種苗の供給実績

魚種	供給先	年度				
		2016	2017	2018	2019	2020
くるまえば（千尾） （全長1.5～2.0cm）	常滑市	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	西尾市（旧一色町）	2,800	2,800	4,500	4,500	4,500
	西尾市（旧幡豆町）	2,800	2,800	—	—	—
	西尾市（三河湾）	2,200	2,200	3,300	3,300	3,300
	田原市（旧渥美町）	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
	計	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
がざみ（千尾） （甲幅0.5～0.8cm）	常滑市	170	170	170	170	170
	南知多町	330	330	330	330	330
	西尾市（旧一色町）	100	100	—	—	—
	西尾市（旧幡豆町）	400	400	500	500	500
	田原市（旧渥美町）	400	400	500	500	500
	蒲郡市	100	100	100	100	100
計	1,500	1,500	1,600	1,600	1,600	
よしえび（千尾） （全長1.1～1.7cm）	常滑市	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	南知多町	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	西尾市（旧一色町）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計	4,506	4,500	4,500	4,500	4,500	
とらふぐ（千尾） （全長3.5～4.5cm）	南知多町	130	130	130	130	130
	西尾市（旧一色町）	—	—	40	40	40
	計	130	130	170	170	170
くろだい（千尾） （全長2.5～3.5cm）	西尾市（旧一色町）	25	25	—	—	—
	西尾市（旧吉良町）	10	10	—	—	—
	西尾市（旧幡豆町）	20	20	—	—	—
	田原市（旧渥美町）	50	50	—	—	—
	養殖用	10	10	10	10	—
	計	115	115	10	10	0
あわび（千個） （殻長1.0～2.0cm）	師崎漁協	60	60	60	60	60
	篠島 "	65	60	65	65	60
	日間賀島 "	60	60	60	60	60
	豊浜 "	60	60	60	60	60
	渥美、片名、愛知外海漁協他	35.5	35.5	35.5	38.7	35.5
	計	280.5	275.5	280.5	283.7	275.5
なまこ（千尾） （全長0.5～1.0cm）	南知多町	380	380	380	380	425
	西尾市（旧一色町）	35	35	35	35	35
	西尾市（旧吉良町）	25	25	25	25	25
	西尾市（旧幡豆町）	50	50	50	50	50
	蒲郡市	10	10	10	10	40
	田原市（旧渥美町）	200	138	200	200	215
計	700	638	700	700	790	
あゆ（千尾） （全長3.0～3.9cm） （全長4.0～5.0cm）		500	500	500	500	500
	愛知県鮎養殖漁協等	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	計	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

＜主要な問題の解説＞

＜栽培漁業基本計画＞

県では沿岸漁場整備開発法に基づき栽培漁業基本計画を策定し、栽培漁業の一層の推進を図っています。現在は2021年度を目標年次とする第7次栽培漁業基本計画が策定されています。

(第7次栽培漁業基本計画のポイント)

- 資源造成型栽培漁業を一層推進する。
- 都道府県の区域を越えて回遊する広域種については、太平洋南海域栽培漁業推進協議会において策定された「効率的かつ効果的な種苗生産及び種苗放流に関する計画（広域プラン）」を踏まえ、種苗生産や放流等を実施するよう努める。

＜資源管理型漁業の推進＞

水産資源を増やす取組だけではなく、獲りすぎないように漁獲をコントロールする資源管理型漁業の推進も重要です。漁業者は、休漁期間や定期休漁日の設定や網目の制限など様々な自主的な取組を定めた「資源管理計画」を作成し、資源管理に取り組んでいます（A表）。

A表 資源管理計画の一覧表

No.	資源管理計画名	計画参加者数	No.	資源管理計画名	計画参加者数
1	大濱漁協中型まき網漁業	3	21	西三河漁協吉良支所及び幡豆漁協さし網漁業	3
2	愛知県ぱっち網漁業者組合イカナゴ	21	22	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	9
3	愛知県ぱっち網漁業者組合イワシ類	21	23	幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	3
4	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イカナゴ	86	24	師崎漁協あなご籠漁業	2
5	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イワシ類	86	25	東幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	1
6	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	4	26	西三河漁協吉良支所採貝(長柄まんが)漁業	4
7	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	3	27	西三河地区採貝(腰まんが)漁業	114
8	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	4	28	西三河地区小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	85
9	豊浜漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	6	29	鬼崎漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	25
10	伊勢湾海域における小型機船底びき網(まめ板網)漁業	101	30	常滑漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	2
11	愛知外海漁協しらす機船底びき網漁業	6	31	小鈴谷漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	26
12	東幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	5	32	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	5
13	幡豆漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	3	33	片名漁協かに籠漁業	5
14	幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	2	34	篠島漁協小型機船底びき網(手繰第二種餌料びき網)漁業	6
15	日間賀島漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	11	35	大濱漁協小型機船底びき網(貝けた網、えびけた網及びまめ板網(三河湾))漁業	7
16	三谷漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	1	36	愛知県ふぐ延縄組合連合会トラフグ	54
17	西三河漁協吉良支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網、貝けた網及びえびけた網)漁業	5	37	篠島漁協あなご籠漁業	11
18	片名漁協あなご籠漁業	3	38	日間賀島漁協潜水器漁業	51
19	三谷漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業(2019.9.12廃止)	-	39	日間賀島漁協あなご籠漁業	17
20	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	23		計	824

(2021年3月31日現在)

＜漁獲可能量制度＞

漁獲可能量とは、法に基づき特定の魚種ごとに国が定める、年間に漁獲できる総量であり、通称TAC (Total Allowable Catch) と呼ばれています。漁獲可能量の管理対象には2021年4月1日現在で8魚種が指定され、このうち本県ではまいわしなど5魚種が管理対象となっています（B表）。

B表 本県に定められた漁獲可能量

魚種名	くるまぐろ		まあじ	まいわし	まさば及びごまさば	するめいか
	30kg未満	30kg以上				
管理期間	2021.4～2022.3		2021.1～12	2021.1～12	2020.7～2021.6	2021.4～2022.3
本県への配分量	0.1t	1.0t	現行水準	現行水準	若干量	現行水準

4 漁業生産

漁業総生産の動向

●漁業・養殖業の総生産量は3.1%減少

2019年の海面及び内水面の漁業・養殖業の総生産量は75,514 tで、前年(77,946t)に比べ3.1%減少しました(A図)。

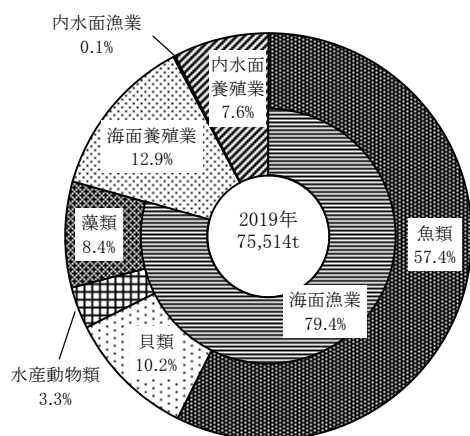
このうち、海面漁業は59,934 tで前年に比べ2.9%減少しており、海面養殖業は9,744 tで13.1%の減少となりました。また、内水面漁業は111 tで前年に比べ25.0%減少し、内水面養殖業は5,725 tで17.8%増加しています(C図)。

●漁業・養殖業の総産出額は5.0%増加

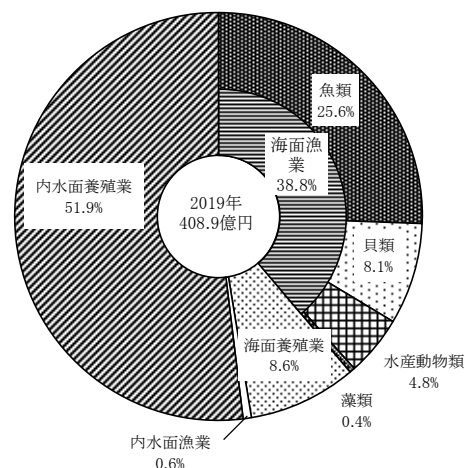
2019年の漁業・養殖業の総産出額は408.9億円で、前年(389.4億円)に比べ5.0%増加しました(B図)。

この内訳をみると、海面漁業は158.7億円で前年に比べ8.2%の減少、海面養殖業は35.2億円で2.0%の減少、内水面漁業は2.6億円で15.8%の減少、内水面養殖業は212.4億円で19.6%の増加となっています(D図)。(内水面漁業・養殖業の産出額(推計)は魚種別の生産量に全国平均単価を乗じて求めています)

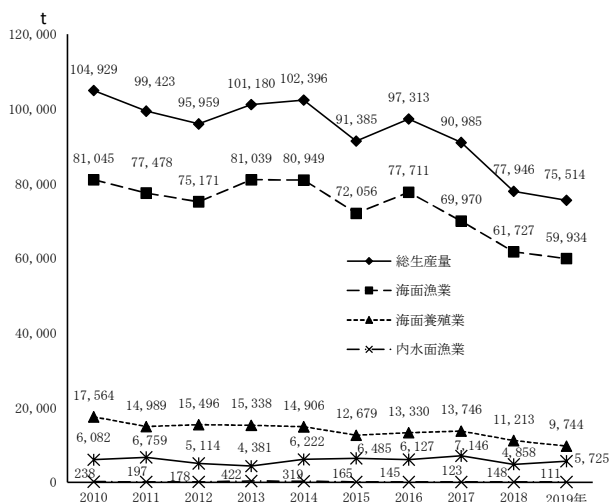
A図 漁業・養殖業の総生産量の内訳



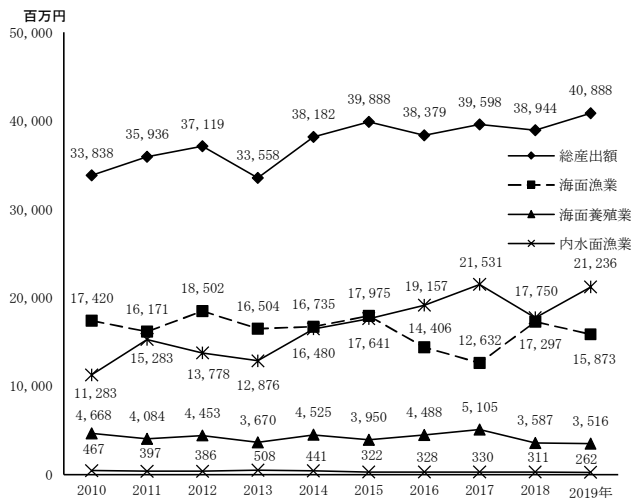
B図 漁業・養殖業の総産出額の内訳



C図 漁業・養殖業の総生産量の推移



D図 漁業・養殖業の総産出額の推移



内水面漁業および内水面養殖業の産出額は、県水産課が生産量に全国単価を乗じて求めた推計値。内水面養殖業は産出額(D図)のみきんぎょを含む。きんぎょは県水産課調べ

(資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ(A～D図))

〈主要な問題の解説〉

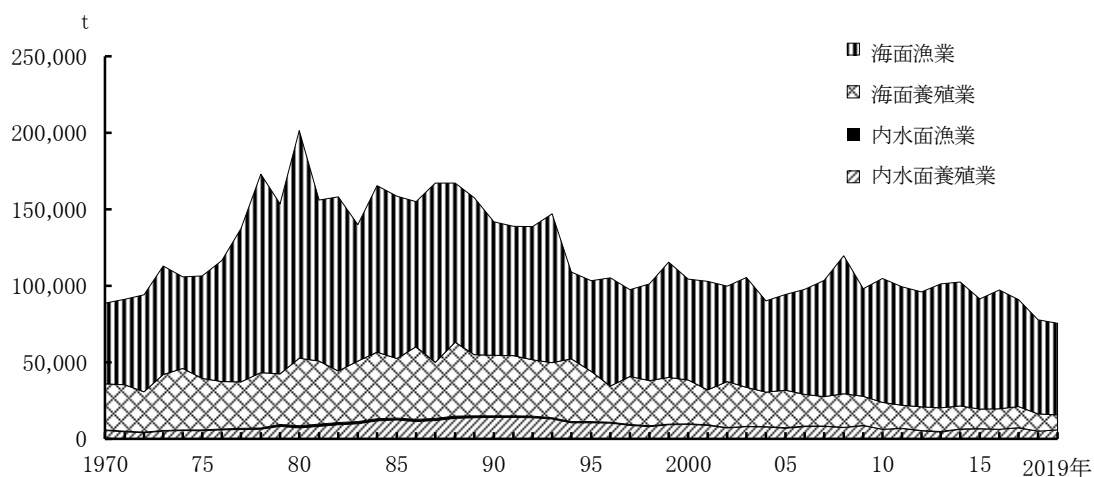
〈漁業生産量の推移〉

漁業・養殖業の総生産量は、まいわしの漁獲量が多かった1970年台後半～1990年代前半にかけては15万t前後でしたが、まいわしが急激に減少した1994年以降は10万t前後で横ばいに推移し、近年は減少傾向にあります。内訳を見ると、海面漁業が全体の半分以上を占め、近年は減少が大きくなっています。海面養殖業はのり養殖の経営体減少により一貫して減少傾向にあります。内水面養殖業は90年代前半は減少傾向にありましたが、近年は横ばいで推移しています（A図）。

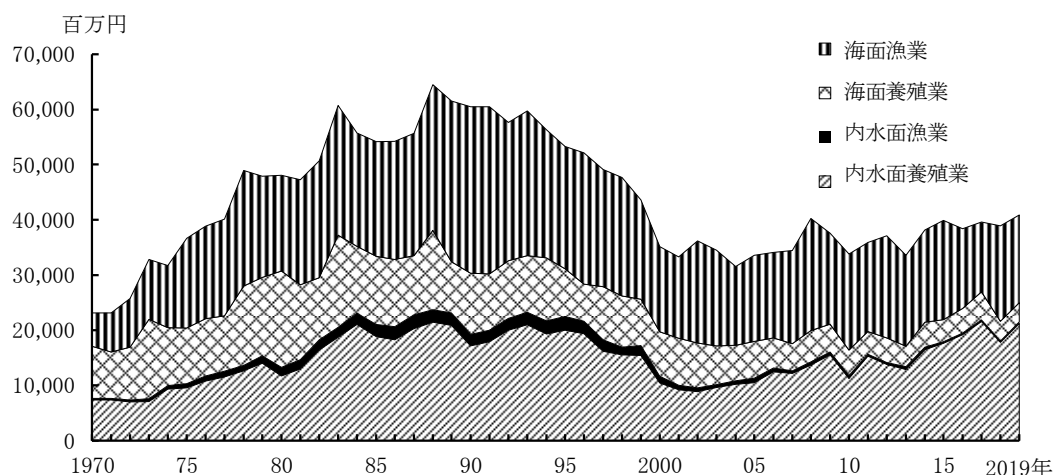
〈漁業産出額の推移〉

漁業総産出額は、1988年の645億円をピークに、以降は急激に減少しましたが、2000年以降は横ばいないし増加傾向となり、近年は350～400億円程度で推移しています。内訳を見ると、海面漁業、海面養殖業、内水面養殖業ともに、1988年頃から2000年頃までの減少が大きく、不況に伴う魚価の低迷が大きな要因と考えられます。近年は海面漁業は横ばい、内水面養殖業は増加傾向ですが、海面養殖業は減少傾向が続いています（B図）。

A図 海面・内水面漁業・養殖業生産量の推移



B図 海面・内水面漁業・養殖業産出額の推移



(資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ (A、B図))

海面漁業生産の動向

●海面漁業漁獲量は2.9%減少

2019年の海面漁業の漁獲量は59,934 tで、前年(61,727 t)に比べ2.9%減少しました(A図)。まいわしの漁獲量が減ったものの、かたくちいわし、しらすの漁獲量が増えています。

漁業種類別では、船びき網が37,625 tで最も多く、県全体の62.8%を占め、次いで、小型底びき網が6,369 tで同10.6%となっています(B図)。

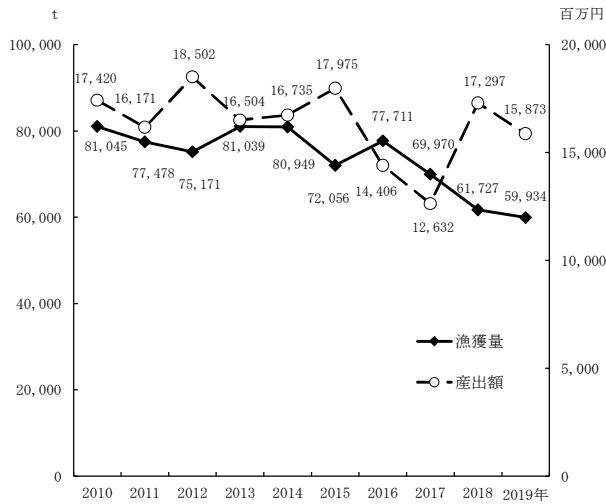
魚種別では、かたくちいわしが13,510 tで同22.5%、しらすが11,433 tで同19.1%、まいわしが10,905 tで同18.2%、あさり類が3,880 tで同6.5%を占めました。これら上位4魚種で全体の約3分の2となっています(C図)。

●海面漁業産出額は8.3%減少

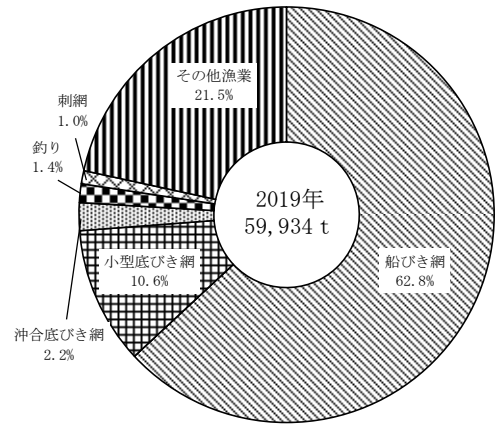
2019年の海面漁業の産出額は158.7億円で、前年(173.0億円)に比べ8.3%減少しました(A図)。

魚種別に見ると、しらすが51.9億円で県全体の32.7%を占め、あさり類が14.9億円で同9.4%、次いで、かたくちいわしが8.5億円で同5.4%となっています(D図)。

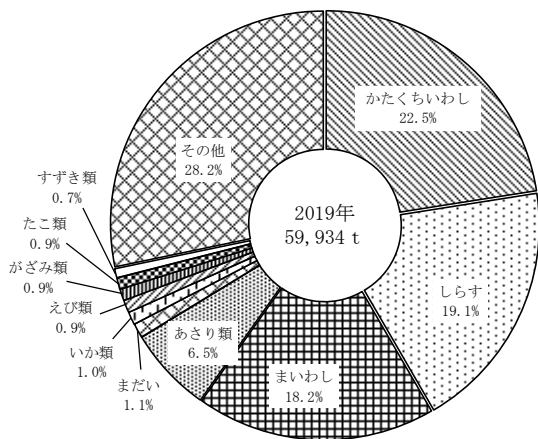
A図 海面漁業漁獲量及び産出額の推移



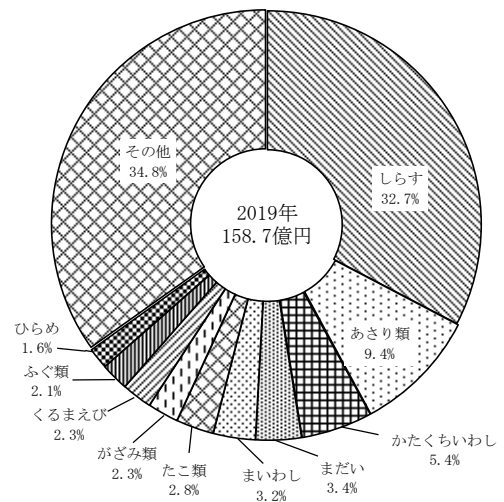
B図 海面漁業種類別漁獲量の構成



C図 海面漁業魚種別漁獲量の構成



D図 海面漁業魚種別産出額の構成



(資料 海面漁業生産統計調査 (A~D図))

＜主要な問題の解説＞

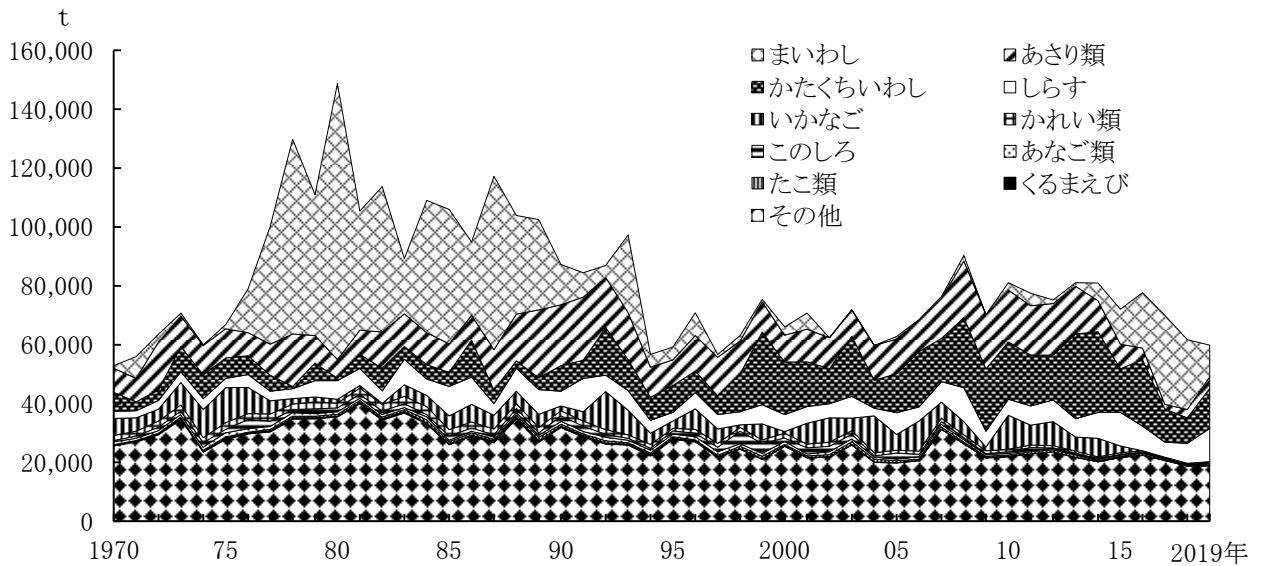
＜魚種別漁獲量＞

1970年代後半から1990年代前半にかけてまいわしの漁獲量が非常に多く、最盛期には総漁獲量の半分以上を占めていました。1994年以降まいわしは激減しましたが、2015年頃から再び増加しています。近年の本県の主要魚種では、あさりの漁獲量が2012年以降に大幅に減少し、いかなごも2016年以降漁獲がありません。かたくちいわしやしらすは、おおむね同程度の漁獲量で推移しています（A図）。

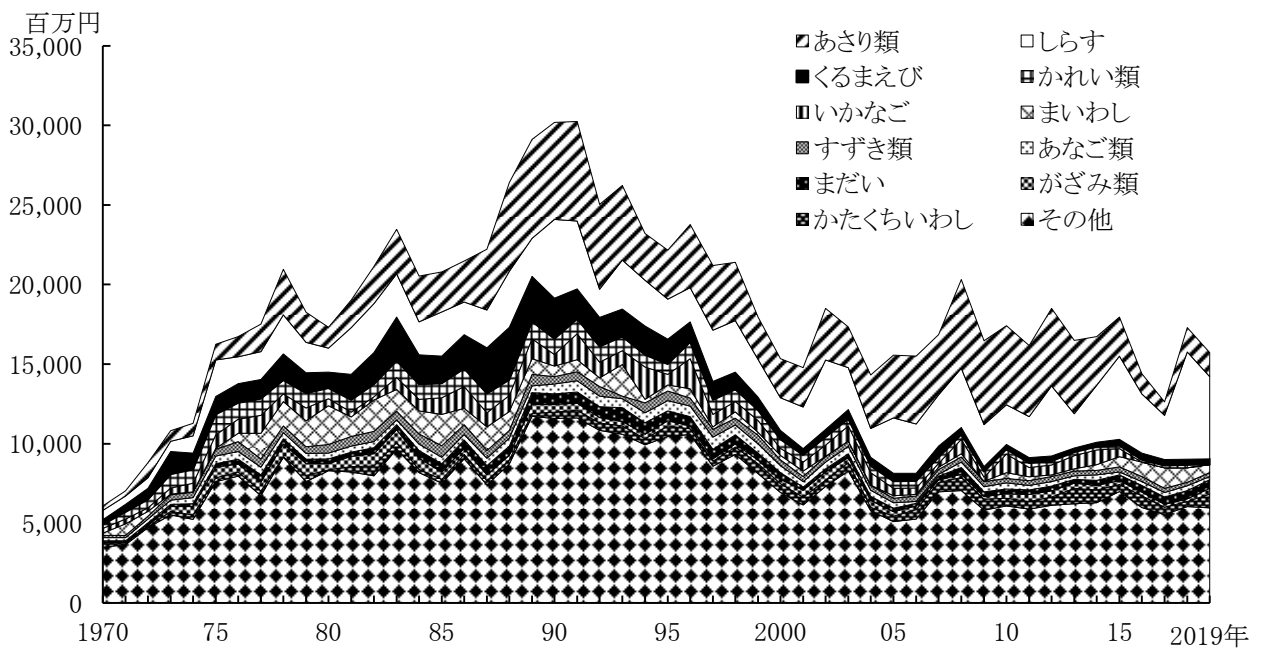
＜魚種別産出額＞

海面漁業の産出額は1991年をピークに急激に減少し、その後2000年以降は概ね安定しています。ピーク時に多くを占めたあさり類は大幅に減少しましたが、産出額の大きな割合を占めるしらすは、年による増減はあるものの、近年増加傾向です（B図）。

A図 海面漁業魚種別漁獲量の推移



B図 海面漁業魚種別産出額の推移



(資料 海面漁業生産統計調査 (A、B図))

海面養殖生産の動向

●板のり生産枚数は12.3%減少（暦年）

2019年の海面養殖業の収穫量は9,744 tで、前年に比べ13.1%減少しました。本県海面養殖業のほとんどはのり養殖業で、2019年（1～12月）における板のりの生産枚数は2億4,455万枚となり、前年に比べ12.3%減少しました（A表）。2019年の板のり平均価格は1,347円と前年より13.9%高く、のり養殖産出額は32.9億円で前年に比べて0.2%の減少にとどまりました（A表）。

地域別では、知多地区が2億162万枚で前年に比べ14.1%の減少、西三河地区が3,041万枚で4.5%の減少、東三河地区では1,252万枚で2.4%の増加となっています（B図）。

●養殖年では10.6%減少

板のり生産枚数を養殖年で比較すると、2019年度（2019年11月～20年5月）は2億4,152万枚となり、前年度に比べ10.6%の減少となりました。地区別では、知多地区が9.0%の減少、西三河地区が21.4%の減少、東三河地区が12.8%の減少となっています（C図）。

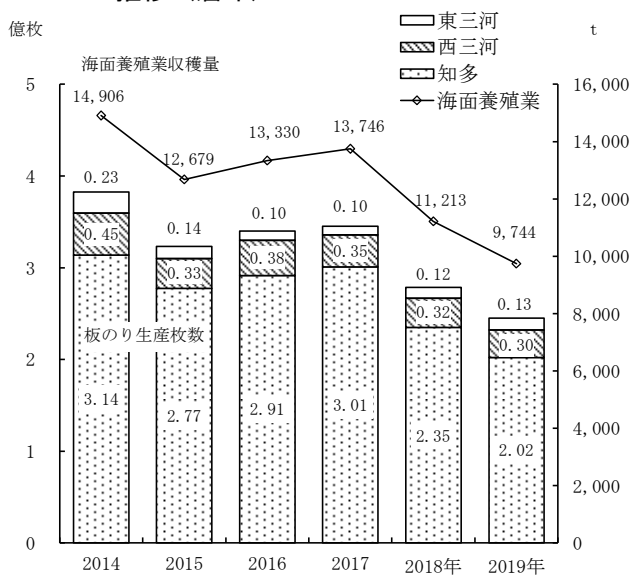
A表 板のり生産状況（暦年）

区分		年	2014	2015	2016	2017	2018	2019
生産枚数 (千枚)	くろのり		359,883	310,013	327,668	334,044	264,003	230,846
	まぜのり		3,228	2,307	3,455	x	x	x
	あおのり		19,192	11,116	8,975	x	x	x
	板のり計		382,303	323,436	340,099	345,317	278,721	244,550
産出額 (万円)	合計		417,300	354,400	410,700	481,700	329,800	329,300
板のり平均価格 (円/100枚)			1,092	1,096	1,208	1,395	1,183	1,347

(注)板のり平均単価は、ばらのり・生のりを含む。

(資料 海面漁業生産統計調査)

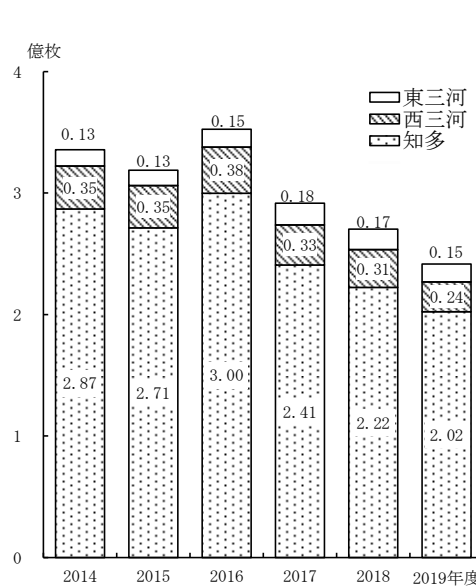
B図 海面養殖業収穫量及び板のり生産枚数の推移（暦年）



(資料 海面漁業生産統計調査)

注)2019年は海面漁業生産統計に係る調査票情報を集計した数値

C図 板のり生産枚数の推移（養殖年度）



(資料 海面漁業生産統計調査)

注)2019年は海面漁業生産統計に係る調査票情報を集計した数値

〈主要な問題の解説〉

〈2019年度（2019年9月～2020年5月）のり養殖の概要〉

1 養殖の経過

(1) 採苗状況

採苗は9月16日から始まり、各地区とも順調に終了しました。

(2) 育苗

育苗は知多地区で10月15日、西三河地区で10月22日、東三河地区で10月17日から始まりました。各地域で水温降下の遅れによる生長の停滞や病障害が発生し、また、赤潮の発生による栄養塩減少により色落ちが見られました。

(3) 秋芽網生産

各地で10～11月に赤潮が発生し、栄養塩は減少しました。また、知多西浜地区や東三河地区ではあかぐされ病が見られました。さらに、魚類やかもの食害被害が各地で見られ、囲網の設置や養殖網を沈める等の対策がとられました。

(4) 冷蔵網生産

1月以降、各地域で栄養塩が減少し、色の悪い製品が見られるようになりました。多くの地区で魚類やかもの食害被害が見られ、防除網などの対策がとられました。

(5) 青のり生産

近年、東三河地区の青のりは、市場の評価が高くなっています。このため、当該地区の生産者は青のり養殖に力を入れており、青のりの最盛期を迎える2月以降の生産体制は黒のりから青のりに替わります。

A表 各地区の養殖経過(黒のり)

地区	陸上採苗開始	野外採苗開始	張り込み開始	摘採開始
知多地区	9月16日	—	10月15日	11月21日
西三河地区	9月24日	—	10月22日	11月25日
東三河地区	9月30日	10月15日	10月17日	11月27日

2 養殖生産の結果

黒のりの生産枚数は229,038千枚(平成比76%)、生産金額は3,098,844千円(平成比85%)となりました。経営体あたりでは生産枚数1,517千枚(平成比86%)、生産金額20,522千円(平成比96%)でした。また、青のりの生産枚数は12,485千枚(平成比100%)、生産金額は166,218千円(平成比91%)となりました。

B表 のり生産の推移

(単位：千枚・千円)

年度	経営体数 (黒のり)	生産枚数			生産金額			経営体当たり(黒のり)	
		黒のり	青のり	合計	黒のり	青のり	合計	生産枚数	生産金額
2014	188	321,112	11,642	332,754	3,488,692	106,531	3,595,223	1,708	18,557
2015	179	307,404	11,324	318,728	3,692,907	162,414	3,855,321	1,717	20,630
2016	169	340,331	12,169	352,500	4,512,387	333,300	4,845,687	2,014	26,701
2017	164	277,174	14,556	291,730	3,193,738	169,437	3,363,174	1,690	19,474
2018	156	257,692	12,585	270,277	3,397,075	144,154	3,541,229	1,652	21,776
2019	151	229,038	12,485	241,523	3,098,844	166,218	3,265,062	1,517	20,522
対前年比	97%	89%	99%	89%	91%	115%	92%	92%	94%
対平成比	88%	76%	100%	77%	85%	91%	85%	86%	96%

(資料 県水産課調べ)

内水面生産の動向

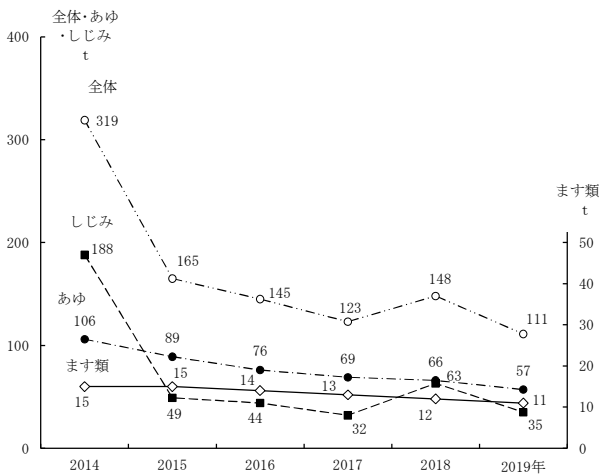
●内水面漁業漁獲量は111 t

2019年の内水面漁業の漁獲量は111 tであり、前年に比べ25.0%の減少となりました。あゆの漁獲量は57 tで、前年から13.6%の減少となっています（A図）。内水面の遊漁の主体であるあゆの遊漁者数については、レジャーの多様化などによる遊漁の参加人口（全国）の減少と同様に、減少傾向となっています（B図）。

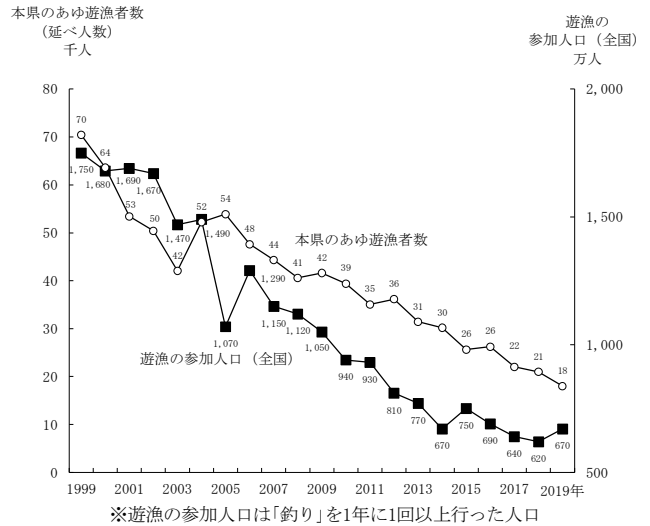
●内水面養殖業収穫量は5,725 t

2019年の内水面養殖業収穫量（観賞魚除く）は5,725 tであり、前年と比べ17.8%の増加となりました。うなぎ養殖の収穫量は県内水面養殖業の約8割を占めており、2019年は4,357 tで前年に比べ26.0%の増加となりました。あゆ養殖の収穫量は1,171 tで、前年に比べ4.0%の減少となりました（C図）。2019年の内水面養殖業の産出額は212億円であり、前年に比べ19.6%の増加となり、そのうちうなぎ養殖による産出額は189億円となっています（D図）。

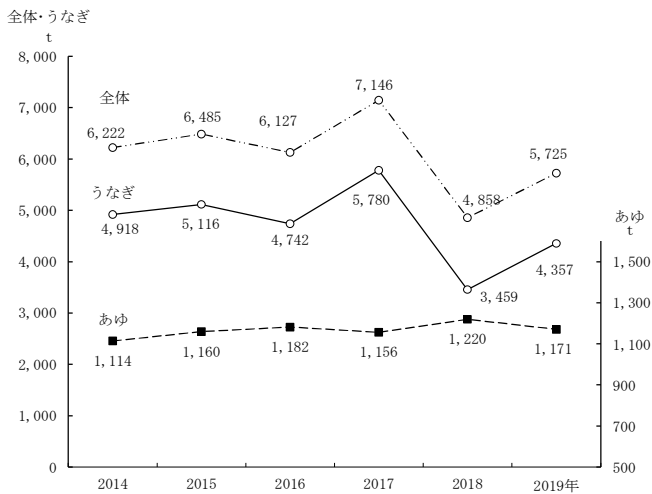
A図 内水面漁業魚種別漁獲量の推移



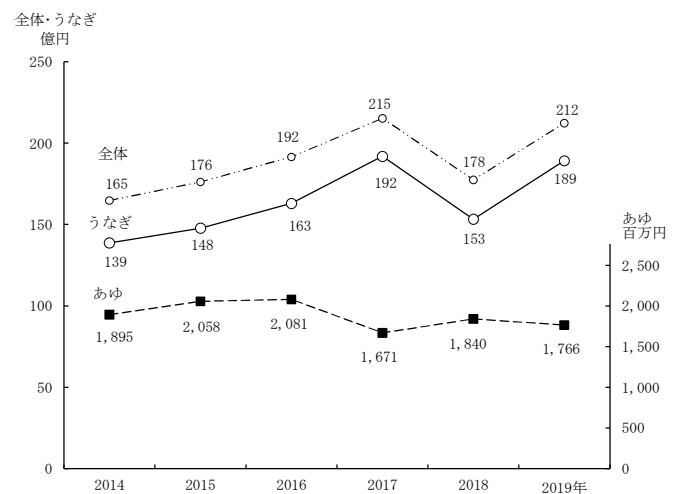
B図 遊漁者数の推移



C図 内水面養殖業魚種別収穫量の推移



D図 内水面養殖業魚種別産出額の推移



(資料 県水産課調べ (A図))

(資料 レジャー白書 (B図:遊漁の参加人口(全国)), 県水産課調べ (B図:本県のあゆ遊漁者数))

(資料 内水面漁業生産統計調査 (C図))

(資料 県水産課調べ (D図))

＜主要な問題の解説＞

＜内水面漁業の振興策＞

内水面漁業は、遊漁を通じた県民への憩いの場の提供や、健全な河川環境の確保など、山間地振興の一翼を担う公共的な役割を果たしています。

2014年6月には「内水面漁業の振興に関する法律」が国会で成立しました。県では、内水面漁業の主要魚種であるあゆについて、漁獲量増大のための種苗放流方法の検討を行っています。また、子供達にあゆ等に関する出前授業や放流体験を実施するとともに、漁場保全活動等を通じて、河川の持つ多面的機能を発揮するための取組を支援しています。

＜内水面養殖業の振興策＞

本県の内水面養殖業は、うなぎ及びあゆ養殖を中心に盛んに行われています。内水面養殖業の振興を図るため、県では養殖業者に対して魚病診断や水質検査等の養殖技術指導、薬剤耐性菌対策や食の安全性確保のための水産用医薬品の適正使用指導等を行っています。また、養殖魚の歩留向上、きんぎょの新品種開発やうなぎの人工種苗量産化等の試験研究も行っています。

＜主要養殖業の動向＞

○うなぎ養殖業の動向

本県のうなぎ養殖は、西尾市一色町を中心とする西三河地区で盛んに行われており、2019年は鹿児島に次いで、全国第2位の収穫量となっています。

2019年は、しらすうなぎ採捕量が前年より増加したことで、種苗単価が下落し、池入れ量が増加したため、収穫量も大きく増加しました。しかし、成鰻の品薄感等から、成鰻単価は高値で推移しています（A図）。

○あゆ養殖業の動向

本県のあゆ養殖は、豊川市を中心とする東三河地区で盛んに行われており、2013年から全国第1位の収穫量となっております。これは、養殖業者の徹底した防疫対策が効果をあげたものと考えられます。

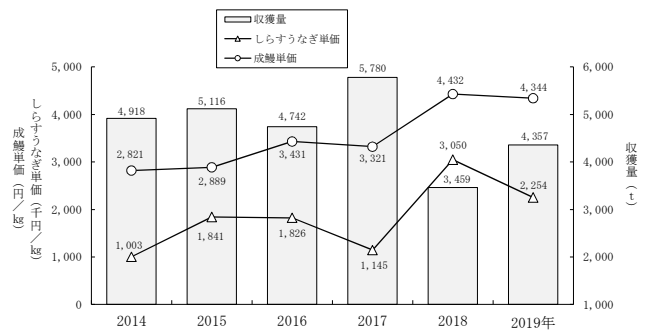
2019年の収穫量は1,171tで前年に比べ4.0%減少し、産出額は17.7億円で前年に比べ4.0%減少しました（B図）。

○きんぎょ養殖業の動向

本県のきんぎょ養殖は、弥富市を中心とする海部地区で行われており、奈良県に次いで全国第2位の生産（販売）量となっています。また、他の生産県に比べ、養殖対象となる品種が20種類以上と多く、特に高級魚が多いことが特徴となっています。

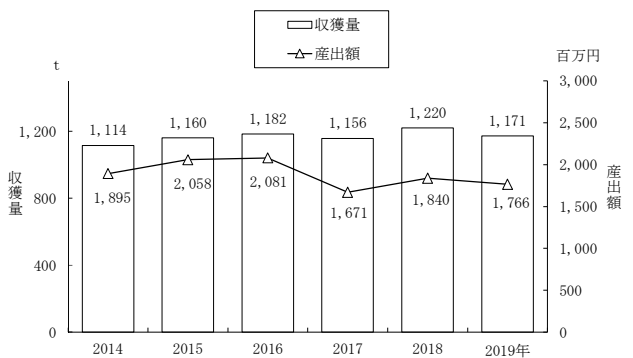
2019年の生産量は6,547千尾で前年に比べ2.9%減少し、産出額は約2.7億円で前年に比べ16.3%減少しました（C図）。

A図 成鰻収穫量、しらすうなぎ単価及び成鰻単価の推移

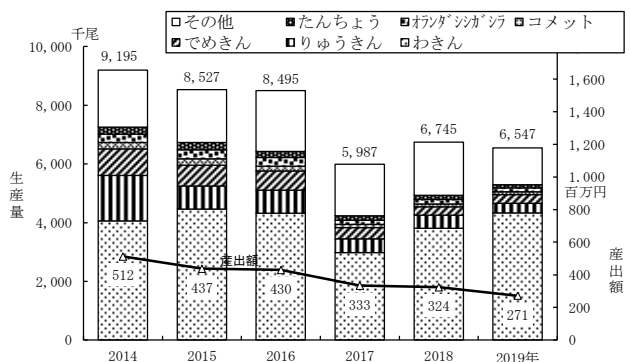


注) しらすうなぎ単価は、前年12月から当年4月までの平均単価
成鰻平均単価は、全国平均単価
(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

B図 あゆ収穫量及び産出額の推移



C図 きんぎょ種類別生産量及び産出額の推移



(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

5 流通加工

水産物流通の動向

●中央卸売市場・地方卸売市場の流通量約17.3万 t

本県の水産物を取扱う市場は、2020年4月現在で中央卸売市場2、産地地方卸売市場13、消費地地方卸売市場6の計21市場があり、全市場において2019年に取引された水産物は17.3万 t、1,398億円で、前年（18.2万 t、1,467億円）と比べ数量で0.9万 t、69億円の減少となっています。産地市場の取扱量は4.7万 tで、このうち県外へ移出された水産物は0.5万 t（11.2%）でした。消費地市場の取扱量は1.2万 tで、このうち県外から移入された水産物は0.5万 t（43.9%）でした（A図）。

●産地市場の平均単価は2.3%低下

2019年の産地市場（愛知県内の産地地方卸売市場13市場平均）における生鮮魚の1kg当たりの平均単価は257円となり、前年に比べ6円（2.3%）低下しました。種類別では、魚類が135円で前年に比べ18円（15.4%）上昇しています。貝類は737円で142円（16.2%）低下しました（B図）。

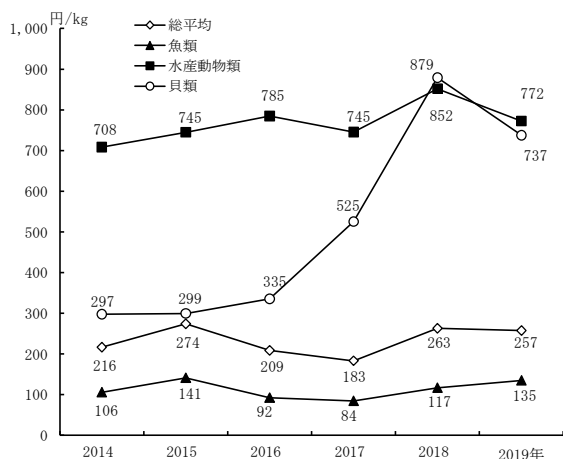
●消費地価格の総平均は0.7%上昇

消費地市場（名古屋市中心卸売市場）における水産物の1kg当たりの総平均価格（取扱金額／取扱数量）は1,023円で前年に比べ7円（0.7%）上昇しました。また、種類別では、生鮮水産物は1,032円で前年より34円（3.4%）、冷凍水産物は1,336円で18円（1.4%）上昇し、加工水産物は1,016円で24円（2.3%）低下しました（C図）。

A図 2019年の市場流通状況

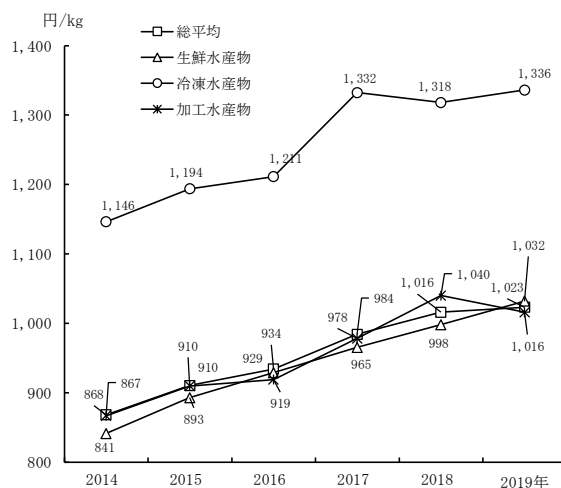
		0		20		40		60		80		100%	
産地市場 13市場 47,419t	出荷先	県内 42,121t (88.8%)						県外 5,298t (11.2%)					
	品目	生鮮魚介類 47,406t (99.97%)						水産加工品 12t (0.03%)					
消費地市場 6市場 11,946t	入荷先	県内 6,696t (56.1%)						県外 5,250t (43.9%)					
	品目	生鮮魚介類 2,644t (22.1%)		水産冷凍品 6,673t (55.9%)				水産加工品 2,628t (22.0%)					

B図 産地市場における水産物価格の推移



(資料 愛知県地方卸売市場年報)

C図 消費地市場（名古屋市中心卸売市場）における水産物価格の推移



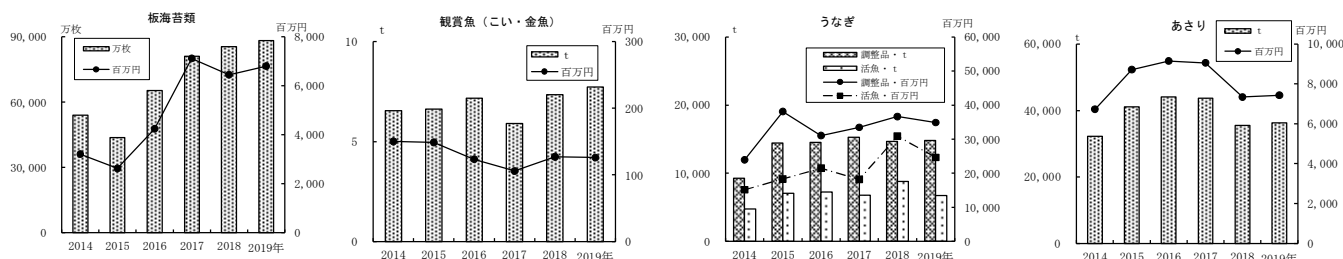
(資料 名古屋市中心卸売市場年報)

〈主要な問題の解説〉

〈水産物の輸入〉

県水産業の主要品目について、近年の輸入量（全国）の推移を見ると、板海苔類、観賞魚（こい、金魚）、うなぎは、増加傾向にあります。一方あさりは、減少傾向にあります（A図）。

A図 品目別の輸入量・輸入金額の推移



(資料 貿易統計)

〈水産物の消費〉

我が国における年間1人当たりの魚介類消費量は、減少傾向が続いており、10年前に比べて数量で25.5%、金額で1.2%減少しています。肉類が数量で30.5%、金額で40.6%増加しているのと対照的であり、消費者の魚離れが顕著になっています（A表）。

水産物は、カルシウムを始めとするミネラルのほか、不飽和脂肪酸であるDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）等、人の健康に有益な機能成分を有し、魚介類をバランス良く消費することにより、健康増進が期待されることから、引き続き魚食普及に向けた取り組みが重要となっています。

A表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：g）

年	2010	2018	2019	2020	増減率(%)	
					20/10	20/19
生鮮魚介計	10,883	7,874	7,733	8,105	▲ 25.5	▲ 4.8
鮮魚小計	9,768	7,167	7,000	7,316	▲ 25.1	▲ 4.5
まぐろ	799	647	650	688	▲ 13.9	▲ 5.8
あじ	454	313	284	278	▲ 38.7	▲ 2.1
いわし	265	215	185	196	▲ 26.1	▲ 5.9
かつお	359	273	298	243	▲ 32.3	▲ 18.2
かれい	403	239	235	252	▲ 37.5	▲ 7.0
さけ	949	841	848	962	▲ 1.4	▲ 13.4
さば	411	324	291	303	▲ 26.3	▲ 4.2
さんま	541	381	258	149	▲ 72.5	▲ 42.2
たい	227	142	138	189	▲ 16.8	▲ 37.1
ぶり	672	543	517	589	▲ 12.4	▲ 13.9
いか	816	387	371	414	▲ 49.3	▲ 11.4
たこ	270	181	181	219	▲ 18.8	▲ 20.7
えび	635	452	452	498	▲ 21.5	▲ 10.2
かに	234	120	122	133	▲ 43.1	▲ 9.3
貝類小計	1,111	699	720	772	▲ 30.6	▲ 7.2
あさり	379	237	244	252	▲ 33.5	▲ 3.2
しじみ	130	96	103	88	▲ 32.1	▲ 14.7
かき	195	157	140	148	▲ 24.2	▲ 5.5
ほたて	290	132	152	194	▲ 33.2	▲ 27.2
塩干魚介計	3,016	2,331	2,262	2,452	▲ 18.6	▲ 8.5
塩さけ	536	429	445	485	▲ 9.6	▲ 8.9
(参考) 生鮮肉	13,917	16,459	16,395	18,160	▲ 30.5	▲ 10.8
牛肉	2,245	2,254	2,201	2,436	▲ 8.5	▲ 10.7
豚肉	6,003	6,976	7,131	7,793	▲ 29.8	▲ 9.3

B表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：円）

年	2010	2018	2019	2020	増減率(%)	
					20/10	20/19
魚介類支出計	26,531	24,834	24,869	26,217	▲ 1.2	▲ 5.4
生鮮魚介計	15,456	13,926	13,935	14,783	▲ 4.4	▲ 6.1
鮮魚小計	13,941	12,805	12,805	13,572	▲ 2.6	▲ 6.0
まぐろ	1,836	1,746	1,754	1,837	▲ 0.1	▲ 4.8
あじ	448	383	361	363	▲ 19.0	▲ 0.5
いわし	206	184	156	156	▲ 24.3	▲ 0.2
かつお	522	472	486	440	▲ 15.7	▲ 9.5
かれい	461	324	308	315	▲ 31.7	▲ 2.1
さけ	1,265	1,579	1,622	1,781	▲ 40.8	▲ 9.8
さば	352	328	312	319	▲ 9.2	▲ 2.2
さんま	370	372	246	182	▲ 50.9	▲ 26.3
たい	382	298	284	381	▲ 0.2	▲ 34.4
ぶり	1,017	969	939	1,049	▲ 3.2	▲ 11.8
いか	796	594	588	654	▲ 17.9	▲ 11.1
たこ	434	408	423	502	▲ 15.6	▲ 18.8
えび	1,079	951	962	1,057	▲ 2.0	▲ 9.8
かに	631	472	528	584	▲ 7.3	▲ 10.6
貝類小計	1,516	1,120	1,130	1,211	▲ 20.1	▲ 7.2
あさり	365	247	254	264	▲ 27.7	▲ 3.9
しじみ	175	133	134	124	▲ 28.8	▲ 7.2
かき	325	294	261	266	▲ 18.0	▲ 2.1
ほたて	477	316	346	417	▲ 12.6	▲ 20.6
塩干魚介計	4,904	4,589	4,500	4,708	▲ 4.0	▲ 4.6
塩さけ	657	723	735	752	▲ 14.4	▲ 2.3
魚肉練製品	2,903	2,763	2,822	2,916	▲ 0.4	▲ 3.3
他の魚介加工品	3,268	3,556	3,612	3,810	▲ 16.6	▲ 5.5
(参考) 生鮮肉	19,279	24,671	24,086	27,101	▲ 40.6	▲ 12.5
牛肉	6,133	7,339	7,131	8,025	▲ 30.8	▲ 12.5
豚肉	7,771	10,266	9,979	11,139	▲ 43.3	▲ 11.6

資料：2020年度水産白書（水産庁）より（総務省「家計調査」

（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）に基づき水産庁で作成）

6 技術の開発・普及

●試験研究の動き

2016年3月に策定した「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020」（以下、基本計画2020）に基づいて行ってきた試験研究の成果と今後の課題を整理し、2020年12月に新たに「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2025」（以下、基本計画2025）を策定しました。今後は基本計画2025の目標を達成するため、研究課題を設定し、試験研究を実施していきます。

●「基本計画 2020（水産業部門）」の重点研究目標ごとの主な成果

5つの重点研究目標のそれぞれについて、特に優れたものや社会的関心の高かったものの成果は以下のとおりです。

重点研究目標	主な成果
多様な生態系を育む内湾環境の創出	内湾環境のモニタリングと情報発信、大型赤潮の発生予察技術の実用化、干潟・浅場造成におけるダム堆積砂によるアサリ発生の効果の解明、貧酸素水塊に発生する硫化水素に対する鉄イオンの抑制効果の解明
水産資源の合理的な漁獲による持続的利用	イワシ類の資源量予測の精度向上及び禁漁区設定等の提案、カレイ類、アナゴ、シャコなど魚種毎の資源管理手法開発、小型底びき網漁具の改良
環境変化に対応した増養殖技術による安定的な漁業生産の実現	アサリの減耗要因の解明及び保護対策としての砂利覆砂や被覆網の有効性解明、ハマグリの高効率な稚貝育成手法の開発、ノリのバリカン症の原因解明
内水面水産資源の維持・増大と養殖技術の高度化	ウナギふ化仔魚の飼育が可能である初期餌料、ウナギ雌化技術を開発及び特許の申請、栽培漁業センターの新しいアユ種苗の有効性確認、「絹姫サーモン」の生産歩留まりの向上技術開発
愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応	高水温に強い品種と生産力の高い品種を混ぜたノリの混合種苗作出及び普及、新しい金魚品種サクラチョウテンガンの開発

●「基本計画2025（水産業部門）」の重点研究目標と研究事項

基本計画2020の成果と今後の課題を踏まえ、SDGsの達成等の社会的な要請に早期に応えることも目指して、効率的に試験研究に取り組み、スピード感を持って生産現場へ解決策を提示するため、新たに3つの重点研究目標に整理し、以下のとおり策定しました。

重点研究目標	研究事項
豊かな水産資源を育む漁場環境の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養塩環境の管理技術の開発 ・漁場環境の ICT 技術を活用したモニタリングと漁業被害軽減技術の開発 ・漁場機能を高める干潟・浅場造成技術の開発
気候変動等の環境変化に対応した水産資源の持続的利用	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の評価手法の開発 ・水産資源の持続的利用に必要な管理手法の開発 ・漁業経営の安定化につながる漁業技術の開発
地域の特性を生かした増養殖の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の維持増大・有効活用のための増養殖技術の開発 ・漁業経営の多角化のための増養殖技術の開発

＜主要な問題の解説＞

＜弥富金魚の新品種「サクラチョウテンガン」の開発＞

○背景

弥富市を中心とする海部地域南部は、全国有数のきんぎょ生産量を誇っています。しかし近年、原材料費の高騰、高齢化による労働力の低下、海外からの安価なきんぎょの流入により、厳しい経営環境にさらされています。更に2020年には新型コロナウイルスの感染拡大により各地でイベントの中止が相次ぎ、すくい用きんぎょの需要が大幅に低下するなど新たな問題に直面しています。きんぎょ養殖業の経営安定を図るには、需要の回復が喫緊の課題となっています。

水産試験場では以前より新品種の開発に取り組んでおり、これまでに、2007年度にアルビノリュウキン、2008年度にアルビノランチュウ、2013年度にアルビノチョウテンガンを開発しています(A図)。これら新品種は、本県の特徴である多品種生産のさらなる強化や高値での取引が見込まれ、養殖経営の収益向上に寄与します。また、新品種の普及により、「弥富金魚」の認知度及びブランド力を向上させることで、きんぎょ需要の回復・拡大の波及効果が期待されます。



A図 これまでに水産試験場が開発した新品種

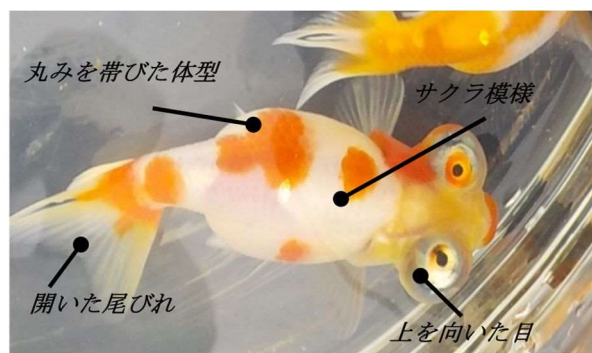
○技術開発の状況

水産試験場では、2020年度に弥富金魚の新品種サクラチョウテンガンの開発に成功しました。サクラチョウテンガンの特徴は、赤と白のまだら模様所にきらきらと輝く鱗(サクラ模様)、上を向いた大きな目玉及び丸みを帯びた体型です(B図)。選抜育種法により、C図のとおり2015年度より交配を開始し、既存品種であるチョウテンガンと弥富生まれのサクラニシキを掛け合わせるにより作出しました。主に目が上を向く個体を選別し、その他に基本的な形態(尾びれの開き具合や背中中の滑らかさなど)を考慮して選抜育種を進めました。

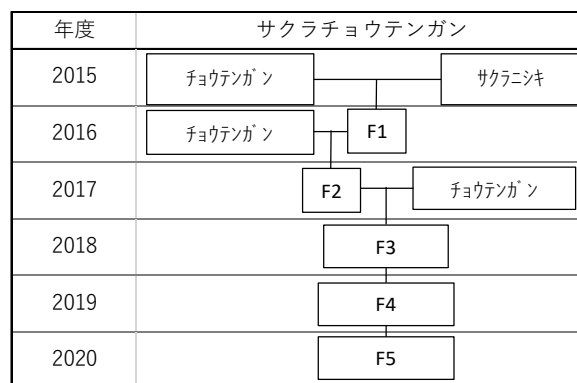
2019年度にはきんぎょ生産者に品種の完成度や生産意欲について聞き取り調査を行い、生産者からは完成度が高いとの評価を得たため、2020年度に孵化した稚魚約6万尾を生産者4名に配布し、実際の養殖池で試験飼育を開始しました。

試験飼育の結果、25尾が2020年10月19日に市場へ初出荷され、予想を超える高値で取引されました。また、多くのメディア(新聞、テレビ、ラジオなど計24件)で報道されるなど、注目を集めました。

試験飼育により高い市場価値が明らかとなったため、今後はより多くの生産者へサクラチョウテンガンの稚魚を試験配布し、更に普及を進めていきます。



B図 サクラチョウテンガンの特徴



C図 サクラチョウテンガンの交配系統図

7 時の話題

食と緑の基本計画 2025 及び愛知県漁業振興計画について

1 「食と緑の基本計画 2025」の趣旨

愛知県では、2004年4月に施行した「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」に基づき、農林水産施策の基本方針として、5年ごとに「食と緑の基本計画」を策定しておりますが、2020年12月に新たに「食と緑の基本計画 2025」（計画期間：2021～2025年度）を策定しました。

2 「食と緑の基本計画 2025」の特徴

(1) 2025年に“めざす姿”を定め、施策の柱として体系化しました。

生産現場における“めざす姿”：「持続的に発展する農林水産業の実現」

県民の暮らしにおける“めざす姿”：「農林水産の恵みを共有する社会の実現」

(2) “めざす姿”を踏まえ、5つの目標を設定しました。

①農業産出額 3,150億円、②県産木材生産量 18.0万 m^3 、③漁業産出額 410億円

④県産農林水産物を優先して購入したい県民の割合 25.0%

⑤農山村地域の防災・減災面積 5年間で6,500ha

(3) 目標達成に向けた取組を重点プロジェクトとしてパッケージ化しました。

〔緊急〕 魅せよ愛知の底力、コロナ禍克服プロジェクト

〔重点〕 技術力×人材の活躍で切り開く農業生産力向上プロジェクト

〔重点〕 持続可能な社会に向けた「あいちのスマート林業」実現プロジェクト

〔重点〕 豊かな海の再生に向けた漁業生産力強化プロジェクト（A図）

〔重点〕 アジア競技大会に向けたあいちの農林水産業魅力向上プロジェクト

〔重点〕 安全・安心な暮らしを守る農山漁村地域防災・減災プロジェクト

A図 豊かな海の再生に向けた漁業生産力強化プロジェクトのイメージ



3 「愛知県漁業振興計画」の趣旨

愛知県の水産業は、環境の変化による水産資源の減少や、沿岸の大規模開発による漁場の喪失、栄養塩類の減少による漁場生産力の低下に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による水産物需要の低下もあり厳しい状況にあります。また、漁業法改正により資源管理や漁業権、漁業許可の制度が見直されるなど、変化への対応が求められています。このような状況に対処し、将来に向けて愛知県の水産業が持続的に発展していくために必要な施策を示した計画で、「食と緑の基本計画 2025」の個別計画として、2021年3月に策定しました。

4 「愛知県漁業振興計画」の特徴

「食と緑の基本計画 2025」で掲げた「2025年に漁業産出額 410 億円」を当面の目標とし、今後 10 年間（2021 年～2030 年）に、特に重点的に取り組むべき事項を、重点施策として 3 つの柱に構成しました（A 表）

A 表 愛知県漁業振興計画の重点施策

1 豊かな水産資源を育む海づくり	
(1) 新しい漁場づくり	<ul style="list-style-type: none">● 干潟・浅場造成の拡充● 砕石や砂利を活用した貝類増殖場の造成● 干潟や藻場の機能保全活動への支援● 魚礁漁場の機能維持
(2) 栽培漁業の強化	<ul style="list-style-type: none">● 新規魚種の生産や既存魚種の増産● 栽培漁業センターの施設整備
(3) 栄養塩環境等の適切な管理	<ul style="list-style-type: none">● 漁業生産に必要な栄養塩量の解明● 漁場環境監視体制の整備
(4) 新たな資源管理への対応	<ul style="list-style-type: none">● 科学的な知見に基づく水産資源の適切な管理
(5) 水産技術の高度化	<ul style="list-style-type: none">● 二枚貝類等の増養殖技術の開発● のり養殖における温暖化や食害対策等の技術開発● 内水面漁業・養殖業の振興に向けた技術開発● 試験研究体制の充実
2 漁業者が儲かる経営体づくり	
(1) 養殖業の振興	<ul style="list-style-type: none">● 新たな養殖業への支援● のりなど藻類養殖業への支援強化
(2) 漁業者の設備投資への支援	<ul style="list-style-type: none">● 漁船導入への支援● 金融支援の強化
(3) 漁業の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none">● 新規就業者やリーダーの育成
(4) 県産水産物や水産業の PR	<ul style="list-style-type: none">● 子どもたちへの啓発普及● 産地と連携した情報発信
3 未来につながる水産業の構造改革	
(1) 漁協経営の合理化	<ul style="list-style-type: none">● 新たな時代に即した漁協経営体制の構築
(2) 漁港施設整備の促進	<ul style="list-style-type: none">● 県管理漁港・港湾の整備の促進● 市町管理漁港の整備の促進
(3) 施設整備への支援	<ul style="list-style-type: none">● 地域の拠点となる施設整備への支援● 新たな市場流通システムの構築

漁業法改正に伴う新たな資源管理と漁業調整規則の改正について

1 漁業法改正

国は2018年12月14日に「漁業法等の一部を改正する等の法律」を公布し、2020年12月1日に施行しました。改正漁業法第6条では、「国及び都道府県は、漁業生産力を発展させるため、水産資源の保存及び管理を適切に行うとともに、漁場の使用に関する紛争の防止及び解決を図るために必要な措置を講ずる責務を有する」と明記されています。本県においても改正漁業法に基づく適切な資源管理と漁業調整を行う必要があります。

2 資源管理

改正漁業法の施行により、資源管理の体制が新しくなりました。新たな資源管理制度では、漁獲情報などを基に科学的な調査や資源評価を行い、その結果を踏まえた資源管理の目標達成のために、数量管理（TAC管理）や資源管理協定などの資源管理措置を行うことで、資源の維持・増大を目指しています。

(1) 資源評価・対象魚種の拡大

国、都道府県の研究機関では、水産資源の水準や動向を調査する資源評価に取り組んでおり、調査対象魚種を2018年度の50種類から、2023年度までに200種程度にまで拡大することを目指しています。愛知県でも多くの魚種について資源調査を行っており、今後も既存魚種の調査に加えて、対象魚種の拡大に対応していきます（A表参照）。

A表 資源評価対象魚種の拡大

	～2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2023年度
全国	50種	67種	119種	192種	200種程度
愛知県が資源評価に取り組む主な魚種	まあなご しゃこ とらふぐ等	(拡大魚種) くるまえび ひらめ まだい等	(拡大魚種) すずき あおめえそ まだこ等	(拡大魚種) あさり	—

(2) TAC管理・対象魚種の拡大

TAC管理とは、魚種ごとに漁獲してもよい量の上限を定め、その数量を管理することで水産資源を維持・管理する方法です。2021年現在は8魚種がTAC対象種で、我が国の総漁獲量の6割をカバーしていますが、国は2023年度までに8割をカバーするために、TAC対象種の拡大を目指しており、15種が追加候補魚種として示されています（B表参照）。

B表 現行TAC魚種と追加候補魚種

現行魚種（8魚種）		追加候補魚種（15魚種）		
まあじ	ずわいがに	かたくちいわし	まだい	いかなご
まいわし	さんま	ぶり	ひらめ	にぎす
さば類	すけとうだら	うるめいわし	とらふぐ	まだら
するめいか		かれい類	きんめだい	ほっけ
くろまぐろ		さわら	むろあじ類	べにずわいがに
※下線魚種は本県配分魚種				

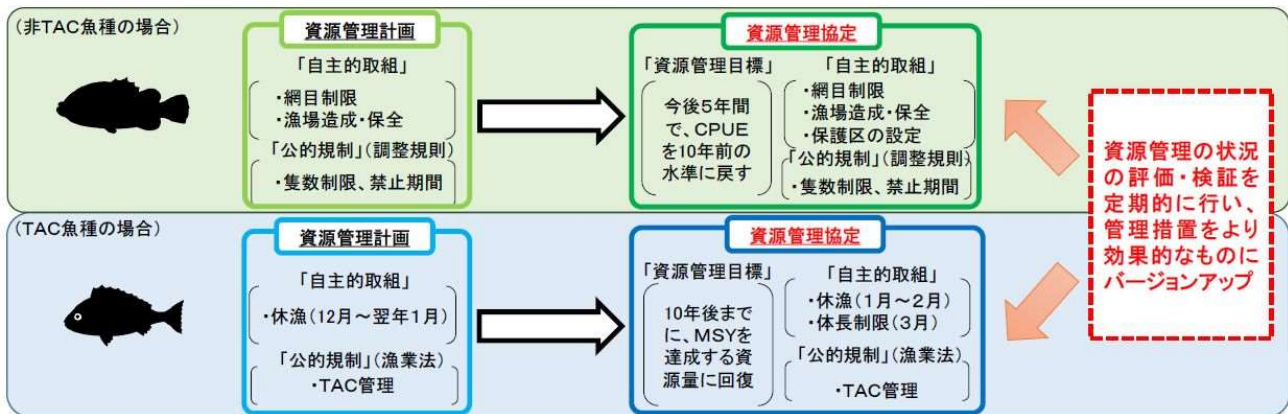
(3) 資源管理協定

これまで、漁業者は資源管理計画を策定し、自主的な資源管理措置に取り組んできました。改正漁業法では、漁業者が資源管理協定を新たに締結し、農林水産大臣又は都道府県知事が認定する制度が設けられており、2023年度までに資源管理計画は資源管理協定へ移行することとなっています。

資源管理協定では、資源調査や資源評価による利用可能な科学情報を用いて、資源管理目標を設定し、その目標実現のための資源管理措置に取り組みます（A図）。

また、資源管理の状況の評価・検証を定期的に行い、その結果に応じた管理措置により、効果的な資源管理を行うこととしています。

A図 資源管理計画から資源管理協定への移行



水産庁 HP より (<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/kaikaku/attach/pdf/suisankaikaku-35.pdf>)

3 愛知県漁業調整規則の改正

漁業調整規則は、漁業法及び水産資源保護法に基づいて、漁業の調整及び水産動植物の採捕に関する制限又は禁止等について規定しています。漁業法改正に伴い、愛知県漁業調整規則を約70年ぶりに全部改正して令和2年12月1日に施行しました。ここでは主な改正内容を紹介します。

(1) 漁業の許可手続きの見直し（第11条）

公正かつ安定的な制度運用が確保されるよう大臣許可漁業の規定に準じた手続きに改正しました。具体的には、許可に当たり、許可する隻数、船舶の総トン数、推進機関の馬力数等に関する制限措置を公示して申請を受け付け、申請数が公示した許可する隻数を超えた場合には、予め定めた基準に基づいて決定した者に許可をします。

(2) 新たな漁業の許可化（第4条）

漁業法では密漁対策が強化されたことから、漁業権や漁業許可に基づかない素潜りによりなまこをとる漁業を新たに「なまこ素潜り漁業」として知事の許可を要する漁業としました。

(3) 資源管理の状況等の報告（第21条）

適切な資源管理を確保するため、漁業の許可を受けた者は漁獲量の実績、操業日数や操業区域、資源管理に関する取り組み状況等の報告が義務付けられました。

(4) その他

許可の適格性（第10条）、許可証の備付等の義務（第25条）、遊漁者等の漁具又は漁法の制限（第42条）、衛星船位測定送信機の備え付け命令等（第48条）、漁具の標識（第51条）等を新設又は改正しました。

新たな養殖業導入実証事業について

1 事業の目的

天然の水産資源に依存する漁船漁業は、季節や年により変化する漁獲対象種の資源状況により、漁獲量の変動が大きく、漁家経営が不安定になりやすいことが課題です。

しかし、漁船漁業と養殖業の複合経営を行うことで、漁船漁業の不漁時の収入減を補うことができ、経営の安定化を図ることができると考えられます。

そこで、県では、シングルシード式のかき養殖やあさりのカゴ式養殖など新しい養殖技術の実証試験を行い、地域への導入を検討しています。

2 事業の内容

(1) かきのシングルシード式養殖試験

通常の数式とは異なり、一粒ずつ独立したかき種苗をカゴに入れて養殖する方法で、沖合だけでなく三河湾内の浅い場所でも養殖が可能です（A図）。この手法で養殖したかきは、丸みを帯びた丈夫なかきになり、商品価値が高くなると言われています（B図）。愛知県では初めての試みですが、漁業者の方々と協力しながら作業を進めています（C図）。

また、将来的な大量生産を見据え、養殖用の種苗を自前で確保するために、稚がきの天然採苗試験も併せて実施しています（D図）。

A図 シングルシード式養殖施設



B図 育成中のかき



C図 漁業者の方々との作業



D図 天然採苗で得られた稚がき



(2) あさりのカゴ式養殖

あさりをカゴに入れて、海中に垂下して養殖する方法で（E図）、短期間であさりの身入りが改善し生残率や商品価値が向上するので、あさり資源の冬季生残率の向上や、食用として販売するあさりの価値向上を図ることができます（F図）。

E図 カゴ式養殖施設



F図 育成したあさり



3 今後の展開

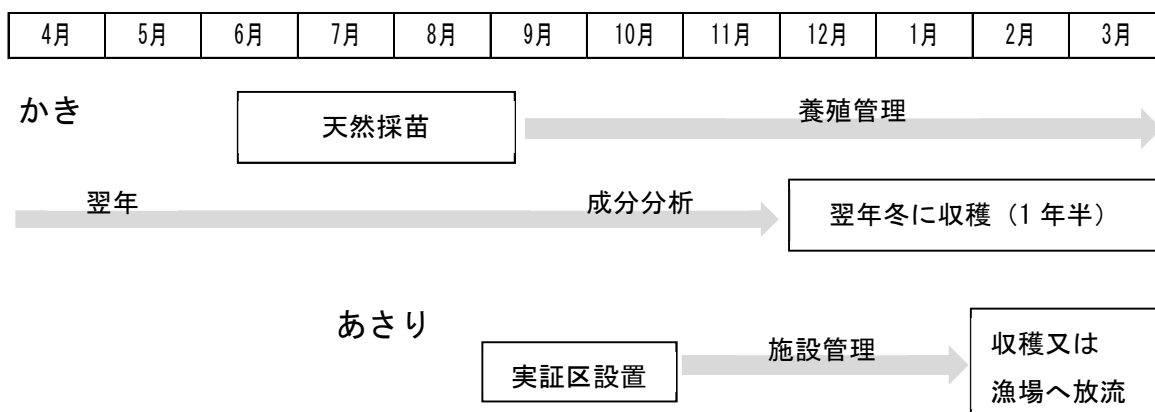
2020年度はごく小規模な取り組みでしたが、2021年度以降は、かき、あさりともに県内3カ所ずつに規模を拡大して実証を進めていきます（G図）。

かきのシングルシード式養殖については、夏～翌年冬にかけての1年半をかけて、十分に成長させてからの出荷を目指します。あさりのカゴ式養殖については秋から冬までの短期間で身入りや生残率を向上させ、食用としての出荷や漁場への放流を行います（H図）。

G図 実施予定場所



H図 年間スケジュール



学校給食に県産水産物を提供しました

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、在庫が滞留している県産水産物（うなぎ、にじます、しらす）を学校給食食材として提供し、県内漁業者、養殖業者、水産加工業者の支援につなげるとともに、併せて児童生徒の水産業への理解促進を図る取組を行いました（A、B図）。

その結果、50市町村、延べ2,274千人の児童生徒に給食を提供することができました。養殖業者等からは、「春先は外食向けの商品が全く出荷できず困っていたが、本事業により過剰在庫を抱えず、なんとか乗り切ることができた」などといった声が聞かれ、本事業により在庫の解消を図ることができました。

また、給食を食べた児童生徒からは、「うなぎを初めて食べた」、「目が飛び出そうなくらい美味しかった」、「毎日食べたい」、「しらすがふわふわで美味しかった」など好評でした。また、給食の献立を考える栄養教諭からは、「にじますの甘露煮など頭のついた魚を初めて食べる児童も多く、学校給食で新しい食の体験をすることができた」などの感想がありました。

水産物を学校給食に提供するためには様々な課題がありますが、今回の事業をきっかけに本県の美味しい水産物をより多くの児童生徒に食べてもらえる機会が増えることを期待しています。

1 県事業名

県産水産物学校給食提供推進事業費補助金（国事業：国産農林水産物等販売促進緊急対策事業）

2 対象者

公立の小学校、中学校、特別支援学校、夜間定時制高等学校の児童・生徒

3 給食提供時期

2020年12月から2021年3月まで

4 実施状況

水産物	品目	提供量 (トン)	延べ提供校 (校)	延べ提供人数 (人)
うなぎ	白焼き刻み、冷凍蒲焼き刻み	38.9	1,946	784,464
にじます	甘露煮、生冷凍（開き、切身、開き）	19.1	1,159	535,000
しらす	しらす干し、釜揚げしらす、しらす佃煮、しらす山椒佃煮	6.4	2,194	954,536
合計		—	5,299	2,274,000

5 事業実施者

うなぎ：一色うなぎ漁業協同組合（愛知県養鰻漁業者協会）

にじます：愛知県淡水養殖漁業協同組合

しらす：碧南市水産物販売促進緊急対策協議会

南知多町水産物販売促進緊急対策協議会

A図 提供された給食メニューの一例



うなぎごはん



にじますの南蛮漬け



小松菜としらすの混ぜご飯



給食を食べる児童

B図 学校給食に合わせて使用された学習教材

うなぎ

新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けた愛知県の水産業を応援するためのものです。

今日のうなぎは、愛知県の西尾市一色町で、養殖漁業によって育てられました。養殖漁業とは、魚が大きくなるまでを人が管理して育てる方法です。養殖漁業があることで、私たちは安定しておいしい魚を食べることができます。一色町で、養殖漁業の約1/4を生産しています。

川でうなぎの卵をとりまわす。 → 水温で孵化〜1年経ち、出荷をします。 → 大きくなったうなぎをとりまわす。

★うなぎの栄養

- ・ビタミンがたっぷり！ → 体の成長を助けたり、疲れをとりまわします！
- ・体によい脂がたっぷり！ → 脳の働きをよくしたり、血管を丈夫にしたりまわします！

学習教材（うなぎ）

にじます

新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けた愛知県の水産業を応援するためのものです。

今日のにじますは、愛知県の北東部にある北設楽郡という、水のとてもきれいな場所で、養殖漁業によって育てられました。養殖漁業とは、魚の卵から大きくなるまでを人が管理して育てる方法です。養殖漁業があることで、私たちは安定しておいしい魚を食べることができます。

にじますの甘露煮

甘煮とは、しょうゆや砂糖で甘辛く煮た料理のことです。4時間ほど煮ることで、頭や骨までやわらかくなっています。

- ・にじますには、体をつくるたんぱく質が含まれています！
- ・頭や骨も食べることで、骨や歯をじょうぶにするカルシウムもしっかりとることができます！
- ・小さな魚の大切な命をいただきます。感謝してきれいに食べて、すべてをしっかりと自分の栄養にできるとよいですね。

学習教材（にじます）

大きくておいしいうなぎを作り出す技術を開発

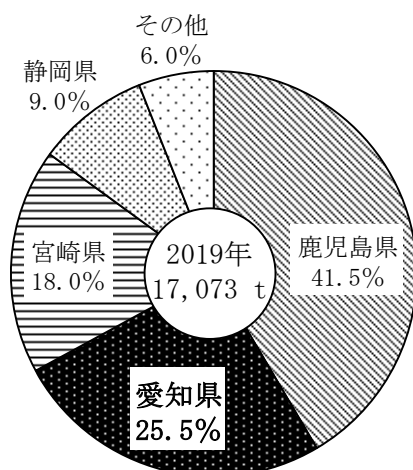
1 技術開発の背景

本県では、西尾市一色町を中心にうなぎの養殖業が盛んで、全国有数の生産量を誇っています。2019年における本県のうなぎ生産量は全国2位となっています（A図）。うなぎ養殖には天然のニホンウナギ稚魚が種苗として用いられますが、稚魚の国内採捕量は大きく減少しています（B図）。

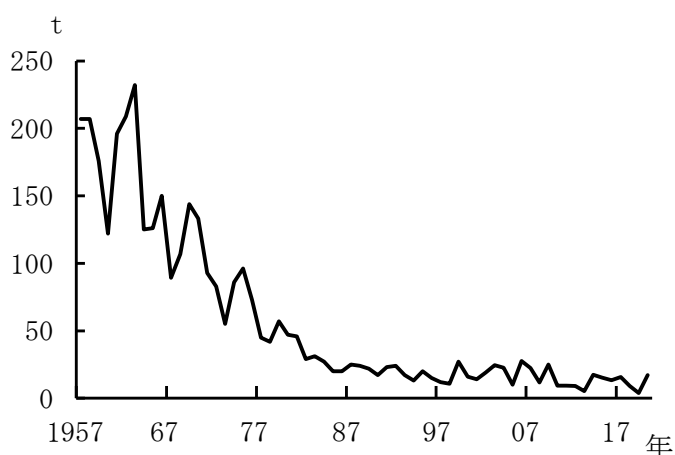
近年、養鰻業界は天然資源を有効利用するために、うなぎを大きく太く育てる「太化^{ふとか}」に取り組んでいます。現在、うなぎの市場では体重200～250gサイズのもの为中心ですが、そのサイズよりも大きく育てることで、一尾から取れる身の量が増え、資源の有効利用が期待できます。

しかし、うなぎは養殖すると大半が雄になってしまい、雄のうなぎは成長すると身や皮が硬くなるという問題があるため、「太化」は思うように進んでいません。この問題を解決し「太化」の取組を促進する技術の開発が求められています。

A図 うなぎ生産量



B図 ニホンウナギ稚魚の国内採捕量の推移



注) 1982年頃までの数字はシラスウナギだけでなく、少し成長した「クロコ」を含む可能性がある。

(資料 農林水産省 漁業・養殖業生産統計年報、水産庁調べ (A、B図))

2 新たな開発技術の内容

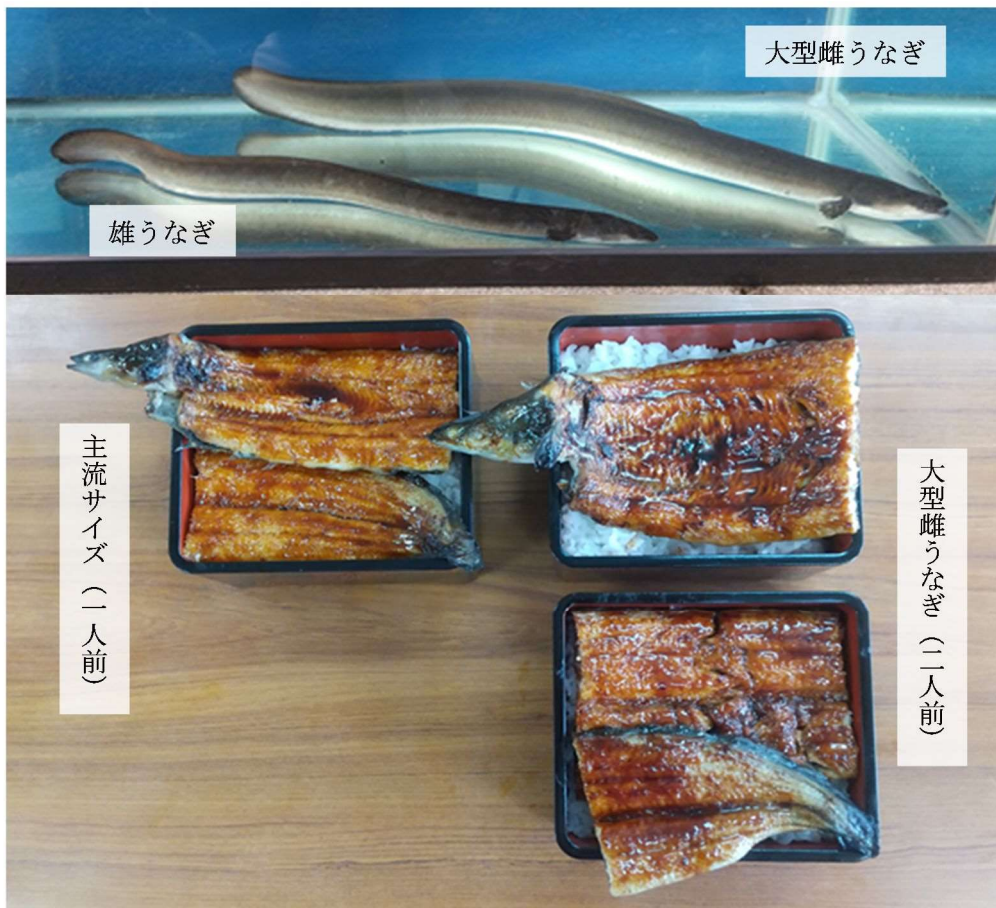
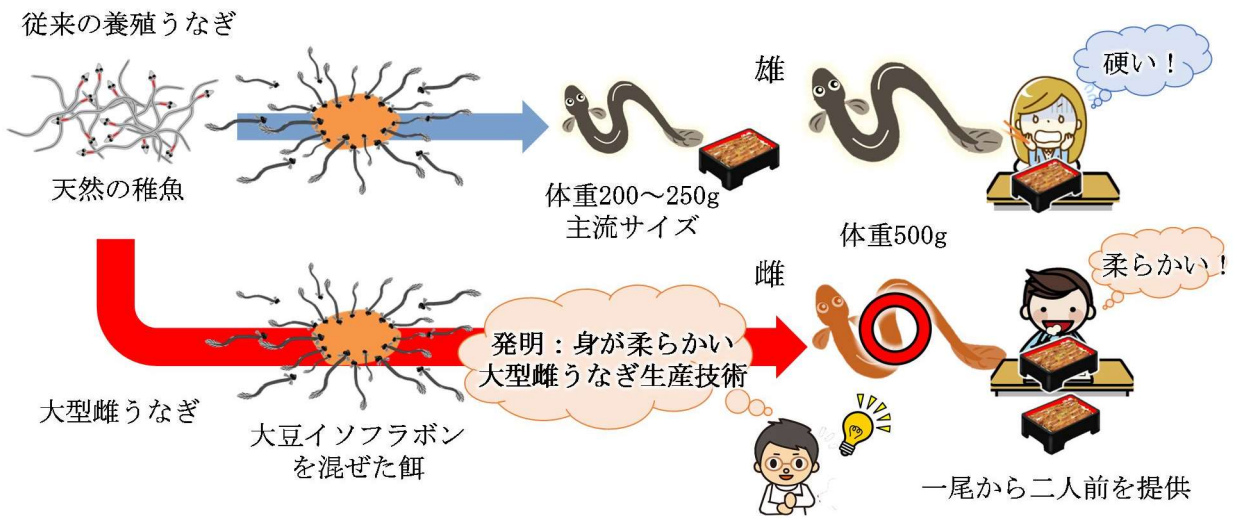
雌のうなぎは雄に比べて大きく成長しやすく身が柔らかいことから、県水産試験場では養殖うなぎを効率的に雌に育てる技術の開発に2018年度から取り組みました。試行錯誤の末、大豆食品に含まれる「大豆イソフラボン」に着目し、これをうなぎの餌に混ぜて育てることにより、養殖うなぎの9割以上を雌にすることに成功しました。

この技術を用いて雌に育てることで、従来の2倍（体重400～500g）の大きなサイズに成長させても、身が柔らかく、おいしいうなぎを育てることができ、限りあるうなぎ資源の有効利用が期待できます（C図）。

なお、本研究は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターの委託事業である「イノベーション創出強化研究推進事業（応用研究ステージ）」により実施しました。

C図 技術開発の模式図と生産した大型雌うなぎ

「一尾のうなぎを大きく育てて限りある資源を有効利用！」



3 実用化に向けて

2021年度から県内のうなぎ養殖業者と協力して、養殖現場での実証試験を開始しています。2023年度頃から養殖業者への技術普及を行い、流通面の課題を解決し、市場への出荷を目指していきます。

[資料編]

目次

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産	36
2 経済活動別就業者数	36
3 愛知県の漁業・養殖業全国順位	37
4 主要品目別全国順位	38

II 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数	39
6 主とする漁業種類別経営体数	40
7 営んだ漁業種類別経営体数	40
8 市町別海面漁業・養殖業経営体数	41
9 内水面養殖業経営体数	41
10 男女別男子年齢別漁業就業者数	41
11 新規漁業就業者数	41
12 高校卒業者の卒後状況	42
13 漁業権免許件数一覧表	42
14 遊漁船業者登録件数	42
15 漁家経済	42
16 漁業近代化資金利子補給承認状況	43
17 漁業振興資金融資状況	43
18 沿岸漁業改善資金融資状況	43
19 地域別海水動力漁船隻数	44
20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数	45
21 農林水産統計による漁船隻数	45

III 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化	46
23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD(COD)の経年変化	47
24 海域における全窒素・全燐の年平均値の経年変化	47
25 赤潮の経年変化(月別、水域別)、苦潮発生状況とその漁業被害	48
26 漁港整備計画別事業費実績	49
27 沿岸漁業構造改善事業等実績	49
28 水産振興対策事業実績	50
29 漁場整備事業実績	50

IV 漁業生産

30 漁業総生産	51
31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量	51
32 海面漁業種類別地域別漁獲量	52
33 海面漁業魚種別漁獲量	53
34 海面漁業魚種別産出額	54
35 海面漁業種類別魚種別漁獲量	55
36 地域別のり生産枚数（暦年）	56
37 地区別のり生産枚数（養殖年）	57
38 内水面漁業魚種別漁獲量	58
39 内水面漁業魚種別産出額	58
40 内水面養殖業魚種別収獲量	58
41 内水面養殖業魚種別産出額	58
42 観賞魚養殖状況	59
43 しらすうなぎ池入数量	59

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格	60
45 水産加工品生産量	60

(付属資料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図	61
47 2020年度の主な水産年譜	62
48 愛知県の水産業に関する地勢	62

*使用上の注意

- ◎表によっては、四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある。
- ◎内水面養殖業の総生産量には、観賞魚の生産量を含まない。
- ◎内水面養殖業の総産出額には、観賞魚の産出額を含む。

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産

(単位：百万円)

項目	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1 産 業		24,909,844	25,006,126	25,760,641	25,469,934	26,053,779	26,461,614
(1) 第 1 次 産 業		116,170	101,074	118,254	131,602	143,490	126,008
農 業		103,240	86,524	101,871	113,979	125,263	108,930
林 業		1,164	1,037	1,007	1,049	1,020	1,085
水 産 業		11,765	13,513	15,376	16,574	17,207	15,993
(2) 第 2 次 産 業		10,529,875	10,806,880	11,376,529	10,976,098	11,242,671	11,477,531
鉱 業		2,397	2,599	2,189	1,559	1,803	1,272
製 造 業		9,182,678	9,396,975	9,969,650	9,537,201	9,793,539	10,061,477
建 設 業		1,344,800	1,407,306	1,404,690	1,437,338	1,447,329	1,414,782
(3) 第 3 次 産 業		14,263,799	14,098,172	14,265,858	14,362,234	14,667,618	14,858,075
電気・ガス・水道・廃棄物処理業		185,375	261,027	374,297	278,730	284,062	285,562
卸 売 ・ 小 売 業		4,062,808	3,805,714	3,796,151	3,822,357	3,933,892	3,928,494
運 輸 ・ 郵 便 業		1,192,785	1,213,246	1,197,982	1,155,316	1,236,917	1,294,219
情 報 通 信 業		874,832	862,760	874,148	901,670	895,049	920,039
金 融 ・ 保 険 業		1,060,507	1,047,644	1,060,169	994,837	1,008,966	1,009,975
不 動 産 業		2,118,580	2,127,786	2,150,570	2,203,662	2,235,745	2,166,253
サ ー ビ ス 業		4,768,912	4,779,995	4,812,541	5,005,662	5,072,987	5,253,533
2 一 般 政 府		1,436,620	1,471,856	1,476,575	1,479,748	1,494,955	1,500,504
3 対 家 計 民 間 非 営 利 団 体		486,918	494,032	533,813	551,377	578,664	571,025
合 計		26,833,382	26,972,014	27,771,029	27,501,059	28,127,398	28,533,143

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

2 経済活動別就業者数（従業地ベース）

(単位：人)

項目	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1 産 業		3,834,731	3,833,705	3,825,599	3,824,743	3,836,777	3,841,677
(1) 第 1 次 産 業		77,307	75,555	74,021	72,401	70,151	67,917
農 業		72,432	70,706	69,274	67,765	65,632	63,446
林 業		817	815	812	811	809	808
水 産 業		4,058	4,034	3,935	3,825	3,710	3,663
(2) 第 2 次 産 業		1,193,805	1,185,627	1,221,415	1,223,771	1,239,649	1,252,627
鉱 業		778	722	642	617	555	536
製 造 業		917,366	919,931	946,294	945,592	960,602	974,822
建 設 業		275,661	264,974	274,479	277,562	278,492	277,269
(3) 第 3 次 産 業		2,563,619	2,572,523	2,530,163	2,528,571	2,526,977	2,521,133
電気・ガス・水道・廃棄物処理業		24,273	23,450	24,126	25,396	25,779	22,398
卸 売 ・ 小 売 業		764,122	755,609	747,438	739,579	732,005	724,689
運 輸 ・ 郵 便 業		236,702	231,823	238,091	245,419	254,525	263,511
情 報 通 信 業		77,151	76,151	75,171	74,211	73,275	72,363
金 融 ・ 保 険 業		89,721	88,256	89,063	88,759	89,037	89,705
不 動 産 業		61,633	61,308	60,978	60,646	60,314	59,984
サ ー ビ ス 業		1,310,017	1,335,926	1,295,296	1,294,561	1,292,042	1,288,483
2 一 般 政 府		200,988	202,532	204,157	205,921	207,797	209,765
3 対 家 計 民 間 非 営 利 団 体		137,118	143,917	151,345	159,451	168,292	177,929
合 計		4,172,837	4,180,154	4,181,101	4,190,115	4,212,866	4,229,371

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

注）「あいちの県民経済計算」の計数は、最近の年度を中心に推計方法の改善等により改定を行うことがあります。

3 愛知県の漁業・養殖業全国順位 (2019年)

(1) 生産量

(単位：t)

	海面漁業	海面養殖業	内水面漁業	内水面養殖業
全国	3,228,025	913,775	21,767	31,108
1位	北海道 882,301	広島 101,952	北海道 6,377	鹿児島 7,169
2位	茨城 290,796	青森 99,138	島根 4,090	愛知 5,725
3位	長崎 250,771	宮城 75,268	青森 3,859	宮崎 3,604
4位	宮城 195,460	北海道 73,851	茨城 2,605	静岡 2,784
5位	静岡 173,404	佐賀 66,913	新潟 407	長野 1,591
	16位 愛知 59,934	21位 愛知 9,744	26位 愛知 36 (111)	

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面漁業における括弧内の数値は県調べ。

海面漁業以外の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

(2) 産出額

(単位：億円)

	海面計	海面漁業	海面養殖業
全国	13,486	8,682	4,802
1位	北海道 2,307	北海道 2,068	愛媛 662
2位	長崎 1,013	長崎 629	鹿児島 549
3位	愛媛 862	宮城 585	長崎 384
4位	宮城 834	静岡 464	熊本 325
5位	鹿児島 760	青森 381	大分 281
6位	青森 527	兵庫 266	佐賀 267
7位	静岡 491	岩手 257	宮城 250
8位	高知 488	高知 257	北海道 239
9位	兵庫 485	三重 241	高知 231
10位	三重 422	宮崎 229	兵庫 219
	25位 愛知 194	19位 愛知 159	22位 愛知 35

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面産出額の都道府県別統計は公表されていない。

海面漁業・養殖業の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

4 主要品目別全国順位

品目	年	順位					全国
		1位	2位	3位	4位	5位	
くるまえばい(ト)	2014	愛媛 95	愛知 59	大分 50	福岡 45	香川 27	377
	2015	愛媛 82	愛知 72	大分 35	香川 30	福岡 29	334
	2016	愛媛 80	愛知 79	大分 39	福岡 35	香川 29	354
	2017	愛媛 69	愛知 64	福岡 46	大分 37	熊本 23	322
	2018	愛知 86	愛媛 68	福岡 47	大分 37	香川 23	357
	2019	愛知 83	愛媛 56	大分 50	福岡 34	熊本 17	320
あなご類(ト)	2014	長崎 624	島根 459	愛知 456	宮城 449	愛媛 319	4,011
	2015	長崎 639	島根 494	宮城 418	愛知 351	茨城 272	3,854
	2016	長崎 577	島根 466	宮城 363	愛知 319	愛媛 280	3,606
	2017	島根 508	長崎 496	宮城 439	愛知 269	茨城 216	3,422
	2018	島根 618	宮城 556	長崎 412	愛知 254	福岡 196	3,490
	2019	島根 632	長崎 513	宮城 316	愛知 233	茨城 226	3,328
がざみ類(ト)	2014	愛知 341	愛媛 286	福岡 277	長崎 177	宮城 173	2,328
	2015	宮城 518	愛知 316	福岡 239	愛媛 204	長崎 90	2,120
	2016	宮城 662	愛知 248	福岡 237	愛媛 152	大分 90	2,160
	2017	宮城 714	福岡 247	愛知 219	愛媛 121	大分 108	2,232
	2018	宮城 747	福岡 219	愛知 185	愛媛 128	北海道 115	2,213
	2019	愛知 532	宮城 334	福岡 209	愛媛 130	北海道 108	2,209
あさり類(ト)	2014	愛知 10,563	静岡 4,127	千葉 2,248	北海道 1,005	三重 446	19,449
	2015	愛知 8,282	静岡 3,437	北海道 1,009	千葉 209	熊本 207	13,810
	2016	愛知 3,973	静岡 1,901	北海道 1,199	福岡 548	千葉 412	8,967
	2017	愛知 1,635	福岡 1,513	北海道 1,312	静岡 968	熊本 730	7,072
	2018	愛知 2,741	福岡 1,735	北海道 1,364	静岡 978	熊本 527	7,736
	2019	愛知 3,880	北海道 1,360	福岡 1,100	静岡 872	熊本 339	7,976
板のり(千枚)	2014	佐賀 1,669,601	兵庫 1,372,422	福岡 1,169,648	熊本 856,097	愛知 382,303	7,105,725
	2015	佐賀 1,772,713	兵庫 1,683,837	福岡 1,222,264	熊本 786,891	(7位)愛知 323,436	7,658,019
	2016	佐賀 1,987,892	兵庫 1,517,402	福岡 1,334,265	熊本 1,013,142	(7位)愛知 340,099	7,792,052
	2017	佐賀 1,784,825	兵庫 1,484,568	福岡 1,423,840	熊本 1,123,015	(7位)愛知 345,317	7,845,680
	2018	佐賀 1,817,031	兵庫 1,705,627	福岡 1,133,857	熊本 857,284	(7位)愛知 278,721	7,285,399
	2019	佐賀 1,738,319	兵庫 1,327,313	福岡 1,179,821	熊本 860,486	(7位)愛知 244,550	6,483,349
うなぎ養殖(ト)	2014	鹿児島 6,838	愛知 4,918	宮崎 3,167	静岡 1,490	三重 292	17,627
	2015	鹿児島 8,157	愛知 5,116	宮崎 3,348	静岡 1,834	徳島 393	20,119
	2016	鹿児島 7,972	愛知 4,742	宮崎 3,255	静岡 1,654	三重 306	18,907
	2017	鹿児島 8,562	愛知 5,780	宮崎 3,262	静岡 1,705	高知 603	20,979
	2018	鹿児島 6,381	愛知 3,459	宮崎 2,539	静岡 1,457	徳島 332	15,111
	2019	鹿児島 7,086	愛知 4,357	宮崎 3,070	静岡 1,534	高知 296	17,071
あゆ養殖(ト)	2014	愛知 1,114	和歌山 992	岐阜 984	滋賀 466	栃木 325	5,163
	2015	愛知 1,160	和歌山 984	岐阜 897	滋賀 460	栃木 333	5,084
	2016	愛知 1,182	和歌山 1,039	岐阜 882	滋賀 504	栃木 330	5,183
	2017	愛知 1,156	和歌山 1,034	岐阜 967	滋賀 491	栃木 325	5,053
	2018	愛知 1,220	和歌山 788	岐阜 650	滋賀 341	栃木 327	4,310
	2019	愛知 1,171	岐阜 910	和歌山 584	栃木 310	滋賀 292	4,089

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

Ⅱ 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数

年	階層 地域	総数	漁船 非使用	無動力船	船外機船	1 t 未満	1 ~ 3 t	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上	小型定置 地びき網	浅海養殖
2003	県計	2,790	75	1	—	768	312	508	262	296	78	490
	海部	3	x	—	—	x	x	x	x	x	x	3
	知多	1,349	2	—	—	152	245	331	123	182	27	287
	西三河	847	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	591	26	1	—	325	17	63	47	33	37	42
2004	県計	2,741	71	—	—	762	319	482	250	309	73	475
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1,325	1	—	—	163	247	303	120	185	23	283
	西三河	797	45	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	25	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2005	県計	2,700	61	—	—	780	300	486	239	304	75	455
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1,302	—	—	—	161	231	309	120	185	23	273
	西三河	764	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	631	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2006	県計	2,659	63	—	—	775	292	477	230	301	74	447
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	知多	1,281	—	—	—	153	227	301	119	185	23	273
	西三河	762	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
2008	県計	2,530	96	2	776	29	263	438	245	270	47	364
	知多	1,199	1	—	152	16	198	272	125	175	20	240
	西三河	736	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	595	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
2013	県計	2,348	58	1	780	71	263	394	222	248	44	267
	知多	1,104	1	—	189	11	158	234	117	163	20	211
	西三河	695	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	549	23	1	245	58	83	27	44	27	15	26
2018	県計	1,924	61	—	683	36	164	323	172	226	43	216
	知多	993	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	西三河	479	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	452	37	—	259	24	27	15	25	23	12	30

資料：2003～06年は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」
(農林水産省統計部)

注) 2007年以降は漁業センサス年のみ公表(県計のみ)となった。

6 主とする漁業種類別経営体数

区分 \ 年	2004	2005	2006	2008	2013	2018
県計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	581	584	563	539	492	388
まき網	3	3	3	4	-	-
刺網	261	264	251	226	183	193
釣	269	256	260	204	184	171
はえ縄	26	26	26	23	7	7
地びき網	15	19	18
船びき網	116	114	115	106	102	110
小型定置網	58	56	56	47	44	43
その他の網漁業	21	4	5
採貝	657	657	660
採藻	17	25	25
採貝・採藻	747	796	536
潜水器漁業	129	125	124	113	124	125
その他の漁業	130	112	107	132	141	126
のり養殖業	449	421	413	341	233	184
わかめ養殖業	16	26	26	19	31	31
その他養殖業	10	8	8	4	3	1

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
注）2007年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

7 営んだ漁業種類別経営体数

区分 \ 年	2004	2005	2006	2008	2013	2018
県計	4,427	4,311	4,215	3,598	3,157	2,593
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	718	715	683	676	587	451
まき網	4	4	3	4	3	2
刺網	506	477	461	370	289	272
釣	558	540	534	348	272	268
はえ縄	96	94	94	84	63	62
地びき網	17	19	20
船びき網	139	131	130	139	118	129
小型定置網	107	103	100	83	63	61
その他の網漁業	28	25	9
採貝	1,055	1,009	1,026
採藻	90	92	89
採貝・採藻	1,027	981	687
潜水器	142	159	157	138	139	142
その他の漁業	421	402	381	272	267	230
のり養殖業	468	454	426	358	244	191
わかめ養殖業	92	100	99	58	95	82
その他養殖業	10	8	8	9	7	3

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
注）2007年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

8 市町別海面漁業・養殖業経営体数

年	2004	2005	2006	2008	2013	2018
市町						
県計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
弥富市	3	3	-	-	-	-
常滑市	211	210	195	189	171	148
半田市	-	-	-	-	-	1
武豊町	-	-	-	-	-	1
美浜町	131	129	129	117	105	86
南知多町	983	963	957	893	828	757
碧南市	54	53	53	47	60	25
西尾市	60	51	49	52	634	454
一色町	496	477	480	459		
吉良町	87	86	84	79		
幡豆町	99	96	95	98		
刈谷市	1	1	1	1	1	-
蒲郡市	99	94	82	81	66	68
豊橋市	9	13	14	15	-	-
田原市	63	524	520	499	483	384
赤羽根町						
渥美町	445					

資料：2006年以前は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

- 注) 2003年に田原町と赤羽根町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 2005年に田原市と渥美町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 2011年に西尾市、一色町、吉良町、幡豆町が合併したため、統計上の区分が西尾市となった。
 2007年以降は、漁業センサス年のみの公表となった。

9 内水面養殖業経営体数

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019
区分						
ます類	11	12	12	10	10	11
あゆ	16	16	16	16	16	16
こい	16	14	14	14	13	12
うなぎ	139	136	135	134	133	127
きんぎょ	103	95	91	87	81	74
その他	4	4
計	285	273	268	261	257	244

注) 「その他」は2018年から掲載している。

資料：県水産課調べ

10 男女別男子年齢別漁業就業者数

年	区分	合計	男子				女子	
			計	15～24才	25～39才	40～59才		60才以上
2003		5,304	4,091	178	679	1,467	1,767	1,213
2008		4,964	4,015	132	637	1,356	1,890	949
2013		4,319	3,555	159	586	1,142	1,668	764
2018		3,373	2,937	108	433	1,022	1,374	436

資料：2003年は「稼動量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 2004年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

11 新規漁業就業者数

年度	海部	知多	西三河	新城設楽	東三河	計	中学校卒	高等学校卒	その他学卒	その他(転職等)
2014	1	12	7	0	0	20	1	3	3	13
2015	0	22	7	0	3	32	0	3	10	19
2016	2	8	3	0	5	18	1	4	1	12
2017	0	10	2	2	7	21	1	4	2	14
2018	0	10	0	0	2	12	0	3	2	7
2019	1	9	2	0	2	14	0	6	0	8

資料：県水産課調べ

12 高校卒業者の卒後状況

年	新卒者 総数	大学等 進学者	就業者						その他	漁業就業者 /全就業者 (%)
			総数	第1次産業			第2次産業	第3次産業 ・その他		
				小計	農業・林業	漁業				
2014	61,326	35,861	11,432	50	39	11	6,435	4,947	14,033	0.10
2015	63,156	37,139	11,819	35	24	11	6,896	4,888	14,198	0.09
2016	63,579	37,350	12,192	53	40	13	7,453	4,686	14,037	0.11
2017	65,204	37,728	12,696	45	36	9	7,760	4,891	14,780	0.07
2018	64,684	37,655	12,618	40	28	12	7,976	4,602	14,411	0.10
2019	64,353	37,374	12,662	58	44	14	8,097	4,507	14,317	0.11
2020	63,287	37,368	12,264	41	35	6	7,667	4,556	13,655	0.05

注) 各年3月卒業者

資料: 学校基本調査結果 (県統計課)

13 漁業権免許件数一覧表

種類 内訳	共同漁業権				区画 漁業権	合計
	第1種 第2種	第3種 (つきいそ)	第5種	計		
海 知 多	12	71	-	83	38	121
海 西三河	5	30	-	35	21	56
海 東三河	19	19	-	38	37	75
海 小 計	36	120	0	156	96	252
内 水 面	-	-	23	23	2	25
県 計	36	120	23	179	98	277

注) 1. 海面第3種共同漁業権については、
つきいそ以外は第1種・第2種の欄に
含めてある。

2. 2021年1月1日現在の件数である。

資料: 県水産課調べ

14 遊漁船業者登録件数 (2020年3月31日現在)

地区	尾張・名古屋市	海部	知多	西三河	東三河	その他	計
遊 漁 船 業 者 数	37	12	164	33	15	6	267
(うち漁協所属業者数)	(0)	(1)	(146)	(12)	(10)	(0)	(169)
遊 漁 船 隻 数	39	16	207	48	17	6	333
(うち漁船隻数)	(0)	(1)	(168)	(26)	(11)	(0)	(206)

注) その他は、豊田加茂地区、新城設楽地区の合計

資料: 県水産課調べ

15 漁家経済

(単位: 千円)

年	項目	漁業外事業所得					漁業所得										
		事業 所得	漁業 所得	漁業外 事業 所得	漁業外 事業 収入	漁業外 事業 支出	漁業 収入	漁業支出									
								計	雇用 労賃	漁船・ 漁具費	油 費	種苗代	修繕費	販 売 手数料	減 価 償却費	その他 支 出	
漁船漁業	2014	3,205	3,121	84	108	24	13,947	10,826	2,529	1,138	2,307	-	873	713	883	2,383	
	2015	3,101	3,002	99	170	71	13,066	10,064	2,379	1,192	1,647	-	985	676	707	2,478	
	2016	3,812	3,775	37	43	6	11,917	8,142	1,880	642	1,159	-	999	573	624	2,265	
	2017	3,423	3,142	281	419	138	10,031	6,889	1,966	503	895	1	498	552	670	1,804	
	2018	2,492	2,289	203	355	152	9,365	7,076	1,950	532	1,105	1	528	507	699	1,754	
	2019	3,232	2,995	237	379	142	11,288	8,293	2,013	627	1,330	1	685	662	805	2,170	
のり養殖業	2014	7,044	6,373	671	1,579	908	19,429	13,056	1,637	1,294	2,270	95	1,345	1,285	1,166	3,964	
	2015	8,519	7,751	768	1,556	788	21,883	14,132	1,791	1,318	1,876	101	1,596	1,493	1,196	4,761	
	2016	8,283	8,227	56	486	430	21,784	13,557	2,103	1,606	1,173	164	1,167	1,417	1,469	4,458	
	2017	12,896	12,721	175	348	173	33,520	20,799	3,798	1,415	2,063	209	1,677	2,219	2,075	7,343	
	2018	9,130	9,021	109	297	188	30,611	21,590	3,650	2,215	2,454	194	2,004	1,996	2,397	6,680	
	2019	4,243	3,657	586	658	72	24,752	21,095	4,934	1,437	2,150	269	1,646	1,569	3,273	5,817	

注) 調査期間は、歴年 (1~12月)。

資料: 漁業経営調査 (農林水産省統計部)

漁船漁業は2016年以前は東海2県、17年以降は太平洋中区の数値である。

のり養殖業は東海2県の数値である。

16 漁業近代化資金利子補給承認状況

資金種類 承認額	1号資金(漁船)		2号資金		3号資金		4号資金		5号資金		7号資金		共同利用施設					
	20t以上		20t未満		漁船漁具保管 修理施設等	漁場造成 器具等	漁具養殖 いかだ等	種苗購入等		大臣特認								
年度	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円				
2014	53	817,110	-	-	31	372,760	9	75,760	3	7,410	-	-	9	115,900	-	-	1	245,280
2015	48	1,131,910	-	-	26	351,160	6	67,840	4	14,200	-	-	9	123,500	-	-	3	575,210
2016	65	676,760	-	-	49	524,880	2	11,900	3	10,680	-	-	9	123,500	-	-	2	5,800
2017	66	1,000,700	-	-	38	348,930	6	82,850	7	26,640	-	-	10	153,500	-	-	5	388,780
2018	62	844,340	1	37,000	35	299,000	8	181,880	1	20,000	-	-	9	162,500	-	-	8	143,960
2019	67	768,540	-	-	40	359,870	3	22,480	4	18,300	-	-	12	252,500	-	-	8	115,390
合計	361	5,239,360	1	37,000	219	2,256,600	34	442,710	22	97,230	-	-	58	931,400	-	-	27	1,474,420

資料：県水産課調べ

17 漁業振興資金融資状況

(単位：千円)

年度	件数	貸付額
2014	6	194,500
2015	7	193,000
2016	6	184,500
2017	5	189,000
2018	6	199,000
2019	5	169,000

資料：県水産課調べ

18 沿岸漁業改善資金融資状況

(単位：千円)

年度	合計				資金種類別内訳											
	年度内融資		年度末貸付残高		経営等改善資金				生活改善資金				青年漁業者等養成確保資金			
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2013	4	86,850	42	350,608	4	86,850	37	296,608	-	-	-	-	-	-	5	54,000
2014	1	92,050	38	277,676	-	72,050	33	231,676	-	-	-	-	1	20,000	5	46,000
2015	7	0	39	297,765	7	-	35	261,989	-	-	-	-	-	-	4	35,776
2016	2	90,768	37	245,840	2	90,768	33	218,286	-	-	-	-	-	-	4	27,554
2017	2	23,360	31	198,746	2	23,360	28	179,414	-	-	-	-	-	-	3	19,332
2018	4	40,800	27	176,103	4	40,800	25	162,993	-	-	-	-	-	-	2	13,110
2019	1	14,000	21	136,461	1	14,000	20	127,573	-	-	-	-	-	-	1	8,888
合計	21	347,828	-	-	20	327,828	-	-	-	-	-	-	1	20,000	-	-

資料：県水産課調べ

19 地域別海水動力漁船隻数

年	地 域	総数	5t未満	5～10t	10～15t	15t以上
2012	全 県	5,315	4,542	359	379	35
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,703	2,192	235	261	15
	西 三 河	1,311	1,143	68	92	8
	東 三 河	1,250	1,156	56	26	12
2013	全 県	5,125	4,376	348	368	33
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,598	2,098	231	254	15
	西 三 河	1,274	1,115	64	88	7
	東 三 河	1,202	1,112	53	26	11
2014	全 県	4,965	4,240	331	364	30
	海 部	49	49	-	-	-
	知 多	2,522	2,033	222	253	14
	西 三 河	1,239	1,088	59	85	7
	東 三 河	1,155	1,070	50	26	9
2015	全 県	4,831	4,119	321	361	30
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,467	1,984	216	253	14
	西 三 河	1,198	1,054	58	80	6
	東 三 河	1,120	1,035	47	28	10
2016	全 県	4,680	3,971	319	361	29
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,423	1,942	215	252	14
	西 三 河	1,141	999	56	81	5
	東 三 河	1,070	984	48	28	10
2017	全 県	4,481	3,783	310	359	29
	海 部	43	43	-	-	-
	知 多	2,365	1,890	210	251	14
	西 三 河	1,040	903	52	80	5
	東 三 河	1,033	947	48	28	10
2018	全 県	4,282	3,596	304	354	28
	海 部	42	42	-	-	-
	知 多	2,301	1,827	209	250	15
	西 三 河	951	821	51	75	4
	東 三 河	988	906	44	29	9
2019	全 県	4,103	3,443	284	348	28
	海 部	37	37	-	-	-
	知 多	2,209	1,751	197	246	15
	西 三 河	903	775	50	74	4
	東 三 河	954	880	37	28	9

資料：漁船統計表（水産庁）

20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数

年	機関種類	総 数			5 トン未満			5 トン以上		
		隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数
2012	ジーゼル	1,867	12,235	297,061	1,094	3,493	109,315	773	8,742	187,746
	電気点火	3,448	2,879	175,207	3,448	2,879	175,207	-	-	-
	計	5,315	15,113	472,268	4,542	6,372	284,522	773	8,742	187,746
2013	ジーゼル	1,776	11,812	299,728	1,027	3,316	106,478	749	8,495	193,250
	電気点火	3,349	2,798	179,081	3,349	2,798	179,081	-	-	-
	計	5,125	14,609	478,809	4,376	6,114	285,559	749	8,495	193,250
2014	ジーゼル	1,706	11,475	305,118	981	3,202	106,390	725	8,273	198,728
	電気点火	3,259	2,741	183,343	3,259	2,741	183,343	-	-	-
	計	4,965	14,216	488,461	4,240	5,943	289,733	725	8,273	198,728
2015	ジーゼル	1,652	11,230	310,771	940	3,077	108,264	712	8,153	202,507
	電気点火	3,179	2,692	185,715	3,179	2,692	185,715	-	-	-
	計	4,831	13,922	496,486	4,119	5,769	293,979	712	8,153	202,507
2016	ジーゼル	1,596	11,040	320,841	887	2,925	108,803	709	8,115	212,038
	電気点火	3,084	2,621	183,479	3,084	2,621	183,479	-	-	-
	計	4,680	13,661	504,320	3,971	5,546	292,282	709	8,115	212,038
2017	ジーゼル	1,535	10,824	327,749	837	2,788	108,953	698	8,036	218,796
	電気点火	2,946	2,522	177,778	2,946	2,522	177,778	-	-	-
	計	4,481	13,347	505,527	3,783	5,311	286,731	698	8,036	218,796
2018	ジーゼル	1,473	10,538	328,867	787	2,642	105,564	686	7,897	223,303
	電気点火	2,809	2,416	172,739	2,809	2,416	172,739	-	-	-
	計	4,282	12,954	501,606	3,596	5,057	278,303	686	7,897	223,303
2019	ジーゼル	1,394	10,136	329,239	734	2,459	102,651	660	7,677	226,588
	電気点火	2,709	2,342	169,236	2,709	2,342	169,236	-	-	-
	計	4,103	12,478	498,475	3,443	4,801	271,887	660	7,677	226,588

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

資料：漁船統計表（水産庁）

21 農林水産統計による漁船隻数

年	総 数	無動力船	船外機付船	動 力 船				
				計	3 t 未満	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上
2004	4,559	2	2,485	2,072	526	657	432	457
2005	4,339	2	2,334	2,003	482	650	420	451
2006	4,308	-	2,335	1,973	471	643	410	449
2008	4,426	17	2,621	1,788	406	581	382	419
2013	4,021	5	2,299	1,717	496	524	322	375
2018	3,154	1	1,900	1,253	248	382	271	352

資料：2006年以前は「稼働量調査」、08、13、18年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 使用漁船（ただし運搬船、遊漁船は除く）

2007年以降は漁業センサス年次だけの公表となった。

Ⅲ 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域区分	水域名	類型	地点名	75% 水質値						年平均値					
				2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
伊勢湾	名古屋港(甲)	C	○N-1	6.0	5.1	5.3	4.0	3.7	6.8	4.4	4.0	4.6	3.7	3.2	5.2
			○N-2	3.6	4.2	4.5	3.7	3.8	4.8	3.2	3.2	3.5	3.1	3.2	4.7
			○N-3	3.7	3.1	3.6	3.3	3.4	4.1	3.0	2.8	3.1	2.9	2.8	3.1
			N-10	4.5	3.8	3.6	4.3	3.6	4.6	4.0	3.6	3.3	3.7	3.1	4.3
			N-11	6.0	4.3	3.6	4.0	3.4	5.9	4.5	3.6	3.2	3.4	2.9	4.3
	名古屋港(乙)	B	○N-4	3.6	2.6	3.3	3.1	2.8	4.0	3.1	2.3	2.9	2.8	2.8	3.2
	常滑地先海域	B	○N-5	3.7	3.0	3.0	3.5	4.0	3.8	3.0	2.6	2.7	3.2	3.5	3.3
			N-12	2.6	2.9	2.3	5.0	3.5	3.2	2.4	2.5	2.2	3.5	3.0	2.8
	伊勢湾	A	○N-6	3.5	2.7	2.9	3.1	2.9	3.8	2.9	2.3	2.6	2.7	2.7	2.9
			○N-7	3.1	2.8	2.7	3.4	3.6	3.7	2.8	2.3	2.5	3.0	3.2	2.9
			○N-8	2.3	2.1	2.1	3.2	3.2	3.2	1.9	1.8	1.9	2.7	2.8	3.0
			○N-9	2.5	3.0	2.1	2.8	3.2	2.7	2.0	2.2	1.9	2.6	2.6	2.4
			N-13	2.9	2.5	2.2	2.5	3.2	2.6	2.2	2.1	2.0	2.4	2.8	2.4
衣浦湾	衣浦港	C	○K-1	4.9	4.5	3.4	4.3	5.0	4.8	4.0	3.8	3.0	3.9	4.3	4.1
	衣浦港南部	C	○K-2	4.8	4.4	3.3	4.6	5.2	5.6	3.9	3.6	3.1	4.1	4.5	4.4
			○K-3	5.0	4.6	4.2	4.0	3.9	4.6	3.7	3.4	3.2	3.7	3.9	3.9
	衣浦湾	A	○K-4	3.6	3.5	3.0	3.6	3.9	4.5	3.1	2.9	2.6	3.3	3.5	3.5
			○K-5	3.0	2.7	2.3	2.7	3.0	3.4	2.5	2.2	2.2	2.5	2.8	2.9
			○K-6	3.7	2.8	2.3	3.5	4.4	3.8	2.8	2.5	2.2	2.9	3.5	3.2
			K-7	3.7	3.0	2.6	3.2	4.3	4.1	3.0	2.7	2.4	3.0	3.5	3.3
			K-8	3.2	3.1	2.7	3.4	4.3	3.4	3.2	2.9	2.5	3.1	3.6	3.2
渥美湾	蒲郡地先海域	C	○A-1	4.4	4.5	3.3	4.6	5.1	4.5	4.0	3.9	3.1	4.1	4.2	3.6
			○A-2	5.1	4.4	3.6	5.1	6.4	5.6	4.2	5.4	3.5	4.7	5.0	4.5
	神野・田原地先海域	C	○A-3	6.2	6.7	6.3	6.6	4.8	4.3	5.5	5.9	5.3	5.0	4.0	3.8
			○A-4	4.5	4.7	4.1	4.6	4.8	4.0	3.7	4.1	3.6	4.2	4.4	3.8
			A-11	4.2	5.7	4.6	4.2	3.4	3.6	3.9	5.1	4.2	3.8	3.4	3.3
			A-12	5.6	5.8	5.0	4.4	3.4	3.5	4.3	5.6	4.1	4.2	3.1	2.9
	渥美湾(甲)	B	○A-5	3.4	4.2	3.1	4.0	3.9	3.9	3.0	3.5	2.8	3.6	3.7	3.6
			○A-6	4.4	4.2	3.4	4.7	4.7	4.3	3.9	3.9	3.3	4.1	4.3	3.8
			A-10	4.5	4.8	3.7	4.6	5.1	4.2	4.6	4.1	3.5	4.3	4.7	4.0
			A-13	5.1	5.7	5.1	4.9	4.0	4.5	4.4	5.4	4.4	4.5	4.0	3.6
	渥美湾(乙)	A	○A-7	3.6	3.7	3.5	3.8	4.4	3.9	3.2	3.4	3.1	3.6	4.0	3.6
			○A-8	3.2	3.7	3.0	3.7	4.2	3.2	2.8	3.0	2.6	3.3	3.5	3.0
			○A-9	3.4	3.8	3.3	3.7	4.4	3.4	3.8	3.3	2.9	3.5	3.7	3.3
			A-14	3.5	3.2	2.6	3.7	4.0	3.3	3.0	2.8	2.4	3.4	3.7	3.1

注) 1. 地点名の○印は環境基準地点である。資料：公共用水域の水質調査(県環境局)
 2. 75%水質値は、海域におけるCODの環境基準適合状況を判断するためのものである。
 3. 各類型の基準値はA：2mg/ℓ以下、B：3mg/ℓ以下、C：8mg/ℓ以下である。

23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD（COD）の経年変化

(単位：mg/ℓ)

河川名	地点名	環境基準	75% 水質値						年平均値						
			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
木曾川	犬山橋	A. 2mg/ℓ	0.7	0.6	1.1	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.9	0.6	0.6	0.6
	濃尾大橋	A. 2 "	0.6	0.6	0.7	0.5	0.7	0.7	0.5	0.6	0.8	0.6	0.7	0.7	0.6
日光川	日光大橋	E. 10 "	4.8	3.2	3.4	4.3	6.8	4.0	4.4	2.9	3.2	3.4	5.0	4.0	
新川	萱津橋	E. 10 "	3.4	3.0	3.4	3.5	5.0	3.8	3.1	2.7	3.0	3.5	3.3	4.6	
五条川	待合橋	E. 10 "	3.1	1.5	2.5	2.1	2.9	2.1	2.4	1.2	2.1	2.1	2.3	1.9	
庄内川	枇杷島橋	D. 8 "	2.7	2.9	2.7	3.0	3.4	4.1	2.2	2.5	2.4	2.6	2.7	3.2	
矢田川	大森橋	D. 8 "	7.1	5.7	7.5	5.1	7.6	7.4	6.2	4.9	5.5	5.0	5.9	5.3	
荒子川	荒子川ポンプ所	E. 10 "	7.4	5.8	4.7	5.4	8.9	5.9	6.3	4.8	4.4	4.9	6.7	5.9	
中川	運東海橋	E. 10 "	10.0	8.2	9.7	7.6	6.8	17.0	7.8	6.3	8.3	6.3	5.7	12.0	
堀川	港新橋	D. 8 "	5.2	4.2	6.5	5.8	4.2	8.7	8.1	3.5	5.8	5.6	3.2	6.3	
境川	境大橋	C. 5 "	2.6	2.2	2.3	2.6	2.5	1.7	2.1	2.7	2.1	2.1	2.2	1.5	
逢妻川	境大橋	D. 8 "	2.2	3.0	2.8	3.0	2.4	1.8	3.5	3.1	2.0	2.4	2.2	1.5	
矢作川	明治用水頭首工	A. 2 "	1.0	0.9	0.9	0.8	0.5	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8	0.6	0.6	
"	米津大橋	B. 3 "	0.6	0.6	1.0	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.9	0.7	0.6	0.6	
矢作古	古川頭首工	C. 5 "	2.4	1.7	1.6	1.6	1.5	1.0	1.8	1.4	1.5	1.1	1.3	0.9	
豊川	江島橋	A. 2 "	0.9	0.7	0.7	0.7	0.5	0.5	0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	
"	吉田大橋	B. 3 "	0.9	0.8	1.0	0.9	1.0	1.0	0.7	0.7	0.8	0.9	0.8	0.8	
梅田川	御厩橋	C. 5 "	3.0	3.7	3.7	3.0	3.1	4.6	2.5	3.3	2.9	2.8	2.8	3.4	
油ヶ淵	中央	B. 5 "	7.5	7.2	7.4	7.4	6.9	8.1	6.9	6.5	6.9	6.7	6.5	6.6	

注) 油ヶ淵・中央については、CODの値である。

資料：公共用水域の水質調査（県環境局）

24 海域における全窒素・全磷の年平均値の経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域名	類型	地点名	全窒素						全磷					
			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
伊勢湾(イ)	IV	N-2	0.83	0.93	0.88	0.85	0.83	1.20	0.086	0.096	0.097	0.095	0.090	0.130
		N-3	0.53	0.60	0.60	0.60	0.54	0.53	0.055	0.066	0.073	0.069	0.060	0.061
		N-4	0.43	0.45	0.37	0.42	0.41	0.43	0.049	0.048	0.048	0.053	0.050	0.046
伊勢湾(ハ)	III	N-6	0.35	0.38	0.34	0.37	0.35	0.37	0.043	0.044	0.050	0.048	0.047	0.043
伊勢湾(ニ)	II	N-5	0.30	0.40	0.32	0.34	0.36	0.40	0.027	0.035	0.033	0.035	0.032	0.033
		N-7	0.33	0.37	0.28	0.34	0.37	0.39	0.028	0.032	0.027	0.032	0.038	0.025
		N-8	0.25	0.28	0.26	0.26	0.27	0.38	0.022	0.024	0.021	0.025	0.021	0.020
		N-9	0.23	0.26	0.26	0.30	0.29	0.32	0.026	0.022	0.016	0.023	0.018	0.016
		N-13	0.23	0.28	0.25	0.28	0.26	0.27	0.018	0.022	0.019	0.021	0.019	0.014
三河湾(イ)	IV	K-3	0.46	0.58	0.51	0.54	0.49	0.57	0.057	0.078	0.064	0.075	0.062	0.064
三河湾(ロ)	III	A-1	0.42	0.42	0.38	0.38	0.35	0.42	0.051	0.043	0.048	0.039	0.039	0.042
		A-4	0.55	0.56	0.46	0.47	0.53	0.68	0.075	0.061	0.052	0.049	0.066	0.075
		A-5	0.32	0.40	0.35	0.39	0.36	0.43	0.033	0.044	0.034	0.037	0.034	0.037
		A-6	0.40	0.44	0.40	0.41	0.41	0.46	0.046	0.049	0.048	0.040	0.042	0.044
三河湾(ハ)	II	K-4	0.38	0.37	0.41	0.38	0.35	0.40	0.039	0.042	0.042	0.041	0.033	0.036
		K-5	0.29	0.30	0.35	0.32	0.29	0.32	0.030	0.032	0.035	0.032	0.027	0.030
		K-6	0.29	0.28	0.27	0.31	0.32	0.35	0.030	0.029	0.026	0.026	0.028	0.027
		K-8	0.29	0.35	0.32	0.34	0.32	0.35	0.032	0.038	0.027	0.031	0.031	0.027
		A-7	0.28	0.36	0.33	0.38	0.34	0.36	0.027	0.035	0.030	0.032	0.032	0.029
		A-8	0.23	0.32	0.29	0.31	0.27	0.39	0.022	0.030	0.026	0.028	0.024	0.024
		A-9	0.32	0.32	0.31	0.35	0.30	0.33	0.040	0.033	0.028	0.032	0.027	0.028
		A-14	0.28	0.37	0.29	0.38	0.30	0.42	0.026	0.030	0.026	0.033	0.027	0.027

資料：公共用水域の水質調査（県環境局）

25-1 赤潮の経年変化（月別）

年度	月													県 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
2014	件 数	5 [3]	5 [1]	5	1	5 [2]	5 [1]	4	0	1 [1]	2	1	0	26 (27)
	日 数	34	28	31	6	28	23	21	0	18	13	1	0	203 (207)
2015	件 数	0	4	3	7	9 [2]	5	2	1 [1]	3 [1]	1	0	5	36 (36)
	日 数	0	6	4	35	44	17	9	20	20	23	0	6	184 (184)
2016	件 数	0	4	4 [1]	4	8 [1]	8 [3]	5	1 [1]	2 [1]	1 [1]	1 [1]	1	31 (31)
	日 数	0	13	21	19	58	22	49	8	22	31	6	1	250 (250)
2017	件 数	0	5	5 [3]	7 [4]	7	2	4	1	0	2	0	1	27 (27)
	日 数	0	26	28	90	75	13	17	3	0	21	0	1	274 (274)
2018	件 数	1 [1]	4 [1]	7 [1]	3	6 [1]	4	3	2	1	2	0	1	30 (30)
	日 数	2	46	20	39	24	11	45	4	8	22	0	13	234 (234)
2019	件 数	1	2	3 [2]	7	2 [1]	3	5 [2]	3 [1]	2	1 [1]	2	4	28 (28)
	日 数	17	18	47	77	9	26	20	50	18	17	31	6	336 (336)
2020	件 数	0	1 [1]	5	4	1	2 [1]	3	2	0	0	0	0	16 (16)
	日 数	0	8	29	20	1	24	16	11	0	0	0	0	109 (109)

注) 日数は延べ日数 資料：県水産試験場調べ
 []内の数字は前月から引き続いて発生した件数で内数
 () 内は渥美外海の発生件数を含む件数

25-2 赤潮の経年変化（水域別）

年度	水域	県 計	水域区分		
			伊勢湾	知多湾	渥美湾
2014	件 数	26 (27)	5	8	13
	日 数	203 (207)	38	51	114
2015	件 数	36 (36)	9	14	13
	日 数	184 (184)	22	59	103
1016	件 数	31 (31)	6	8	17
	日 数	250 (250)	56	31	163
2017	件 数	27 (27)	7	7	13
	日 数	274 (274)	93	67	114
2018	件 数	30 (30)	5	10	15
	日 数	234 (234)	67	55	112
2019	件 数	28 (28)	8	8	12
	日 数	336 (336)	83	102	151
2020	件 数	16 (16)	4	5	7
	日 数	109 (109)	8	19	82

注) 日数は延べ日数 資料：県水産試験場調べ
 () 内は渥美外海の発生件数を含む件数

25-3 苦潮発生状況とその漁業被害

年度	発生回数	水域区分			漁業被害
		伊勢湾	知多湾	渥美湾	
2014	2 (1)	0	0	2 (1)	定置網等の入網魚が一部衰弱
2015	4 (2)	0	0	4 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2016	14 (5)	0	0	14 (5)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2017	5 (2)	0	0	5 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
2018	6 (2)	0	0	6 (2)	魚介類の衰弱、へい死
2019	2 (1)	0	0	2 (1)	一部の漁場であさり稚貝のへい死
2020	2 (1)	0	0	2 (1)	魚介類の衰弱、へい死

資料：県水産試験場調べ

注) () 内は魚介類に影響が確認された件数（独立した発生地区ごとに1件とした）

26 漁港整備計画別事業費実績

(単位：千円)

	年度	水産基盤整備事業				農山漁村地域整備交付金					災害 漁港・海岸	県計
		流通	生産	機能保全	機能強化	漁村再生	漁港環境	漁集環境	水域環境	海岸		
第4次長計	2017	0	0	939,024	210,609	157,255	10,000	0	10,000	163,692	0	1,490,580
	2018	134,998	0	1,168,943	299,491	19,999	0	0	0	436,379	0	2,059,810
	2019	154,000	0	983,612	131,898	9,997	0	0	0	306,059	0	1,585,566
	2020	196,999	0	1,083,582	325,880	149,999	0	10,000	0	446,804	0	2,213,264
	計	485,997	0	4,175,161	967,878	337,250	10,000	10,000	10,000	1,352,934	0	7,349,220

資料：県水産課調べ

27 沿岸漁業構造改善事業等実績（国庫補助事業）

(1) 漁村コミュニティ基盤整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
産地水産業強化支援事業	2012～2013	渡船場上屋施設整備	1件	102,374	53,957	
水産業強化支援事業	2017～2018	渡船場上屋施設整備	1件	133,584	80,817	

資料：県水産課調べ

(2) のり養殖経営構造改善事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
産地水産業強化支援事業	2012～2016	のり共同加工場施設整備	1件	1,712,570	938,723	

資料：県水産課調べ

(3) 水産業競争力強化施設整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業競争力強化緊急施設整備事業	2016～2017	鮮度保持施設整備	1件	672,800	336,400	

資料：県水産課調べ

(4) のり競争力強化対策事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業強化支援事業	2017～2018	のり共同加工場施設整備	5件	237,575	142,304	

資料：県水産課調べ

(5) 水産業強化対策整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
水産業強化支援事業	2019～2020	鮮度保持施設	4件	149,300	75,030	

資料：県水産課調べ

(6) 水産業競争力強化施設緊急整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費＋県費	備考
地方創生臨時交付金	2020～2021	海水供給システム整備	1件	82,000	41,000	

資料：県水産課調べ

28 水産振興対策事業実績（県補助事業）
漁村活性化総合対策事業実績（2019・2020年度）

（金額単位：円）

年度	補助対象施設	事業主体	事業実施主体	事業内容	補助対象事業費	負担区分		
						県費	その他	
19	燃料等補給施設	常滑市	鬼崎漁協	地下燃料タンク腐食修繕	2,098,125	1,049,000	1,049,125	
		西尾市	西三河漁協	計量機改修及び地上タンク補修	2,143,000	1,071,000	1,072,000	
	水産物荷さばき施設	南知多町	師崎漁協	活魚倉庫の屋根改修	21,920,000	10,960,000	10,960,000	
			大井漁協	市場外壁修繕	2,616,000	1,308,000	1,308,000	
		碧南市	大浜漁協	荷捌き施設改修	4,483,996	2,241,000	2,242,996	
		西尾市	西三河漁協	照明（LED）取替	6,600,000	3,300,000	3,300,000	
	水産物鮮度保持施設	美浜町	野間漁協	冷蔵庫屋上防水及び2階底改修	7,000,000	3,500,000	3,500,000	
		南知多町	師崎漁協	冷凍冷蔵施設底改修	13,680,000	6,840,000	6,840,000	
	水産物加工処理施設	田原市	小中山漁協	のり集荷用の金属検出機	1,200,000	600,000	600,000	
	運搬施設	南知多町	師崎漁協	フォークリフト	1,490,000	745,000	745,000	
			片名・日間賀島漁協	フォークリフト	1,810,000	905,000	905,000	
			篠島漁協	フォークリフト	1,930,000	965,000	965,000	
	2019年度計					66,971,121	33,484,000	33,487,121
20	水産物荷さばき施設	南知多町	豊浜漁協	魚類移送機	8,890,000	4,445,000	4,445,000	
		碧南市	大浜漁協	魚市場の電気設備改修	6,970,000	3,485,000	3,485,000	
		西尾市	西三河漁協	照明（LED）取替	6,400,000	3,200,000	3,200,000	
			衣崎漁協	のり集荷場屋根改修	3,880,000	1,940,000	1,940,000	
	水産物鮮度保持施設	蒲郡市	蒲郡漁協	製氷施設自動化	30,500,000	12,915,000	17,585,000	
	漁業用作業保管施設	常滑市	鬼崎漁協	のり網脱水機	5,230,000	2,615,000	2,615,000	
	運搬施設	南知多町	片名・日間賀島漁協	ウインチ、レール取替	5,300,000	2,650,000	2,650,000	
			師崎漁協	フォークリフト	1,670,000	835,000	835,000	
			碧南市	大浜漁協	軽トラック	1,269,887	634,000	635,887
			西尾市	西三河漁協	梶島渡り棧橋改修	8,650,000	2,151,000	6,499,000
	2020年度計					78,759,887	34,870,000	43,889,887

29 漁場整備事業実績

(1) あさりとさかな漁場総合整備事業（公共）

年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考			
							千円	千円	千円	千円
第3次長計	11	19.9ha 10,301空m3	665,350	325,014	340,336	-	2013	愛知県海域・遠州灘	西尾、田原	高松西部、軍艦、高松中部
							2014	"	西尾、田原	
							2015	"	西尾、衣崎	
							2016	"	西尾、衣崎	
							2017	愛知県海域	西尾、田原	
第4次長計	9	19.9ha 5620.9空m3	671,176	326,732	344,444	-	2018	"	衣崎、田原	高松中部
							2019	"	西尾、田原	
							2020	"	西尾、田原	

資料：県水産課調べ

(2) 貝類増殖場造成事業（非公共）

年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考
2019	1	1.2ha	29,983	13,967	16,016	-	衣崎地区

資料：県水産課調べ

(3) 貝類増殖場造成事業（公共）

年度	箇所数	事業量	事業費	国費	県費	地元	備考		
							千円	千円	千円
第4次長計	3	3.5ha	93,354	44,550	48,804	-	2019	愛知県海域	幡豆、吉良
							2020	愛知県海域	吉田

資料：県水産課調べ

IV 漁業生産

30 漁業総生産

項目		年										
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
生産量 (t)	海面	漁業	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970	61,727	59,934
		養殖業	17,564	14,989	15,496	15,338	14,906	12,679	13,330	13,746	11,213	9,744
		計	98,609	92,467	90,667	96,377	95,855	84,735	91,041	83,716	72,940	69,678
	内水面	漁業	238	197	178	422	319	165	145	123	148	111
		養殖業	6,082	6,759	5,114	4,381	6,222	6,485	6,127	7,146	4,858	5,725
		計	6,320	6,956	5,292	4,803	6,541	6,650	6,272	7,269	5,006	5,836
	合計		104,929	99,423	95,959	101,180	102,396	91,385	97,313	90,985	77,946	75,514
きんぎょ (千尾)		11,267	15,646	13,504	11,802	9,195	8,527	8,495	5,987	6,745	6,547	
産出額 (百万円)	海面	漁業	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632	17,297	15,873
		養殖業	4,668	4,084	4,453	3,670	4,525	3,950	4,488	5,105	3,587	3,516
		計	22,088	20,256	22,955	20,174	21,261	21,925	18,894	17,737	20,883	19,390
	内水面	漁業	430	397	386	508	441	322	328	330	311	262
		養殖業	11,283	15,246	13,778	12,876	16,480	17,641	19,157	21,531	17,750	21,236
		計	11,713	15,643	14,164	13,384	16,921	17,963	19,485	21,861	18,061	21,498
	合計		33,801	35,899	37,119	33,558	38,182	39,888	38,379	39,598	38,944	40,888
うち きんぎょ		475	683	666	587	512	461	430	333	324	271	

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）、県水産課調べ

注) 内水面漁業の生産量、きんぎょは県水産課調べ。
内水面漁業・養殖業の産出額は、県水産課が推計。
小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量 (2019年)

(単位：t)

区分		海面漁業	海面養殖業
市町			
県計		59,934	9,744
常滑市		505	x
美浜町		x	x
南知多町		35,502	2,970
知多計		x	7,810
碧南市		x	—
西尾市		3,818	1,222
刈谷市		x	—
西三河計		x	1,222
蒲郡市		2,807	—
豊橋市		x	—
田原市		10,618	712
東三河計		x	712

注) 海面漁業生産統計調査に係る調査票情報を元に集計した数値。

32 海面漁業種類別地域別漁獲量

(単位：t)

年	地域別	沖合底 びき網	小型底 びき網	まき網	刺網	釣	その他 え縄	小型 定置網	船びき 網 ぱっち 網	採貝 採藻	その他 漁業	計
2010	県計	1,332	18,961	2,571	475	729	49	x	38,477	15,231	2,942	81,045
	知多	-	3,707	-	254	716	48	86	28,906	233	1,301	35,250
	西三河	-	x	2,571	x	-	-	x	7,834	5,069	x	x
	東三河	1,332	1,644	-	x	13	-	125	1,737	9,928	x	x
2011	県計	1,113	18,615	2,511	459	596	x	254	35,183	15,502	x	77,478
	知多	-	3,173	-	235	579	41	77	27,716	262	1,558	33,641
	西三河	-	x	2,511	x	3	x	64	6,183	4,623	x	x
	東三河	1,113	1,722	-	x	14	-	113	1,285	10,618	x	x
2012	県計	1,329	18,969	x	466	613	41	240	32,602	16,928	x	75,171
	知多	-	3,495	-	236	594	36	73	27,102	372	1,953	33,861
	西三河	-	13,873	x	x	4	5	51	4,405	6,124	x	x
	東三河	1,329	1,604	-	x	16	-	115	1,095	10,432	x	x
2013	県計	1,045	18,056	x	498	624	27	218	41,433	14,953	x	81,039
	知多	-	3,507	-	224	605	24	58	32,385	411	1,881	39,095
	西三河	-	13,427	x	198	2	2	53	7,535	5,670	x	x
	東三河	1,045	1,122	-	76	17	-	106	1,512	8,872	x	x
2014	県計	861	12,328	x	505	x	49	259	47,954	13,268	3,493	80,949
	知多	-	2,910	-	229	629	47	69	37,086	393	1,927	43,290
	西三河	-	8,354	x	235	1	2	51	9,584	4,644	x	x
	東三河	861	1,063	-	41	x	-	140	1,283	8,232	x	x
2015	県計	1,053	12,034	x	526	730	64	264	39,209	13,175	x	72,056
	知多	-	2,743	-	184	689	60	73	31,281	378	x	x
	西三河	-	8,127	x	268	2	2	46	6,756	3,737	x	x
	東三河	1,053	1,164	-	75	39	-	144	1,173	9,059	x	x
2016	県計	1,376	9,349	x	641	756	46	270	47,590	12,408	2,452	77,711
	知多	-	2,685	-	288	720	45	95	36,176	370	1,426	41,805
	西三河	-	5,641	x	x	1	1	42	9,991	1,909	x	x
	東三河	1,376	1,023	-	x	36	-	132	1,423	10,130	x	x
2017	県計	1,427	6,800	x	606	773	47	276	43,238	10,801	2,443	69,970
	知多	-	2,198	-	416	738	46	140	30,639	234	1,531	35,943
	西三河	-	3,718	x	x	1	1	17	11,257	351	x	x
	東三河	1,427	884	-	x	35	-	119	1,342	10,214	x	x
2018	県計	1,316	7,089	x	668	x	27	209	38,928	9,546	2,264	61,727
	知多	-	2,128	0	430	647	26	60	28,431	341	1,524	33,587
	西三河	-	3,937	x	x	x	0	19	9,667	445	x	x
	東三河	1,316	1,023	-	x	x	-	130	830	8,761	x	x
2019	県計	1,298	6,369	-	611	856	35	254	37,625		12,882	59,934
	知多	-	x	-	x	x	x	x	x		x	x
	西三河	-	x	-	x	x	x	x	x		x	x
	東三河	1,298	x	-	x	29	-	x	x		10,173	x

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）「採貝・採藻」は2019年より「その他漁業」に統合
2019年は海面漁業生産統計調査に係る調査票情報を集計した数値

33 海面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

年		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚	このしろ	539	982	274	385	253	179	112	122	110	193
	まいわし	2,481	4,229	1,141	1,263	5,927	11,904	18,764	30,209	23,787	10,905
	かたくちいわし	19,482	17,404	15,168	28,829	27,386	14,848	22,570	11,246	8,684	13,510
	しらす	5,382	6,492	7,433	6,229	8,936	11,445	8,445	5,039	6,821	11,433
	まあじ	444	296	292	303	180	228	214	211	189	379
	むろあじ類	63	77	184	130	134	30	27	20	13	12
	さば類	283	120	166	168	314	208	208	228	74	328
	ぶり類	38	43	68	70	53	68	81	101	74	181
	さわら類	17	22	27	31	40	65	68	148	222	269
	いかなご	11,589	6,777	8,209	4,827	6,230	2,247	—	—	—	—
	ひらめ	141	135	167	112	133	186	182	176	214	227
	かれい類	875	836	675	611	627	603	391	341	337	333
	あなご類	535	415	413	313	456	351	319	269	254	233
	たちうお	51	43	47	17	38	49	60	46	66	55
	にぎす類	536	331	556	418	377	419	419	426	351	351
	まだい	250	260	247	219	325	419	551	595	483	651
	くろだい※1	313	306	324	319	409	414	351	356	278	279
	いさき	15	14	20	22	40	22	30	22	27	24
	すずき類	529	515	516	563	542	598	629	458	443	425
	とらふぐ※2	69	63	63	36	61	82	57	69	39	42
あおめえそ※2	501	451	427	351	307	399	460	381	341	341	
その他魚類	2,953	3,133	2,925	2,504	2,102	2,562	2,919	2,338	2,331	3,148	
計	47,086	42,944	39,342	47,720	54,870	47,326	56,857	52,801	45,138	43,319	
貝類	あさり類	17,635	16,703	17,562	16,063	10,563	8,282	3,973	1,635	2,741	3,880
	さぎえ	41	63	40	46	47	62	71	83	65	42
	あわび類	2	1	3	4	2	2	2	2	1	1
	その他貝類	3,479	4,092	5,189	5,711	4,785	5,728	5,160	4,480	5,145	3,816
	計	21,157	20,858	22,793	21,823	15,398	14,074	9,206	6,200	7,952	7,739
水産動物類	するめいか	137	89	98	81	96	97	71	81	53	84
	その他いか類	829	724	847	783	947	586	559	630	441	499
	たこ類	446	673	604	702	280	414	594	346	157	520
	くるまえび	77	83	91	62	59	72	79	64	86	83
	よしえび※2	—	30	32	17	13	12	11	18	6	23
	その他えび類	1,281	1,530	694	652	714	731	764	365	829	356
	がざみ類	457	606	629	492	341	316	248	219	185	532
	その他かに類	47	48	56	34	39	48	41	47	79	80
	なまこ類※2	169	209	179	130	163	191	150	199	154	122
	しゃこ※2	518	414	377	205	323	266	216	103	216	104
その他水産動物類	8	26	58	82	44	68	99	45	167	105	
計	3,969	4,434	3,666	3,240	3,020	2,800	2,831	2,118	2,372	2,509	
藻類	8,833	9,242	9,370	8,256	7,661	7,856	8,817	8,851	6,265	6,367	
合計	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970	61,727	59,934	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

※1：「くろだい」は2018年以前は「くろだい・へだい」

※2：県調べの魚種（「なまこ類」は2018年以前は県調べ、2019年以降は国調べ）

34 海面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

年		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚	このしろ	43	38	19	30	21	20	15	21	24	22
	まいわし	342	237	120	153	356	631	901	1,297	897	502
	かたくちいわし	487	487	516	951	822	445	745	439	326	851
	しらす	2,481	2,571	4,400	2,155	3,592	5,219	3,724	2,786	6,746	5,185
	まあじ	377	174	198	225	138	148	163	151	138	107
	むろあじ類	10	12	15	12	12	3	5	4	3	2
	さば類	61	40	45	56	61	62	81	86	50	69
	ぶり類	31	38	53	38	35	47	53	52	39	130
	さわら類	8	21	21	29	32	52	59	125	201	204
	いかなご	1,182	583	624	816	910	510	-	-	-	-
	ひらめ	148	141	131	122	135	172	190	197	314	254
	かれい類	294	274	229	210	220	214	144	137	187	147
	あなご類	373	284	281	229	344	206	242	277	297	197
	たちうお	22	21	22	9	19	23	25	21	17	17
	にぎす類	100	81	90	75	83	84	82	85	67	79
	まだい	296	280	295	220	309	344	428	476	539	546
	くろだい・へだい	142	142	150	151	178	166	149	170	182	134
	いさき	18	24	33	29	38	24	34	23	22	12
	すずき類	290	309	311	303	296	313	323	264	231	236
	その他魚類	1,737	1,674	1,590	1,431	1,382	1,778	1,802	1,554	1,474	1,756
計	8,442	7,431	9,143	7,244	8,983	10,461	9,165	8,165	11,754	10,450	
貝類	あさり類	4,973	4,476	4,865	4,610	3,053	2,476	1,260	830	1,527	1,494
	さざえ	23	38	25	32	33	42	46	52	43	44
	あわび類	8	9	16	18	10	13	10	10	6	4
	その他貝類	1,632	1,706	2,091	2,427	2,508	2,841	1,739	1,659	1,930	1,755
	計	6,636	6,229	6,997	7,088	5,603	5,372	3,054	2,551	3,506	3,297
水産動物類	するめいか	32	21	25	21	26	27	22	26	23	30
	その他いか類	340	277	313	285	397	241	236	283	313	231
	たこ類	303	430	404	445	199	300	399	334	178	448
	くるまえび	313	336	325	269	263	370	436	380	345	362
	その他えび類	508	430	356	393	430	407	375	265	464	272
	がざみ類	301	445	400	337	278	241	203	183	155	369
	その他かに類	22	21	26	15	18	24	23	25	61	36
	その他水産動物類	435	478	439	334	454	461	388	278	316	206
計	2,254	2,437	2,287	2,106	2,072	2,071	2,081	1,774	1,855	1,954	
藻類	88	74	75	66	77	71	106	142	182	172	
合計	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632	17,297	15,873	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

35 海面漁業種類別魚種別漁獲量 (2019年)

(単位：t)

漁業種類 魚種	愛知県	うち、主な漁業種類							
		沖合底 びき網	小型底 びき網	船び き網	刺網	小 型 定置網	はえ縄	釣	その他 漁業
魚 類 計	43,319	1,141	2,916	37,545	447	228	35	849	153
さ め 類	5	0	4	-	-	0	-	-	-
こ の し ろ	193	-	7	94	21	72	-	0	-
ま い わ し	10,905	0	12	10,875	0	17	-	0	-
う る め い わ し	2	-	0	1	0	-	-	-	-
か た く ち い わ し	13,510	-	1	13,509	-	-	-	-	-
し ら す	11,433	-	-	11,433	-	-	-	-	-
ま あ じ	379	14	95	147	2	12	-	109	-
む ろ あ じ 類	12	-	8	0	1	1	-	2	0
さ ば 類	328	1	11	275	0	0	0	41	-
ぶ り 類	181	0	17	20	5	11	0	127	0
さ わ ら 類	269	-	81	13	121	0	0	50	-
い か な ご	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ひ ら め	227	3	157	0	6	4	0	57	0
か れ い 類	333	10	249	0	56	8	0	10	0
あ な ご 類	233	15	86	0	12	0	-	0	119
た ち う お	55	0	21	8	0	0	-	26	-
に ぎ す 類	351	200	151	-	0	0	-	0	-
ま だ い	651	15	528	24	15	1	0	69	0
く ろ だ い	279	31	191	1	18	15	-	23	0
い さ き	24	-	3	-	-	-	-	21	-
す ず き 類	425	0	259	58	16	29	0	63	0
ふ ぐ 類	184	4	126	5	5	5	31	8	0
そ の 他 魚 類	3,341	848	911	1,082	169	52	4	243	33
貝 類 計	7,739	0	1,722	-	18	2	-	-	5,996
あ さ り 類	3,880	0	294	-	-	-	-	-	3,586
さ ざ え	42	-	0	-	18	-	-	-	24
あ わ び 類	1	-	-	-	0	-	-	-	1
そ の 他 貝 類	3,816	0	1,428	-	1	2	-	-	2,385
水 産 動 物 類 計	2,509	157	1,731	80	146	24	0	7	366
す る め い か	84	17	67	-	-	-	-	-	-
そ の 他 い か 類	499	27	432	13	17	9	-	0	2
た こ 類	520	17	371	6	16	1	0	7	102
く る ま え び	83	-	68	-	14	0	-	-	-
そ の 他 え び 類	483	81	306	60	17	0	-	-	19
が ざ み 類	532	0	344	0	56	8	-	-	125
そ の 他 か に 類	80	13	30	-	20	5	-	-	11
な ま こ 類	122	-	26	-	2	-	-	-	94
う に 類	3	-	-	-	0	-	-	-	3
そ の 他 水 産 動 物 類	102	1	87	-	3	1	-	0	11
藻 類	6,367	-	0	-	-	-	-	-	6,367
合 計	59,934	1,298	6,369	37,625	611	254	35	856	12,882

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。
中・小型まき網、遠洋かつお一本釣、ひき縄釣は秘匿値のため含まない。

36 地域別のり生産枚数（暦年）

	地 域	生産量						産出額 (百万円)
		生換算重量 (単位：t)	板 の り				その他 生重量 (t)	
			生産枚数 (千枚)	くろのり (千枚)	まぜのり (千枚)	あおのり (千枚)		
2014	県 計	14,377	382,303	359,883	3,228	19,192	39	4,173
	知 多	11,811	313,913	313,913	—	—	39	—
	西三河	1,706	45,490	45,490	—	—	—	—
	東三河	861	22,901	481	3,228	19,192	—	—
2015	県 計	12,173	323,437	310,014	2,307	11,116	42	3,544
	知 多	10,439	277,268	277,268	—	—	42	—
	西三河	1,224	32,649	32,649	—	—	—	—
	東三河	510	13,520	97	2,307	11,116	—	—
2016	県 計	12,798	340,099	327,668	3,455	8,975	34	4,107
	知 多	10,961	291,375	x	x	—	34	—
	西三河	1,442	38,457	x	x	—	—	—
	東三河	396	10,266	108	1,183	8,975	—	—
2017	県 計	13,228	345,317	334,044	x	x	27	4,817
	知 多	11,312	300,933	x	x	—	27	—
	西三河	1,302	34,709	32,908	1,801	—	—	—
	東三河	615	9,675	x	1,905	x	—	—
2018	県 計	10,756	278,721	264,003	x	x	20	3,298
	知 多	8,820	234,658	x	x	—	20	—
	西三河	1,198	31,835	29,459	2,376	—	—	—
	東三河	739	12,228	x	3,583	x	—	—
2019	県 計	9,403	244,550	230,846	x	x	27	3,293
	知 多	7,588	201,616	x	x	—	27	—
	西三河	1,159	30,412	28,080	2,332	—	—	—
	東三河	657	12,522	x	3,067	x	—	—

注) 1月～12月

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

2003年からは、地域別の板のり生産額の統計データは公表されていない。

2019年は海面漁業生産統計調査に係る調査票情報を集計した数値。

37 地区別のり生産枚数（養殖年）

地区	年度	経営体数	養殖柵数（柵）			生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	1経営体当たり			1柵当たり		100枚当たりの平均単価（円）
			支柱柵	浮流柵	計			柵数（柵）	生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	生産枚数（枚）	生産金額（円）	
知多	2014	159	15,620	41,834	57,454	283,549	3,019,064	361	1,783	18,988	4,935	52,547	1,065
	2015	150	15,460	40,741	56,201	271,217	3,200,577	375	1,808	21,337	4,826	56,949	1,180
	2016	140	15,579	39,739	55,318	299,887	3,904,467	395	2,142	27,889	5,421	70,582	1,302
	2017	138	15,527	38,765	54,292	240,811	2,697,109	393	1,745	19,544	4,435	49,678	1,120
	2018	131	14,541	37,891	52,432	222,421	2,867,184	400	1,698	21,887	4,242	54,684	1,289
	2019	127	13,882	36,837	50,719	202,457	2,695,880	399	1,594	21,227	3,992	53,153	1,332
西三河	2014	21	6,533	0	6,533	35,323	451,112	311	1,682	21,482	5,407	69,051	1,277
	2015	21	6,552	0	6,552	34,900	477,380	312	1,662	22,732	5,327	72,860	1,368
	2016	21	6,578	0	6,578	37,678	571,658	313	1,794	27,222	5,728	86,905	1,517
	2017	19	6,006	0	6,006	32,854	458,037	316	1,729	24,107	5,470	76,263	1,394
	2018	18	5,620	0	5,620	30,990	479,503	312	1,722	26,639	5,514	85,321	1,547
	2019	18	5,818	0	5,818	24,359	372,003	323	1,353	20,667	4,187	63,940	1,527
東三河	2014	18	11,500	384	11,884	13,882	125,047	660	771	6,947	1,168	10,522	901
	2015	13	9,660	432	10,092	12,611	177,364	776	970	13,643	1,250	17,575	1,406
	2016	24	11,364	400	11,764	14,935	369,562	490	622	15,398	1,270	31,415	2,474
	2017	25	11,960	280	12,240	18,065	208,029	490	723	8,321	1,476	16,996	1,152
	2018	25	12,606	192	12,798	16,866	194,542	512	675	7,782	1,318	15,201	1,153
	2019	26	12,085	192	12,277	14,707	197,179	472	566	7,584	1,198	16,061	1,341
県計	2014	198	33,653	42,218	75,871	332,754	3,595,223	383	1,681	18,158	4,386	47,386	1,080
	2015	184	31,672	41,173	72,845	318,728	3,855,321	396	1,732	20,953	4,375	52,925	1,210
	2016	185	33,521	40,139	73,660	352,500	4,845,687	398	1,905	26,193	4,786	65,785	1,375
	2017	182	33,493	39,045	72,538	291,730	3,363,175	399	1,603	18,479	4,022	46,364	1,153
	2018	174	32,767	38,083	70,850	270,277	3,541,229	407	1,553	20,352	3,815	49,982	1,310
	2019	171	31,785	37,029	68,814	241,523	3,265,062	402	1,412	19,094	3,510	47,448	1,352

注) 年度は、11月から5月までとした。

生産は、黒生のり、青ばらのり、青生のりも板のり換算して含む。

経営体数は、黒のり及び青のり養殖者の合計。

資料：県水産課調べ

38 内水面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚種							
魚類	ます類	15	15	14	13	12	11
	あゆ	106	89	76	69	66	57
	こい	3	3	3	2	2	2
	ふな	4	5	5	5	3	3
	その他の	3	4	3	2	2	2
貝類(しじみ)		188	49	44	32	63	35
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		319	165	145	123	148	111

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。
「貝類(しじみ)」は農林水産統計公表値による。

資料：県水産課調べ

39 内水面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚種							
魚類	ます類	36	39	28	28	26	22
	あゆ	281	247	266	279	261	217
	こい	1	1	2	1	1	1
	ふな	1	2	3	3	3	1
	その他の	7	5	3	1	4	4
貝類(しじみ)		115	28	26	19	17	17
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		441	322	328	330	311	262

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。

資料：県水産課が全国平均単価をもとに推計

40 内水面養殖業魚種別収穫量

(単位：t)

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚種							
ます類		190	210	203	211	157	167
あゆ		1,114	1,160	1,182	1,156	1,220	1,171
こい		—	—	—	—	x	x
うなぎ		4,918	5,116	4,742	5,780	3,459	4,357
計		6,222	6,485	6,127	7,146	4,858	5,725

資料：内水面漁業生産統計調査(農林水産省統計部)

注) 2018年、2019年のます類は、にじますのみの数値(その他のます類は秘匿値)。

41 内水面養殖業魚種別産出額

(単位：百万円)

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019
魚種							
ます類		200	344	348	332	256	272
あゆ		1,895	2,058	2,081	1,671	1,840	1,766
こい		—	—	—	—	—	—
うなぎ		13,873	14,778	16,298	19,195	15,330	18,927
きんぎょ		512	437	430	333	324	271
計		16,480	17,617	19,157	21,531	17,750	21,236

資料：県水産課が全国平均単価をもとに推計、水産課調べ

注) ます類、あゆ、うなぎは県水産課が全国平均単価をもとに推計(こい、その他食用を除く)。

きんぎょは水産課調べ、前年12月1日から当年11月30日までの集計値。

42 観賞魚養殖状況

魚種		年					
		2014	2015	2016	2017	2018	2019
きんぎよ	経営体数	103	95	91	87	87	74
	養殖面積(ha)	70	66	64	60	60	52
	販売量(千尾)	9,195	8,527	8,495	5,987	6,745	6,547

資料：県水産課調べ

注) 年は前年12月1日から当年11月30日までを示す。

43 しらすうなぎ池入数量

(単位：kg)

地区		年度							
		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
県内産	海部	7	8	2	2	2	1	2	1
	碧海	9	4	11	92	66	16	0	7
	西三河	264	112	361	510	539	642	351	316
	東三河	20	5	89	31	23	134	21	68
	その他	0	0	0	0	0	0
	計	301	129	463	635	630	794	375	391
県外産	海部	45	31	61	45	52	53	16	32
	碧海	235	125	306	181	241	289	210	132
	西三河	1,369	817	2,453	2,412	2,217	2,475	1,313	655
	東三河	175	151	313	302	379	258	219	95
	その他	25	1	0	3	14	0
	計	1,824	1,123	3,157	2,941	2,889	3,078	1,773	914
外国産	海部	0	0	0	0	0	0	0	0
	碧海	128	127	133	45	71	66	72	126
	西三河	1,669	1,394	2,580	765	1,134	825	723	2,058
	東三河	10	32	45	0	0	0	18	76
	その他	0	34	28	30	0	30
	計	1,807	1,553	2,758	844	1,233	921	813	2,290
県計	海部	52	38	63	47	54	54	18	32
	碧海	372	256	450	318	378	371	282	265
	西三河	3,301	2,323	5,394	3,687	3,891	3,943	2,387	3,029
	東三河	205	188	447	333	401	392	258	239
	その他	25	35	28	33	14	30
	うち異種うなぎ	100	0	55	0	0	1
	計	3,931	2,805	6,378	4,420	4,752	4,793	2,960	3,595

資料：県水産課調べ

注) 2014年度からの年度表記は前年12月から当年5月とする。
 その他地区については、2014年度から調査実施。
 2014年度からは異種うなぎを含む数値。2013年度以前は不明。
 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格

区分		年					
		2014	2015	2016	2017	2018	2019
生鮮水産物	取扱数量	70,510	67,899	63,578	59,332	55,772	51,942
	取扱金額	59,314	60,619	59,056	57,270	55,648	53,627
	平均価格	841	893	929	965	998	1,032
冷凍水産物	取扱数量	24,320	23,728	22,466	20,344	20,573	19,334
	取扱金額	27,877	28,325	27,209	27,103	27,122	25,836
	平均価格	1,146	1,194	1,211	1,332	1,318	1,336
加工水産物	取扱数量	35,416	34,004	33,297	31,483	29,622	28,886
	取扱金額	30,699	30,930	30,595	30,793	30,806	29,359
	平均価格	867	910	919	978	1,040	1,016
加工食料品	取扱数量	14,270	14,594	14,062	13,550	13,184	13,490
	取扱金額	7,558	7,773	7,730	7,570	7,535	7,440
	平均価格	530	533	550	559	572	551
計	取扱数量	144,517	140,226	133,402	124,709	119,151	113,652
	取扱金額	125,447	127,647	124,589	122,736	121,111	116,262
	平均価格	868	910	934	984	1,016	1,023

取扱数量：t
取扱金額：百万円
平均価格：円/kg

資料：名古屋市中央卸売市場年報（名古屋市）

45 水産加工品生産量

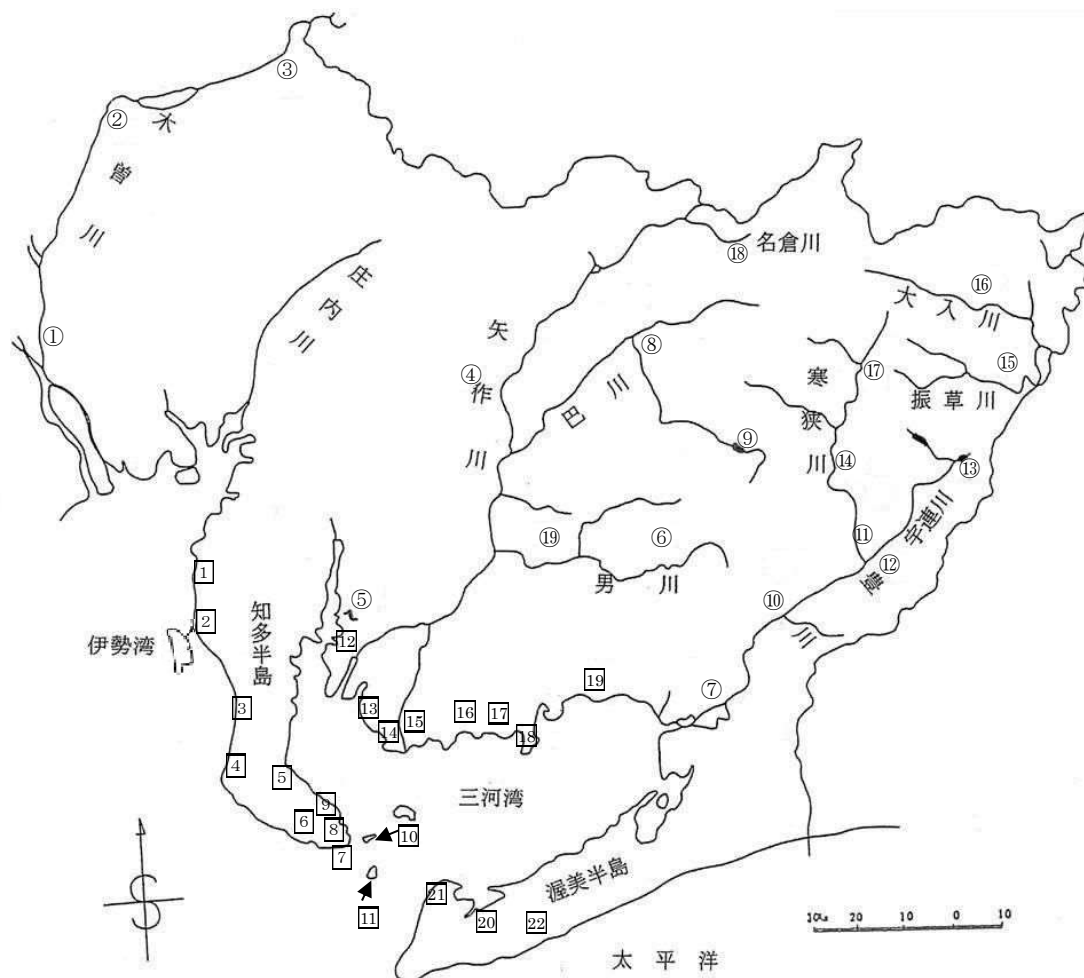
区分		年					
		2014	2015	2016	2017	2018	2019
ねり製	品	18,154	16,958	18,601	13,531	13,989	17,051
かまぼこ類		18,154	16,958	18,601	13,531	13,989	17,051
冷凍食品		13,171	11,264	10,626	10,982	11,806	10,110
素干し	品	48	48	64	34	146	3
塩干	品	744	865	715	789	675	751
煮干し	品	6,402	7,067	5,099	2,601	4,032	5,058
塩蔵	品	2,350	2,584	2,644	2,612	3,537	3,271
くん製	品	x	x	x	x	x	x
節製	品	x	x	x	2,240	1,875	1,595
その他食用加工品		9,950	10,819	10,444	10,534	9,573	9,312
焼・味付のり（千枚）		637,368	682,003	670,112	654,121	643,732	682,147
冷凍水産物		11,011	8,780	11,952	13,668	8,480	10,921

（単位：t）

資料：水産加工統計調査（農林水産省統計部）

(付 属 資 料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図



沿海漁業協同組合

1	鬼崎	11	篠島	21	小中山
2	常滑	12	大濱	22	愛知外海
3	小鈴谷	13	西三河		
4	野間	14	衣崎		
5	美浜町	15	吉田		
6	豊浜	16	幡豆		
7	師崎	17	東幡豆		
8	片名	18	蒲郡		
9	大井	19	三谷		
10	日間賀島	20	渥美		

内水面漁業協同組合

①	立田	⑪	寒狭川下
②	木曾川	⑫	三輪川下
③	愛北	⑬	宇連川
④	矢作川	⑭	寒狭川中部
⑤	油ヶ渚	⑮	振草川
⑥	男川	⑯	大入川
⑦	下豊川	⑰	寒狭川上流
⑧	巴川	⑱	名倉川
⑨	三河湖	⑲	岡崎市
⑩	豊川上		

47 2020年度（2020年4月～2021年3月）の主な水産年譜

年 月 日	内 容
2020. 4. 29	鈴木勝枝氏（愛知県漁協女性部連絡協議会会長）旭日双光章
9. 8	漁業士認定（於名古屋市・愛知県庁）
9. 17	山本昌弘氏（豊浜漁業協同組合代表理事組合長）漁協運動功労者表彰
10. 8	知事によるダム堆積砂や河川掘削土の海域への利用に関する国への要請
10. 12～16	弥富金魚の新品種「サクラチョウテンガン」の公表及び本庁舎での展示（於名古屋市・愛知県庁）
10. 21	山本米司氏（蒲郡漁業協同組合代表理事組合長）社団法人大日本水産会水産功績者表彰
10. 21	壁谷増光氏（愛知県沖合底びき網漁業協会会長）社団法人大日本水産会水産功績者表彰
10. 31～11. 1	金魚養殖業支援事業「弥富の金魚拡散大作戦！！」（於弥富市・海南こどもの国）
11. 18	小堀彰彦氏（愛知県淡水養殖漁業協同組合代表理事組合長）県条列表彰
11. 20	愛知県漁業調整規則（改正）の公布
11. 20	愛知県漁連会長及び自民党愛知県議員団水産議員連盟会長による国への予算要望
11. 21～22	金魚養殖業支援事業「弥富の金魚拡散大作戦！！」（於長久手市・愛・地球博記念公園（モリコロパーク））
11. 26	「新しいうなぎ養殖技術」の記者発表
12. 1	漁業法（改正）の施行
12. 1	愛知県漁業調整規則（改正）の施行
12. 1	第21期愛知県内水面漁場管理委員会委員選任
12. 16	「食と緑の基本計画2025」の策定・公表
12. 12～13	金魚養殖業支援事業「弥富の金魚拡散大作戦！！」（於名古屋市・名古屋港水族館）
12. 25	「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2025」の策定・公表
2021. 2. 26～3. 12	令和2年度水産試験場研究発表会（WEB公開）
3. 31	「愛知県漁業振興計画」策定・公表

48 愛知県の水産業に関する地勢

項 目	数 量	出 典
海 岸 線 総 延 長	597 km	海岸統計 2020年度版（国土交通省河川局）
法 河 川 延 長	2,965km	県建設局（2021年4月1日現在）
伊 勢 湾 面 積	1,738 km ²	伊勢湾、三河湾及び東京湾の形態と汚染負荷（西条・宇野木、1979）
三 河 湾 面 積	604 km ²	

動向調査資料 No. 180 水産業の動き

2021年11月発行

愛知県農業水産局水産課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1-2

電話 (052) 961-2111 (代表) 内線 3783・3786
(052) 954-6458 (ダイヤルイン)

FAX (052) 951-1645

E-mail suisan@pref.aichi.lg.jp

Home page <https://www.pref.aichi.jp/suisan/>



この用紙は、間伐材印刷用紙です。



あいちの四季の魚

